

授 業 科 目 名	キャリア教育		
担 当 者 名	橋元 隆・中村 吉男		
科 目 コ ー ド	1200005	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修 方 法	卒業・作業療法士必修
授業の概要と方法	仕事において専門知識・技術を持つことは当然のことながら、その一人ひとりの人格が最も大切な仕事上のベースとなる。個人の人格を主体とし、社会人としての明確な天職の自覚意識形成を不可欠である。専門的な知識・技術及び国家資格の取得と共に、明確な仕事に対する天職としての「務め意識」への信念と使命感について教授する。建学の精神に基づく人格教育の部分と、社会人・医療人として働くことの意義・価値を認識する講義内容とする。		
授業の到達目標	○建学の教育理念に基づく行事教育や人格教育、生活指導教育と本学の専門的教科教育・就職支援の取り組みについて理解できる。 ○自らが目指す理学療法士・作業療法士像を探求し、それにむかっの短・中期プランを構築できる。		
授 業 計 画			
1.	キャリアとは何か (橋元)		
2.	医療の動向(特にリハビリテーション医療の流れについて) (橋元)		
3.	キャリア教育学総論Ⅰ (中村)		
4.	理学療法士・作業療法士の現況と就労状況 (橋元)		
5.	理学療法士・作業療法士の卒前・卒後教育 (橋元)		
6.	わが国における地域医療について：特別講義 理学療法士・作業療法士に望まれること 特別講義：西島英利 (橋元)		
7.	理学療法士・作業療法士の展望 (橋元)		
8.	理学療法士・作業療法士の社会的責務 (橋元)		
9.	キャリア教育学総論Ⅱ (中村)		
10.	学内行事への参加：建学の精神 学長講話 (橋元)		
11.	学内行事への参加：針供養・学内成人式の意義 学長講話 (橋元)		
12.	若年者啓発セミナー：特別講義 悪徳商法と対処法 福岡県消費者生活センター (橋元)		
13.	若年者啓発セミナー：特別講義 年金制度のついて 小倉南年金事務所 (橋元)		
14.	社会人としてのマナー：飲酒・喫煙 (橋元)		
15.	理学療法士・作業療法士に望まれる資質 (橋元)		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
※その他欄参照			
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
教室だけのものだけでなく専門職を目指す自らの将来について夢を描き、それを実現するために日常から友人・教職員と語り合うことが重要です。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
※その他欄参照			
参考書又は参考資料等			
中村：①「建学の精神とキャリア教育」②「キャリア教育学としての組織論」 ③「キャリア教育におけるストレスコントロールのための考察 -ストレス反応における病理学・解剖生理学的考察を中心にして-」 橋元：適宜、資料を配布する。			
そ の 他 (受講生への要望等)			
※成績評価については、講義内の議論に主体的に参加して、問題点の指摘と自ら提案する姿勢を評価する。 担当者別の評価の割合は、橋元：80%、中村：20%とする。 課題(レポート)の提出状況や授業への取組み姿勢も評価の対象とする。 ※テキストについて 橋元：毎回講義資料を配布する。 中村：「キャリア教育学総論」 中村吉男 著 ・自ら目指すリハビリテーションの専門職として、夢を言葉として表現することから始めましょう。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail		その他	
中村：nakamura@knwu.ac.jp 橋元：hashimoto@knwu.ac.jp		講義終了後の質問等対応可。	

授 業 科 目 名		食と福祉	
担 当 者 名		藤野 博史	
科 目 コ ー ド	1000003	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修 方 法	卒業・作業療法士選択必修
授 業 の 概 要 と 方 法	<p>人間の健康に食が密接な関係を持っている。「食」を取り巻く環境の変化により、肥満や生活習慣病の増加により、健康の保持・増進及び生活の質（QOL）の向上を妨げている。本講義では、</p> <p>①本学の教育理念 ②国民の健康と栄養の現状 ③栄養学の基礎と歴史 ④高齢化社会と食、子どもの食生活の現状、食育 ⑤専門職と食、</p> <p>について取り上げ、食と人間生活を取り巻く諸問題について理解するとともに、食を通して福祉を実現するためにはどうしたらいいかを考える。</p>		
授 業 の 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・健康と栄養の現状について現状を把握し、食を通して福祉（幸せ）を実現するためにはどうしたらよいかを考察する。 ・栄養学が学問として形成される歴史に触れ、先人たちの努力の跡を理解する。 ・重要な摂食行動の仕組みを学び、栄養学に加えて、脳の関わりについて理解する。 ・健康を守る職業人としてのあるべき姿について考える。 		
授 業 計 画			
1.	講義の進め方。受講者自身の健康と食生活を考える。精進料理の意味を考える（DVD 視聴）		
2.	食と福祉の基本理念（本学教育思想）について考える。（資料：九州栄養福祉大学の教育思想）		
3.	福祉（幸せ）と食について。健康とは（WHO の定義）。国民の健康と栄養の現状。		
4.	栄養学の基礎：栄養とは、細胞と内部環境、人体栄養学（化学的根拠と、人体）、食物栄養学、食養生		
5.	栄養学の歴史と発展（1）：栄養学の成立（体内の燃焼）		
6.	栄養学の歴史と発展（2）：消化と吸収		
7.	栄養学の歴史と発展（3）：ビタミンの発見の歴史		
8.	栄養学の歴史と発展（4）：エネルギー代謝、栄養学と社会		
9.	人間活動における食欲（1）：脳における食欲（視床下部を中心に）		
10.	人間活動における食欲（2）：脳における食欲（食欲のしくみ）		
11.	人間活動における食欲（3）：人の食欲と食生活（食欲の制御は可能か）		
12.	高齢化社会における現状と問題点、老化と食生活		
13.	子どもの食生活の現状、食育を考える		
14.	専門職（理学療法士、作業療法士）と食		
15.	まとめ（食を通して福祉を実現するには）		
成 績 評 価 の 方 法 【評価項目と割合】			
定期試験	小テスト	レポート	
85%	10%	5%	
授 業 外 で 行 う べ き 学 習 （ 準 備 学 習 ・ 事 後 学 習 等 ）			
<ul style="list-style-type: none"> ・テキストについては全てに触れることはできないので、可能な限り授業外で熟読しておくこと。 ・適宜、課題を出すので、その課題に取り組むこと。 			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
栄養学を拓いた巨人たち	杉 晴夫	ブルーバックス 講談社	
食欲の科学	櫻井 武	ブルーバックス 講談社	
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
○「国民衛生の動向」厚生労働統計協会 編（厚生労働統計協会） ○「国民健康・栄養の現状」（第一出版）			
○「食育白書」内閣府 編（勝美印刷） ○「高齢化白書」内閣府 編（日経印刷）			
そ の 他 （ 受 講 生 へ の 要 望 等 ）			
<ul style="list-style-type: none"> ・適宜、関係 DVD を映写する。その際は必ずレポートを求める。 ・配布資料については、授業で触れることのできない場合もあるので、熟読していただきたい。 			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail	その他		
講義開始後に連絡をします	講義終了後の質問等対応可		

授 業 科 目 名	食と哲学		
担 当 者 名	吉田 正史		
科 目 コ ー ド	1200092	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	卒業・作業療法士選択必修
授業の概要と方法	食の根本的意義や食をめぐる諸問題を哲学的視点から考察してみたい。具体的には様々な食思想の紹介が中心となるが、最初の数時間は、本学の「建学の思想」についても講じてみたい。また全体を通じて論理的思考力を涵養することも狙いの一つとしている。		
授業の到達目標	代表的な食思想の理解を通して、食の根本的意義や食をめぐる諸問題を出来るだけ多くの観点からまた出来るだけ深く自ら論理的に考察する力を獲得する。また本学の「建学の思想」についての理解を深める。		
授 業 計 画			
1.	はじめに		
2.	建学の思想	本学園の歴史	
3.	建学の思想	勇気・親和・愛・知性 ―筑紫の心―	
4.	食思想の様々	道元① その生涯と著作	
5.	食思想の様々	道元② 「食は諸法の法なり」	
6.	食思想の様々	道元③ 「五観の偈」	
7.	食思想の様々	道元④ 「典座教訓」	
8.	食思想の様々	道元⑤ 「喜心、老心、大心」	
9.	食思想の様々	貝原益軒① その生涯と著作	
10.	食思想の様々	貝原益軒② 天地父母の大恩と養生	
11.	食思想の様々	貝原益軒③ 養生の要	
12.	食思想の様々	貝原益軒④ 天寿	
13.	食思想の様々	貝原益軒⑤ 飲食の心得	
14.	食思想の様々	水野南北 慎食と禍福	
15.	まとめ		
成績評価の方法 【評価項目と割合】			
定期試験			
100%			
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
・授業中に指示した参考図書を読むことが望ましい。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
・適宜資料等を配布する。			
参考書又は参考資料等			
・『九州栄養福祉大学の教育思想』（非売品）。			
・その他参考図書は授業中に適宜指示する。			
そ の 他（受講生への要望等）			
自分で考える姿勢が大切です。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
yoshida@knwu.ac.jp			

授 業 科 目 名	食と健康		
担 当 者 名	米倉 政実		
科 目 コ ー ド	1200001	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修 方 法	卒業・作業療法士選択必修
授業の概要と方法	<p>外食や出来あいの弁当・サプリメントといった食生活をする人が少なくない昨今、この授業では生活の基本である「食」の心と体の健康に対する重要性について学びます。健康に良い食習慣に関する基礎的事項を身につけることを目標とします。</p>		
授業の到達目標	<p>①リハビリにかかわる仕事につく上での食の重要性を理解する。 ②リハビリにかかわる仕事につく上での食の安全性を理解する。 ③食生活と健康の関わりを理解する。 ④栄養素の種類と働きを理解する。 ⑤生体調節機能成分の働きを理解する。</p>		
授 業 計 画			
1.	ガイダンス、Ⅰ食品学 1.食品成分の化学 1)栄養素：p.1-7		
2.	2)嗜好成分～3)食品成分の変化：p.7-13		
3.	2.食品学各論 1)植物性食品：p.13-20		
4.	2)動物性食品～3)その他の食品：p.20-28		
5.	3.食品の規格 1)JAS規格～3)国際規格：p.28-33		
6.	Ⅱ食品機能 1.食品の機能～2.栄養強調表示と健康強調表示：p.39-46		
7.	3.保健機能食品～4.特別用途食品：p.46-54		
8.	Ⅲ食品加工学 1.食品保存の原理：p.57-66		
9.	2.食品包装～3.農産食品の加工：p.66-76		
10.	4.水産食品の加工～5.畜産食品の加工：p.76-87		
11.	6.発酵食品：p.87-93		
12.	Ⅳ食品衛生学 1.微生物による食中毒：p.97-106		
13.	2.化学物質による食品汚染～4.寄生虫症：p.106-116		
14.	5.食品添加物：p.116-126		
15.	6.HACCP（ハサップ）～7.食品衛生行政：p.126-130、まとめ		
成績評価の方法 【評価項目と割合】			
定期試験			
100%			
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
<p>①準備学習として、授業計画に従って前もって教科書の該当部分のページを読んでおく。 ②事後学習として、授業で学習した教科書部分を講義ノートに簡潔にまとめながら、復習する。</p>			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
エスカーベーシック 食べ物と健康	田島 眞 編著	同文書院	
参考書又は参考資料等			
特になし			
そ の 他（受講生への要望等）			
<p>食品は人が生きて行くうえで欠かせないものであり、健康な生活を送るには良い食習慣を持つことが重要です。リハビリに携わる上でも食の知識は大切ですので、食と健康に関する基礎的知識を身につけてください。</p>			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
yonekura@knwu.ac.jp			

授 業 科 目 名	栄養カウンセリング		
担 当 者 名	松本 明夫		
科 目 コ ー ド	1200002	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	卒業・作業療法士選択必修
授業の概要と方法	食事療法を受けなければならない患者は、長い年月をかけてつくりあげられた食習慣を大きく変える必要に迫られる。これは簡単にできることではない。こうした場面では、まず患者につらく苦しい胸のうちのじっくり語ってもらって、感情的な問題を解決する必要がある。そのためには、そうした話をしっかり傾聴してくれて、パートナーとして一緒に治療に取り組んでくれる栄養カウンセラーの存在が必要である。そこで、本講義では栄養カウンセラーが身につけるべき基本的知識と技能の習得を目的とする。		
授業の到達目標	1)栄養カウンセリングの基本的態度と技法を身につけ、栄養教育に活用することができる。 2)クライアントとの直接的な接遇の要点を理解し、適切なコミュニケーションを行うことができる。 3)拒食・過食症、アルコール依存症者の心理を理解し、クライアントを具体的に支援することができる。 4)行動科学の諸理論に関する知識を身につけ、食行動変容に役立てることができる。		
授 業 計 画			
1.	栄養カウンセリングとは何か？		
2.	栄養カウンセリングの実際		
3.	患者とのコミュニケーションについて		
4.	精神分析療法について		
5.	来談者中心療法について		
6.	個人の行動変容に関する理論(1) 刺激-反応理論など		
7.	個人の行動変容に関する理論(2) トランスセオレティカルモデルなど		
8.	個人間の行動変容に関する理論		
9.	集団や社会の行動変容に関する理論		
10.	行動変容技法の応用(1) 刺激統制など		
11.	行動変容技法の応用(2) 認知再構成など		
12.	拒食症について		
13.	過食をコントロールするためのプログラム		
14.	飲酒のコントロール		
15.	まとめ		
成績評価の方法	〔評価項目と割合〕		
コメントシート	レポート	定期試験	
30%	20%	50%	
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
	・事後に復習に励んで下さい。レポート課題は次回の講義時に担当教員に提出して下さい。		
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
・適宜、プリントを配布する。			
参考書又は参考資料等			
	○「演習栄養教育 〔第6版〕」大里進子、城田知子、矢野治江 編著 (医歯薬出版株式会社)		
	○「イラスト栄養教育・栄養指導」大里進子、城田知子 他 (東京教学社)		
	○「ライフスタイル療法 I 〔第3版〕」足達淑子 (医歯薬出版株式会社)		
そ の 他 (受講生への要望等)			
	・本講義では栄養学の知識 (望ましい食生活の在り方) については扱いません。		
	・行動科学とカウンセリングを栄養指導に応用する方法について講じます。		
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
a-matsumoto@knwu.ac.jp			

授 業 科 目 名	北九州市のノーマライゼーション (ESD)		
担 当 者 名	大丸 幸・橋元 隆		
科 目 コ ー ド	1200071	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	卒業・作業療法士選択必修
授業の概要と方法	当大学のテーマとして、地域住民が障害の有無や年齢、性別等にかかわらず互いに支えあい、住みよい街づくりをめざすために「ノーマライゼーション」を掲げている。本演習では、1970年代より全国にさがし、ノーマライゼーションの実践に携わってきた多くの先輩セラピストが在職する本市において、その想いを近隣の学生とともに学び、継承し発展させることを目標とする。		
授業の到達目標	リハビリテーションが目指すノーマライゼーションとは、単に身体障害、精神障害、発達障害、高齢期障害と分野別に区切られた世界ではなく、どのような状況にあっても対象者が「その人らしい生活」を続けていけるよう支援していくことを基本理念としている。ここでは「お互い様」「相手の立場や状況の発見」等々を知り合える体験から、北九州市における「ノーマライゼーションの地域づくり」をとともに考えていく。		
授 業 計 画			
1.	世の中ってどうなっているの？をちょっと理解する① ESD とは？		
2.	世の中ってどうなっているの？をちょっと理解する② グループ演習		
3.	世の中ってどうなっているの？をちょっと理解する③ ワークショップ		
4.	子孫たちから借りている地球① ダイアログ		
5.	子孫たちから借りている地球② 話題提供		
6.	子孫たちから借りている地球③ ワークショップ		
7.	北九州市におけるノーマライゼーションの実際① 話題提供		
8.	北九州市におけるノーマライゼーションの実際② ワークショップ		
9.	北九州市におけるノーマライゼーションの実際③ グループ演習		
10.	豊かに楽しく食べる事① ダイアログ		
11.	豊かに楽しく食べる事② グループ企画		
12.	豊かに楽しく食べる事③ ワークショップ		
13.	チーム対抗の発表会① 発表準備		
14.	チーム対抗の発表会② 振り返り		
15.	チーム対抗の発表会③ まとめ		
成績評価の方法 【評価項目と割合】			
「まちなか ESD センターにおける共同授業の実施および単位互換に関する包括協定書」に基づき、講義への取り組み		最終レポート	
50%		50%	
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
各回、次回講義への課題が提出されるため2時間程度の事前学修が必要となる。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
なし			
参考書又は参考資料等			
適宜、参考書の紹介がなされる。			
そ の 他（受講生への要望等）			
本講義は ESD「持続可能な開発のための教育」(Education for Sustainable Development)の一環として、北九州市内 10 大学が連携して取り組む持続可能な社会の実現を目指し、私たち一人ひとりが世界の人々や将来世代、環境との関係性の中で生きていることを認識し、よりよい社会づくりに参画するための力を育むことを目的とした講座です。学生間交流による幅広い学びが期待されます。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail		その他	
大丸：ohmaru@knwu.ac.jp			

授 業 科 目 名		北九州市のノーマライゼーション (ESD)	
担 当 者 名		大丸 幸・橋元 隆	
科 目 コ ー ド	1200088	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修 方 法	卒業・作業療法士選択必修
授業の概要と方法	当大学のテーマとして、地域住民が障害の有無や年齢、性別等にかかわらず互いに支えあい、住みよい街づくりをめざすために「ノーマライゼーション」を掲げている。本演習では、1970年代より全国にさがし、ノーマライゼーションの実践に携わってきた多くの先輩セラピストが在職する本市において、その想いを近隣の学生とともに学び、継承し発展させることを目標とする。		
授業の到達目標	リハビリテーションが目指すノーマライゼーションとは、単に身体障害、精神障害、発達障害、高齢期障害と分野別に区切られた世界ではなく、どのような状況にあっても対象者が「その人らしい生活」を続けていけるよう支援していくことを基本理念としている。ここでは「お互い様」「相手の立場や状況の発見」等々を知り合える体験から、北九州市における「ノーマライゼーションの地域づくり」をともに考えていく。		
授 業 計 画			
1.	リノベーションまちづくりから学ぶ持続継続可能な社会①	話題提供	
2.	リノベーションまちづくりから学ぶ持続継続可能な社会②	所外演習	
3.	リノベーションまちづくりから学ぶ持続継続可能な社会③	ワークショップ	
4.	今、世界で起こっていること ①	話題提供	
5.	今、世界で起こっていること ②	ゲスト紹介	
6.	今、世界で起こっていること ③	ワークショップ	
7.	まちのにぎわいを自分たちの手でつくる①	グループ演習	
8.	まちのにぎわいを自分たちの手でつくる②	学外演習	
9.	まちのにぎわいを自分たちの手でつくる③	グループ創作	
10.	生物多様性をのぞいてみる ①	話題提供	
11.	生物多様性をのぞいてみる ②	学外演習	
12.	生物多様性をのぞいてみる ③	ワークショップ	
13.	微力だけど無力ではないぼくたちが創る「みんなが幸せな未来」①	発表準備	
14.	微力だけど無力ではないぼくたちが創る「みんなが幸せな未来」②	振り返り	
15.	微力だけど無力ではないぼくたちが創る「みんなが幸せな未来」③	まとめ	
成 績 評 価 の 方 法 【評価項目と割合】			
「まちなか ESD センターにおける共同授業の実施および単位互換に関する包括協定書」に基づき、講義への取り組み		最終レポート	
50%		50%	
授 業 外 で 行 う べ き 学 習 (準 備 学 習 ・ 事 後 学 習 等)			
各回、次回講義への課題が提出されるため2時間程度の事前学修が必要となる。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
なし			
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
適宜、参考書の紹介がなされる。			
そ の 他 (受 講 生 へ の 要 望 等)			
本講義は ESD「持続可能な開発のための教育」(Education for Sustainable Development)の一環として、北九州市内10大学が連携して取り組む持続可能な社会の実現を目指し、私たち一人ひとりが世界の人々や将来世代、環境との関係性の中で生きていることを認識し、よりよい社会づくりに参画するための力を育むことを目的とした講座です。学生間交流による幅広い学びが期待されます。			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail		その他	
大丸 : ohmaru@knwu.ac.jp			

授 業 科 目 名	社会福祉と地域ケア		
担 当 者 名	田中 保尚		
科 目 コ ー ド	1200013	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	卒業・作業療法士必修
授業の概要と方法	近年注目されている「地域ケア」と関連づけながら、社会福祉の形成過程や現在の課題を講義していく。社会福祉における政策論や援助論を解説するが、現場での事例や対応を紹介して理解を深めるように努めていく。 また、授業の進行に合わせて資料などを配付する。		
授業の到達目標	1. 社会福祉の形成や意義、制度や施策について理解する。 2. 援助活動の基礎的方法論を理解する。 3. 保健・医療・福祉の専門職、行政や地域の資源（人材や仕組み）が協力して住民を支えている状況を理解する。		
授 業 計 画			
1.	社会福祉とは		
2.	社会福祉の援助活動		
3.	社会福祉の個人援助と集団援助		
4.	社会福祉の政策		
5.	福祉国家の形成（イギリスの歴史的展開を中心に）		
6.	日本の社会福祉のあゆみ（戦前：慈善事業から社会事業へ）		
7.	日本の社会福祉のあゆみ（戦後：急速な少子高齢化と福祉制度改革）		
8.	社会福祉の運営（対象）		
9.	社会福祉の運営（行財政）		
10.	社会福祉の運営（国、地方自治体の役割）		
11.	社会福祉の運営（サービスを提供する仕組み）		
12.	地域包括ケアシステムとは		
13.	福祉のマンパワー		
14.	社会福祉の理念（ノーマライゼーション、クオリティ・オブ・ライフ）		
15.	社会福祉の理念（エンパワメント）		
成 績 評 価 の 方 法 〔評価項目と割合〕			
定期試験	レポート		
90%	10%		
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、授業までにテキストを講義の項目の部分を読んでおくこと。 ・講義時に提供する事例について、各自で検討しておくこと。 			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
社会福祉をつかむ【改訂版】	稲沢公一、岩崎晋也	有斐閣	
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉小六法（ミネルヴァ書房） 			
そ の 他（受講生への要望等）			
<ul style="list-style-type: none"> ・講師に積極的に疑問点を提起すること。受講生の質問に対し回答します。 ・行政機関、高齢者施設、障害者施設。児童施設などの施設や在宅サービス事業者を、ボランティア活動やインターンシップとして訪問し、保健福祉の現場の様子を体験することを推奨する。 			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail	その他		
tanakaya1951@clock.ocn.ne.jp			

授 業 科 目 名		食と農園	
担 当 者 名		佐野 幹剛、室井 由起子	
科 目 コ ー ド	1200093	授 業 形 態	演習
学 年	1	開 講 期	通年
単 位 数	1	履 修 方 法	選択
授業の概要と方法	人の健康生活の基盤となる「食と運動」を連動的にとらえるために、学生は土づくりから始め、畑を耕し、種をまき、草をとり、肥料を与えるといった実学教育の中で、植物の生命力、仲間とのふれあい、自然の恵みに対する感謝、作物に関する知恵を学ぶ。また、学生は、畑で収穫した野菜の栄養成分や栄養価について学ぶ。		
授業の到達目標	○農園作業を体験し、作物の成長までの過程を理解することができる。 ○作業に伴う身体的精神的特性を理解することができる。 ○畑で収穫した野菜の栄養成分や栄養価について理解することができる。		
授 業 計 画			
1.	前期コースオリエンテーション、農園実習について	16.	後期コースオリエンテーション
2.	夏野菜を育てよう① 土づくり、苗床づくりの基本	17.	秋・冬野菜を育てよう① 土づくり、苗床づくりの基本
3.	夏野菜を育てよう② 土づくり、苗床づくりと身体的作業負担について	18.	秋・冬野菜を育てよう② 土づくりの実際
4.	夏野菜を育てよう③ 種蒔きの準備	19.	秋・冬野菜を育てよう③ 苗床づくりの実際
5.	夏野菜を育てよう④ 種蒔き	20.	秋・冬野菜を育てよう④ 種蒔きの基本
6.	夏野菜を育てよう⑤ サツマイモ畑づくりの準備	21.	秋・冬野菜を育てよう⑤ 種蒔きの準備
7.	夏野菜を育てよう⑥ サツマイモ畑づくり	22.	秋・冬野菜を育てよう⑥ 種蒔き
8.	夏野菜を育てよう⑦ サツマイモ畑の苗床づくりの準備	23.	秋・冬野菜を育てよう⑦ 畑のメンテナンス(除草作業)
9.	夏野菜を育てよう⑧ サツマイモ畑の苗床づくり	24.	秋・冬野菜を育てよう⑧ 畑のメンテナンス(追肥、害虫忌避)
10.	夏野菜を育てよう⑨ サツマイモの苗植え準備	25.	秋・冬野菜を育てよう⑨ サツマイモのつる返し
11.	夏野菜を育てよう⑩ サツマイモの苗植え	26.	秋・冬野菜を育てよう⑩ サツマイモの収穫の準備
12.	夏野菜を育てよう⑪ 畑のメンテナンス(除草作業)	27.	秋・冬野菜を育てよう⑪ サツマイモの収穫の実際と精神作用について
13.	夏野菜を育てよう⑫ 畑のメンテナンス(追肥、害虫忌避)	28.	秋・冬野菜を育てよう⑫ 野菜の収穫、野菜の栄養成分について
14.	夏野菜を育てよう⑬ 夏野菜の収穫、野菜の栄養成分、栄養価について	29.	秋・冬野菜を育てよう⑬ 野菜の収穫、野菜の栄養価について
15.	まとめ	30.	まとめ
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
※その他欄参照			
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
「自分たちが積極的に野菜を育てる」という意識が重要です。授業外の時間に野菜に水を撒いたり、草をとったりしてください。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
・適宜プリントを配布します。			
参考書又は参考資料等			
○九州栄養福祉大学研究紀要第12号「学内実習農園の開設と行事・教科教育としての実践」p65-74			
そ の 他 (受講生への要望等)			
※成績評価については、「野菜の収穫と精神作用について」、「野菜の持つ栄養成分と栄養化について」2つの課題レポートと収穫感謝祭の体験レポートを総合的に判断し評価します。 ・作業ができる服装で参加してください。特に、靴は汚れますので長靴を各自用意してください。 また、軍手、タオル、水分なども用意しておくとう便利です。 ・受講生が多い場合は、抽選となる場合があります。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail		その他	
佐野 : sano@knwu.ac.jp 室井 : muroi1120@knwu.ac.jp			

授 業 科 目 名		医療人のための教育学	
担 当 者 名		山田 千秋	
科 目 コ ー ド	1200009	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	卒業・作業療法士必修
授業の概要と方法	<p>人間の相互理解の基本的要件は、相互理解を求める情熱と、それを理解し伝えるためのコミュニケーションの力である。言うまでもなく教育とは人と人との関わりの中に存在するものであり、人と人との関わりそのものでもある。したがって本講義では、学校教育等の狭義の教育論の展開に留まることなく、広義の教育理論の理解や哲学的思考を土台とした「人間研究」によって、医療人を指すものとしての見識を高めることに研究・学習の視座を置くものである。何千年にわたる先人たちの教育思想や哲学に触れ、その理解が受講生各自の自己啓発および日々の自己表現の一助となることを目標としている。</p> <p>また人間研究においては、学習者自身にその研究プロセスの実感と喜びがともなうことが肝要であるため、本講では出来得る限り各自が身近で具体的な事例を掘り起こすことに留意し、理論的な理解を自らの具体的な教育論や人間論として再構築できる表現力の習得にまで高めることを目指したい。通常極めて日常的に用いられている「教育」という概念のもつ多様な人間学的視点や哲学的意味を再認識することによって、幻想としての社会通念や停滞しがちな日常性を打破する人間力の獲得に繋がることを期待している。</p>		
授業の到達目標	<p>本講においては、医療人として人間のとらえ方を学ぶことを基本的な目的とし、人と人の関わり方の基本ともいえる教育的作用の研究を土台にその根本的原理と基礎理論をじっくり探求しながら、人間研究に対する哲学的な思考を身に付けていくことを目標としている。</p> <p>また、各自の研究姿勢や表現方法が、できる限り論理的でありかつ具体的で現実的な事象と結びついたものになることを目指す。</p>		
授 業 計 画			
1.	教育学の概要：教育の意味		
2.	人間と教育：人格の形成過程と教育愛		
3.	人間と社会：日常性と行動規範		
4.	人間と学校：集団と教育作用		
5.	教育の目的：人間形成と職業		
6.	教育の哲学：人間性と教育思想		
7.	教育の思想：日本と世界の教育史		
8.	教育観と人生観：人生と幸福		
9.	教育における倫理とモラル：正義と善悪		
10.	医療人のモラル：教育臨床学		
11.	教授法と学習：教授と学習		
12.	言語と思考：哲学的思考と自己表現		
13.	教育における評価：評価の在り方と方法		
14.	職業としての医療：教育及び医療関連法規		
15.	総 括（医療人としての決意）		
成 績 評 価 の 方 法 【評価項目と割合】			
授業への取り組み姿勢	自主的発問やテーマ研究のレポート提出	講義中に配布する資料を含めた全授業内容を整理した「授業ノート」の作成	定期試験
10%	10%	30%	50%
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
講義内容についての事前準備はテキストにおける対象予定箇所の一読を必要とし、事後学習は、「授業ノート」の整理・作成をこれにあてること。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
*毎回プリント教材を併用する。			
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
*参考図書については随時講義中に紹介。副読本は以下の通り。			
○「語りきれないこと」鷺田清一著 角川 one テーマ 21（角川学芸出版 1912）			
○「臨床哲学がわかる事典」田中智志（高陵社書店 2012.11） ○「次世代の教育原理」中田正浩編著（大学教育出版 1912）			
○「高校生と大学一年生のための倫理学講義」藤野寛（ナカニシヤ出版 2011.4 他）			
そ の 他（受講生への要望等）			
授業の進め方については、プリント教材を併用し、毎回の講義内容の習得・蓄積に努める。			
欠席については事前に届出をし、当該講義の内容について次週までに指示された方法で必ず補うこと。			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail	その他		
講義開始後に連絡をします			

授 業 科 目 名	人間関係の心理		
担 当 者 名	山田 千秋		
科 目 コ ー ド	1000004	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修 方 法	卒業・作業療法士必修
授業の概要と方法	心理学は「人間行動の科学」と定義される。行動の法則を定立し、それをもとに行動を記述・説明・予測・制御することを目的としている。そして、その研究分野は多岐にわたっている。パーソナリティとその成り立ち、人生における心の成長と変化の過程、対人関係の始まりと展開、心の悩みや病を抱える人に対する心理学的な理解と援助など多くのテーマがある。そこで、本講義では医療従事者にとって役に立つ心理学の知識を精選し、主に人格・発達・社会・臨床心理学について講じ、人間理解を深めるための一助としたい。		
授業の到達目標	1)人間関係の心理に関する知識を身につけ、他者と良好な人間関係を築く。 2)人格形成に関する基礎的な理論を理解し、心理検査を体験することにより自己理解を深める。 3)アサーショントレーニングやアクティブライスニングに関する知識と技能を身につける。 4)ストレスマネジメント等に関する知識や技能を身につけ、自らの心のセルフケアを行う。		
授 業 計 画			
1.	心理学の定義・歴史・方法・分野		
2.	パーソナリティの類型論と特性論		
3.	エゴグラムまたは新性格検査実習、TST 実習		
4.	バウムテスト実習		
5.	ゲゼル・ワトソン・フロイトの発達理論		
6.	エリクソン・ピアジェ・バンデューラの発達理論		
7.	アクティブライスニング実習		
8.	アサーショントレーニング実習		
9.	対人認知、説得的コミュニケーション、同調と服従		
10.	職場におけるコミュニケーション・リーダーシップ論		
11.	カウンセリングとサイコセラピー		
12.	ストレスマネジメント実習		
13.	リラクゼーション・自律訓練法・フォーカシング実習		
14.	認知療法実習		
15.	まとめ		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
コメントシート	レポート		
40%	60%		
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の講義終了後に各自で復習を行い、レポート作成に向けて自己分析を深めて下さい。 ・レポート課題は次回の講義時に担当教員に直接提出してもらいます。 			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
適宜、プリントを配布します。			
参考書又は参考資料等			
なし			
そ の 他 (受講生への要望等)			
・レポートはプライバシーに関わる内容も含まれますので、記述できる範囲で書いてもらって結構です(レポートについては担当教員以外が見ることはありません)。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail		その他	
講義開始後に連絡をします			

授 業 科 目 名	医学倫理学		
担 当 者 名	大峯 三郎		
科 目 コ ー ド	1200012	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	卒業・作業療法士必修
授業の概要と方法	現在の医療は従来のパターンリズム的医療概念から患者権利の尊重に基づくインフォームドコンセント、カルテ開示など患者を中心とする医療への転換が行われており、これは大きな医療改革の一つと言える。このような背景において PT,OT は専門職としての資質と医療人としての倫理観に基づく強い自己規制が医療現場では今まで以上に強く求められる。本授業では、患者の権利やインフォームドコンセントを背景としてさまざまな視点から医療現場で必要となる倫理観について学習する。		
授業の到達目標	①医療における倫理観について理解することができる。 ②医療における患者の権利やインフォームドコンセントについて理解できる。 ③医療現場における倫理観に基づく自己規制について事例を通して理解できる。		
授 業 計 画			
1.	倫理学総論（シラバスの説明、オリエンテーションを含む）		
2.	バイオエシックス（生命倫理学、定義と領域）		
3.	健康と QOL の概念（定義と評価）		
4.	疾病と障害（不健康の概念、ICF の紹介）		
5.	患者の権利①（患者の権利意識の芽生えと改革）		
6.	患者の権利②（人間の尊厳、アドボカシー）		
7.	インフォームドコンセント①歴史的背景と意義について		
8.	インフォームドコンセント②インフォームドコンセントと信頼関係		
9.	カルテ開示①カルテ開示の背景と問題点		
10.	カルテ開示②カルテ開示の実際		
11.	医療における自己規制		
12.	医学研究と倫理①研究の定義と倫理綱領の歴史		
13.	医学研究と倫理②生命倫理における研究方法論		
14.	職業倫理（専門職の定義、職業倫理ガイドライン）		
15.	医療事故と医療訴訟（法的責任の所在、医療過誤、インシデント、医療安全対策）		
成績評価の方法 【評価項目と割合】			
定期試験			
100%			
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
配付された資料に事前に目を通しておき、内容に関連する情報収集を行っておくこと。授業内容については復習し、疑問点については質問をすること（研究室2、オフィスアワー等の利用を勧める）。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
なし			
参考書又は参考資料等			
授業内容に沿ったプリント資料を前週に配布する（事前に予習を行っておくこと）。			
そ の 他（受講生への要望等）			
医学倫理に関する新しい情報についてはメディア（新聞、HP など）等を通して関心を常に持つように努める事。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
ohmine@knwu.ac.jp			

授 業 科 目 名		医療人のための科学論	
担 当 者 名		岩田 一男	
科 目 コ ー ド	1200085	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修 方 法	卒業・作業療法士選択必修
授業の概要と方法	科学的判断をめぐる様々な歴史的・現代的事例を通じて、科学とは何かを考える。例えば、身近な事例から安全性と危険性、有用性と経済性など異なる方向から、学生同士で議論を展開する。また、科学的思考方法を学び、演習する。例えば、論理展開、事象の構造化などについて学び、実際に演習を行う。 この授業は、講義形式を取り入れるものの、グループでの活動形式（ディスカッション）に時間を割く。		
授業の到達目標	○科学技術（特に社会とのかかわりの強い側面）についてきちんと考えるためのスキルや知識を身につける。 ○科学的にものを考えることの習慣や科学的センスを、（日常に接している身近なところから）養うコツをつかむ。		
授 業 計 画			
1.	ガイダンス、クリティカルシンキングとは		
2.	「遺伝子組換え作物」についてディスカッション		
3.	議論を特定するスキルほか		
4.	「脳神経科学の実用化」についてディスカッション		
5.	三段論法と妥当な推論スキルほか		
6.	「喫煙を認めるか否か」についてディスカッション		
7.	暗黙の前提の明示化スキルほか		
8.	中間まとめ		
9.	「血液型性格判断」についてディスカッション		
10.	定義の明確化スキルほか		
11.	「地震の予知」についてディスカッション		
12.	確証バイアスと利用可能性バイアスのスキルほか		
13.	「動物実験の是非」についてディスカッション		
14.	二重基準と普遍化可能性テストのスキルほか		
15.	まとめ		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
グループでの貢献	課題発表内容	確認テスト	
30%	30%	40%	
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
グループ学習を円滑にするため、テキストの指定箇所を事前に読んでおく。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
科学技術をよく考える	伊勢田哲司・戸田山和久ほか	名古屋大学出版	
参考書又は参考資料等			
必要に応じて授業中に案内する。			
そ の 他（受講生への要望等）			
なし			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
k-iwata@knwu.ac.jp			

授 業 科 目 名		人間と環境	
担 当 者 名		大峯 三郎・奥村 チカ子・塩田 光重	
科 目 コ ー ド	1200003	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	卒業・作業療法士選択必修
授業の概要と方法	疾病・事故・加齢等に伴う心身機能の障害やそれらから起こる生活障害等により生じるハンディキャップはヒトの身体機能・風習・生活文化・社会組織・物理的・経済的的制度等の多様な環境によって個別に異なる形で現れる。生活環境の多様性を理解することにより、支援者のあり方を理解することを目的とする。		
授業の到達目標	①生活環境と障害の関係を説明できる。 ②障害の有無に関わらず共存するための環境とは何かを説明できる。 ③生活障害の概念と生活支援の在り方について理解できる。		
授 業 計 画			
1.	オリエンテーション、人を取り巻く環境を考える	(奥村)	
2.	生活環境の概念	(大峯)	
3.	機能障害と生活障害	(大峯)	
4.	生活障害の評価について	(大峯)	
5.	老化と身体機能	(大峯)	
6.	住環境と機能障害	(大峯)	
7.	住環境と ADL	(大峯)	
8.	移動と環境	(大峯)	
9.	障害とバリアフリー	(奥村)	
10.	ユニバーサルデザインについて考える	(奥村)	
11.	エネルギー資源と環境	(塩田)	
12.	省エネと環境施策	(塩田)	
13.	省エネと生活	(塩田)	
14.	人間と環境の相互作用	(奥村)	
15.	生活と環境の関係総括とまとめ	(奥村)	
成績評価の方法		〔評価項目と割合〕	
課題・レポート		定期試験	
30%		70%	
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
討議に備えて事前および事後の学習を必要とする。 配布された資料に目を通しておく。			
使用テキスト			
書籍名		著者	出版社
適宜資料を配布			
参考書又は参考資料等			
適宜紹介する。			
そ の 他（受講生への要望等）			
課題に対して自ら調査・検討して提案および積極底かつ主体的な議論への参加を希望する。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail		その他	
奥村：okumura@knwu.ac.jp 大峯：ohmine@knwu.ac.jp 塩田：mitprinshiota@gmail.com		講義後 10 分間講義室にて質問等対応可（塩田）	

授 業 科 目 名	文化人類学		
担 当 者 名	塩田 光重		
科 目 コ ー ド	1200072	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修 方 法	卒業・作業療法士選択必修
授業の概要と方法	<p>「文化人類学」は鉄・火・水と物流の応用人類学の視点で、人類が鉄と共に歩み創り継承している生活の仕組みを、鉄との熱い戦いを通して総合的に学ぶ。自然の対局としての人間の営みから、人類を研究しようとするものである。探検し、その地に固有の生活の解明に取り組む。私は鉄の「ものづくり」に携わり、その過程でリサイクル会社 5 社の設立に参画事業展開、マレーシア物流現地法人設立、国際物流フォワーダー事業展開など、必要に応じてその活動のフロンティアを広げて来た。人類学が取り組む対象は拡大、社会問題を扱う応用人類学の分野が成長し、急速に多様化が進みつつある。日本は今、前人未踏の超高齢化社会、少子化社会へ向かって、世界の最先端を走っており、食と健康、リハビリテーション、保健、福祉、介護の諸問題は喫緊の対応を余儀なくされている。これら諸問題に対し、人類学的に見る素養を養うことを目標とする。</p>		
授業の到達目標	<p>1) 人間は命を害するものに対抗するため社会規範を作ってきたことを理解する。 2) 自ら作り出した社会規範により、人間は統制されることを説明できる。 3) 人間の多様性を認識できる。 4) フィールドワークという人間探検の研究法を理解する。</p>		
授 業 計 画			
1.	文化人類学とは何か。フィールドワーク。		
2.	人類の移動と共生。人種は存在するのか。		
3.	「銃・病原菌・鉄」を読む。格差はなぜ生じたか。		
4.	個人・家族・社会		
5.	国家のかたち。		
6.	それぞれの文化をどうとらえるか。		
7.	個人。「甘えの構造」を読む。		
8.	家族のかたちー伝承される文化。		
9.	通過儀礼の意味。		
10.	植民地獲得競争		
11.	安全と水が無料の国		
12.	社会のかたち。「タテ社会の人間関係」を考える。		
13.	グローバル化の中で考える。		
14.	鉄と人類		
15.	持続可能な社会。幸福とは何か。		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
授業参加姿勢	レポート		
50%	50%		
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
資料を授業の前に配布するので、良く読んで自ら考えて講義に臨むこと。 また、授業の中で参考図書を紹介するので自ら読んで思索を深めてほしい。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
講義中に適宜資料を配布する。			
参考書又は参考資料等			
「甘えの構造」土居健郎 弘文堂、「銃・病原菌・鉄」ジャレド・ダイヤモンド 草思社、「夜と霧」ビクトール・E・フランクル みすず書房、「菊と刀」ルース・ベネディクト 講談社、「タテ社会の人間関係」中根千枝 講談社			
そ の 他 (受講生への要望等)			
人は誕生し、それぞれの社会に適合した行動様式を学習していく。自分はどんなルールに従って行動しているのか、例をいくつか考えてみよう。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail		その他	
mitprinshiota@gmail.com		講義後 10 分間講義室にて質問等対応可	

授 業 科 目 名	医療人のための法学		
担 当 者 名	田中 保尚		
科 目 コ ー ド	1200094	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修 方 法	卒業・作業療法士選択必修
授業の概要と方法	民法総則を中心に、私法の基本的な考え方を講義していく。 日常生活や仕事の中で起こる事例を、法律と関連付けながら説明する。		
授業の到達目標	①我が国の法体系の概要を理解する。 ②民法総則を中心に学びながら私法の基礎的な考え方を理解する。 ③保健福祉現場での法律の知識の必要性を理解する。		
授 業 計 画			
1.	民法の歴史と構成		
2.	民法の基本原則		
3.	人 能力者制度		
4.	人 不在者財産管理制度		
5.	法人制度		
6.	物 権利及び権利変動の公示		
7.	物 従物及び果実		
8.	契約		
9.	法律行為		
10.	法律行為と意思表示 I		
11.	法律行為と意思表示 II		
12.	代理		
13.	無効及び取り消し		
14.	条件及び期限		
15.	時効		
成 績 評 価 の 方 法 【評価項目と割合】			
定期試験	レポート等		
90%	10%		
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、授業までにテキストの講義項目の部分を読んでおくこと。 ・教科書の中の説明にある条文を事前に確認しておくこと。 			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
民法がわかる民法総則【第3版】	滝沢昌彦	弘文堂	
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
<ul style="list-style-type: none"> ・平成 29 年度版 模範六法（三省堂） 又は、平成 29 年度版 社会福祉小六法（ミネルヴァ書房） 			
そ の 他（受講生への要望等）			
<ul style="list-style-type: none"> ・講師に積極的に質問すること。必ず回答します。 ・ボランティア活動やインターンシップなどで保健福祉の現場を体験することを推奨します。 			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail	その他		
tanakaya1951@clock.ocn.ne.jp			

授 業 科 目 名	基礎生物学		
担 当 者 名	平川 輝行		
科 目 コ ー ド	1000006	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	卒業・作業療法士選択必修
授業の概要と方法	本講義は現代生物学の知見に裏打ちされた生命観の基盤を形成することを目標とする。そのために、個体レベルで営まれる生命現象のしくみを明らかにしてきた実験生物学の概要を、ホメオスタシスの概念を確立したキャノンの著書を教本として解説しながら組み立てていきたい。		
授業の到達目標	解剖学・生理学などの基礎医学科目の理解力を向上させるために、生物学的表現形式・図表による表現形式の特徴を学び、さらに論理的分掌に対する読解力の増強をはかる。		
授 業 計 画			
1.	からだを満たしている液質		
2.	血液やリンパ液を良好な状態に保つからだの自衛機構		
3.	物質の供給を確保する手段としての渇きと飢え		
4.	血液中に含まれている水の量の恒常性		
5.	血液中に含まれている塩分の量の恒常性		
6.	血液中の糖の恒常性		
7.	血液中のタンパク質の恒常性		
8.	血液中の脂肪の恒常性		
9.	血液中のカルシウムの恒常性		
10.	十分な酸素の供給を維持すること		
11.	血液がつねに中性に維持されていること		
12.	体温の恒常性		
13.	生物に自然に備わる防衛手段		
14.	からだの構造と機能の安全性の限界		
15.	神経系の二つの大きな区分とその一般的な機能		
成 績 評 価 の 方 法 【評価項目と割合】			
授業態度	小テスト	レポート	定期試験
25%	25%	25%	25%
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
解剖学Ⅰ、生理学Ⅰで学習している内容を復習しておくこと。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
からだの知恵		講談社学術文庫	
参考書又は参考資料等			
なし			
そ の 他（受講生への要望等）			
積極的に参加すること。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
	質問は講義中または、講義終了後教室にて受付けます。		

授 業 科 目 名	基礎物理学		
担 当 者 名	田尾 悟		
科 目 コ ー ド	1200004	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	卒業・作業療法士選択必修
授業の概要と方法	理学療法や作業療法には科学的根拠が必要とされています。これらを学び臨床現場で業務を行っていく中で、物理学の基礎的知識は必要となります。生活の中で起こっていたり、利用されたりしている“物理的事象”に着目しながら、講義を進めていきます。		
授業の到達目標	理学療法、作業療法を行うにあたって必要な物理学（力、運動、電気、磁力、熱、音、波など）を理解する。		
授 業 計 画			
1.	テコの原理		
2.	定滑車と動滑車、車軸		
3.	運動と速度、加速度		
4.	力のベクトル		
5.	重力、作用・反作用		
6.	三角関数、摩擦係数		
7.	パスカルの法則		
8.	光線の進み方		
9.	比熱、熱伝導、熱の伝わり方		
10.	オームの法則（電圧、電流、抵抗）		
11.	磁界		
12.	周波数		
13.	ジュールの法則		
14.	波の伝わり方、波の増幅		
15.	ドップラー効果		
成 績 評 価 の 方 法 【評価項目と割合】			
平常点	定期試験		
10%	90%		
授 業 外 で 行 っ て 学 ぶ 学 習 （ 準 備 学 習 ・ 事 後 学 習 等 ）			
・授業中に次の講義予定を連絡し、予習復習、練習問題を解いておくことを指示する。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
物理		東京書籍	
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
必要に応じてプリントを配布する。			
そ の 他 （ 受 講 生 へ の 要 望 等 ）			
①これまでに物理学に接する機会がなかった学生も理解できるようにゆっくりとした進度で講義を進めていきます。			
②高等学校において学習した数学Ⅰの内容は理解しておくこと。			
③講義内容は資料に書き込むのではなく、ノートに記載していくこと。必ず復習を行うこと。			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail	その他		
	講義終了後 10 分間は葛原キャンパス講師控室にて待機		

授 業 科 目 名		基礎化学	
担 当 者 名		氏峰 菜里	
科 目 コ ー ド	1000007	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	卒業・作業療法士選択必修
授業の概要と方法	化学は自然現象を理解するために必須の知識である。本講義では、大学における化学を学ぶ上で土台となる、基礎的な知識を理解し身につけることを目標とする。		
授業の到達目標	○大学での化学を学ぶために必要な、基礎的な概念を理解する。 ○自然現象を化学として説明するための、化学式、反応式、計算を独力であらわせるようになる。		
授 業 計 画			
1.	第1編 物質の構成粒子とその結合 I 物質の構成（物質の成分、原子、電子配置）		
2.	I 物質の構成（イオン、元素の周期表）		
3.	II 粒子の結合（イオン結合とイオンからなる物質、共有結合と分子）		
4.	II 粒子の結合（共有結合と分子、極性分子と電気陰性度、共有結合の結晶、金属結合と金属の結晶）		
5.	III 粒子の相対質量と物質質量（原子量・分子量・式量、物質質量）		
6.	III 粒子の相対質量と物質質量（物質質量）		
7.	第2編 物質の状態 I 物質の三態（拡散と粒子の熱運動、分子間力と三態の変化、物質の種類と物理的性質） II 気体（気体の体積）		
8.	III 溶液（溶液のしくみと溶解度、希薄溶液の性質）		
9.	第3編 物質の変化 I 化学反応式と熱化学方程式（化学反応式、反応熱）		
10.	II 反応の速さと化学平衡 （化学反応の速さ、反応の速さを変える条件、可逆反応と化学平衡、平衡状態）		
11.	III 酸と塩基の反応（酸と塩基、中和反応）		
12.	IV 酸化還元反応（酸化・還元と電子の授受）		
13.	IV 酸化還元反応（酸化・還元と酸化数、酸化剤・還元剤）		
14.	第5編 物質の性質（2）有機化合物の分類		
15.	天然有機化合物		
成績評価の方法 【評価項目と割合】			
授業への取り組み姿勢	小テスト	定期試験	
20%	20%	60%	
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
・事前に教科書の講義内容の部分を一読しておくこと。講義の度に課題として問題を出すので、自力で解けるよう復習すること。各自で問題集の自習をすること。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
三訂版 リードLight ノート化学基礎	数研出版編集部 編	数研出版	
改訂版 リードLight ノート化学	数研出版編集部 編	数研出版	
参考書又は参考資料等			
特になし			
そ の 他（受講生への要望等）			
・特に高等学校で化学を履修していない学生は、講義の内容を習得する積極的な姿勢が望まれる。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
ujimine@knwu.ac.jp			

授 業 科 目 名		情報処理演習 I	
担 当 者 名		岩田 一男	
科 目 コ ー ド	1200007	授 業 形 態	演習
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	1	履 修 方 法	卒業・作業療法士必修
授業の概要と方法	<p>情報処理演習 I と II から構成されている。</p> <p>情報処理演習 I では、パソコンの基本操作、ワープロによる文書作成、プレゼンテーションソフトによるスライドの作成方法などを演習形式で学ぶ。</p> <p>また、情報倫理や情報関係法について触れ、大学のみならずビジネス社会で必要不可欠なコンピュータリテラシーをトータルで身につける。</p>		
授業の到達目標	<p>○タイピングの基礎を習得する (50 字/分以上)。</p> <p>○レポート作成、プレゼンにおける『表現的スキル』の基礎を身につける (ワープロ・スライド作成)。</p> <p>○電子メールの利用、ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎知識を得る。</p>		
授 業 計 画			
1.	ガイダンス、情報システム利用環境、タイピング		
2.	ネットワーク社会 1 (電子メール、SNS、モバイル機器)		
3.	ネットワーク社会 2 (モラル、セキュリティ、個人情報)		
4.	ネットワーク社会 3 (知的財産権、著作権、潜む危険と対策)		
5.	基本的な文書作成		
6.	図表の作成と印刷		
7.	表現力をアップする機能と数式入力		
8.	長文レポート編集と校閲		
9.	ビジネス文章の書き方、『総合演習①』		
10.	基本的なプレゼンテーション作成		
11.	オブジェクト挿入と構成変更		
12.	特殊効果の設定と印刷		
13.	データ利用や共通スライドの設定とスライドショー		
14.	プレゼンテーションの流れ、『総合演習②』		
15.	まとめ、成果発表会		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
提出物など日常の受講状況	確認テスト		
60%	40%		
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
概ね 1 週間単位で必ず提出しなければならない課題がある。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
情報リテラシー Windows 10・Office 2016 対応	富士通エフ・オー・エム	FOM 出版	
参考書又は参考資料等			
必要に応じて授業中に案内する。			
そ の 他 (受講生への要望等)			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
k-iwata@knwu.ac.jp			

授 業 科 目 名		情報処理演習Ⅱ	
担 当 者 名		岩田 一男	
科 目 コ ー ド	1200008	授 業 形 態	演習
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	1	履 修 方 法	卒業・作業療法士必修
授業の概要と方法	情報処理演習ⅠとⅡから構成されている。 情報処理演習Ⅱでは、表計算ソフトの活用方法、データ分析の基礎を演習形式で学ぶ。 また、データサイエンスについて触れ、大学のみならずビジネス社会で必要不可欠なコンピューターリテラシーをトータルで身につける。		
授業の到達目標	○タイピングの基礎を習得する（70字/分以上）。 ○様々なデータを目的に沿って処理・分析するための『数量的スキル』の基礎を身につける（表・グラフ作成）。		
授 業 計 画			
1.	ガイダンス、前期復習		
2.	データ入力と表作成		
3.	表の編集と印刷		
4.	グラフの作成		
5.	データベースの操作		
6.	複数シートの操作と基本的な関数		
7.	さまざまな関数		
8.	表示形式と条件付き書式、『総合演習①』		
9.	高度なグラフ作成		
10.	ピボットテーブル		
11.	データベースの活用		
12.	マクロの作成		
13.	データサイエンス		
14.	データサイエンス（続き）、『総合演習②』		
15.	まとめ、成果発表会		
成績評価の方法 〔評価項目と割合〕			
提出物など日常の受講状況	確認テスト		
60%	40%		
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
概ね1週間単位で必ず提出しなければならない課題がある。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
情報リテラシー Windows 10・Office 2016 対応	富士通エフ・オー・エム	FOM 出版	
参考書又は参考資料等			
必要に応じて授業中に案内する。			
そ の 他（受講生への要望等）			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
k-iwata@knwu.ac.jp			

授 業 科 目 名	健康スポーツ科学		
担 当 者 名	野村 健		
科 目 コ ー ド	1200086	授 業 形 態	演習
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	1	履 修 方 法	卒業・作業療法士必修
授業の概要と方法	日常生活において定期的な運動を習慣づけ、生涯にわたって継続的かつ自主的に運動を行い、健康を維持することは極めて重要である。本授業では、スポーツに親しむきっかけづくりとなるようさまざまなスポーツを体験し、他人との協力、思いやりや協調性を育むことを目的とする。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各種スポーツを実践できるようにし、身体を動かすことの楽しさや喜びを味わう。 2. 生涯にわたり健康や体力に配慮し、積極的に運動を実施する習慣を身に付ける。 3. 練習やゲーム時のマナーやルールを遵守する。 		
授 業 計 画			
1.	オリエンテーション 授業内容の説明		
2.	体力測定 (1)		
3.	体力測定 (2)		
4.	バレーボール 1 基本的なルールと基本技術の習得		
5.	バレーボール 2 ゲームの実践		
6.	ソフトボール 1 基本的なルールと基本技術の習得		
7.	ソフトボール 2 ゲームの実践		
8.	バドミントン 1 基本的なルールと基本技術の習得		
9.	バドミントン 2 ゲームの実践		
10.	フットサル 1 基本的なルールと基本技術の習得		
11.	フットサル 2 ゲームの実践		
12.	バスケットボール 1 基本的なルールと基本技術の習得		
13.	バスケットボール 2 ゲームの実践		
14.	簡易健康度テスト (1)		
15.	簡易健康度テスト (2)		
成 績 評 価 の 方 法 [評価項目と割合]			
授業態度・参加度	レポート		
70%	30%		
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
ケガ防止のため日頃からストレッチや適度な運動 (体操、ウォーキング、ジョギングなど) を心掛けて下さい。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
なし			
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
必要に応じて資料を配布します。			
そ の 他 (受 講 生 へ の 要 望 等)			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動に適した服装と体育館シューズを着用すること。 2. 怪我防止のためアクセサリ類は外すこと。 3. 天候により日程が前後する可能性あり。 			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail	その他		
tnomura@knwu.ac.jp			

授 業 科 目 名	実用英語の基礎 I		
担 当 者 名	梅崎 義雄		
科 目 コ ー ド	1000008	授 業 形 態	演習
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	1	履 修 方 法	卒業・作業療法士必修
授業の概要と方法	<p>チャプター毎のテーマにあった専門用語を正しい英語の音で発音することによりリスニング力をあげる。テーマ毎の症例を英語で読み、その読解能力を養う。現場で想定される会話をペアで、シュミレーションし、合わせて患者への運動療法の指示を英語で出来るようになる。以上により、医療現場での英語コミュニケーション能力を高める。また、会話では欠かせない英文作成能力を高めるため、基本的な英文法を TOEIC 用副教材で学ぶ。</p>		
授業の到達目標	<p>① 医療用英単語を発音し聞き取れる。 ② 会話時に必要なフレーズや自分の意思や意見を表現する簡単なフレーズが使えるようになる。 ③ 様々な症例に関する英文を読むための基礎文法をマスターしながら、TOEIC の解答力アップにつなげる。</p>		
授 業 計 画			
1.	高次脳機能障害(1) Warm-up、Reading		
2.	高次脳機能障害(2) Dialogue、運動療法、Information、Checkup		
3.	パーキンソン病(1) Warm-up、Reading		
4.	パーキンソン病(2) Dialogue、運動療法、Information、Checkup		
5.	レビュー/まとめ(1~4)		
6.	骨粗相症(1) Warm-up、Reading		
7.	骨粗相症(2) Dialogue、運動療法、Information、Checkup		
8.	脳卒中(1) Warm-up、Reading		
9.	脳卒中(2) Dialogue、運動療法、Information、Checkup		
10.	レビュー/まとめ(6~9)		
11.	循環器疾患(1) Warm-up、Reading		
12.	循環器疾患(2) Dialogue、運動療法、Information、Checkup		
13.	糖尿病(1) Warm-up、Reading		
14.	糖尿病(2) Dialogue、運動療法、Information、Checkup		
15.	レビュー/まとめ(11~14)		
成 績 評 価 の 方 法 【評価項目と割合】			
小テスト	授業への取組み姿勢(ダイアログのデモも含む)	定期試験	
20%	30%	50%	
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
各単元終了時に Warm-up にて英単語の小テスト(計 6 回)を行うので、暗記する。各単元のダイアログを、各授業で数組の代表ペアにデモ、あるいは、シャドーイング(教師に続いて口述)してもらおうので、準備してくる。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
The Art of Healing		南雲堂	
TOEIC TEST 英文法 出るところだけ		アルク	
参考書又は参考資料等			
なし			
そ の 他 (受講生への要望等)			
辞書は紙辞書でも電子辞書でもいいので必ず持参してください。 携帯電話やスマートフォンの電源は授業前に必ず切ってください。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
realfoods@knwu.ac.jp			

授 業 科 目 名	実用英語の基礎Ⅱ		
担 当 者 名	梅崎 義雄		
科 目 コ ー ド	1000009	授 業 形 態	演習
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	1	履 修 方 法	卒業・作業療法士選択必修
授業の概要と方法	前期に引き続き、チャプター毎のテーマにあった専門用語を正しい英語の音で発音することによりリスニング力をあげる。テーマ毎の症例を英語で読み、その読解能力を養う。現場で想定される会話をペアで、シミュレーションし、合わせて患者への運動療法の指示を英語で出来るようになる。以上により、医療現場での英語コミュニケーション能力を高める。また、会話では欠かせない英文作成能力を高めるため、基本的な英文法を TOEIC 用副教材で学ぶ。		
授業の到達目標	① 医療用英単語を発音し聞き取れる。 ② 会話時に必要なフレーズや自分の意思や意見を表現する簡単なフレーズが使えるようになる。 ③ 様々な症例に関する英文を読むための基礎文法をマスターしながら、TOEIC の解答力アップにつなげる。		
授 業 計 画			
1.	呼吸器疾患(1) Warm-up、Reading		
2.	呼吸器疾患(2) Dialogue、運動療法、Information、Checkup		
3.	慢性関節リウマチ(1) Warm-up、Reading		
4.	慢性関節リウマチ(2) Dialogue、運動療法、Information、Checkup		
5.	レビュー/まとめ(1~4)		
6.	大腿骨頸部骨折(1) Warm-up、Reading		
7.	大腿骨頸部骨折(2) Dialogue、運動療法、Information、Checkup		
8.	脊髄損傷(1) Warm-up、Reading		
9.	脊髄損傷(2) Dialogue、運動療法、Information、Checkup		
10.	レビュー/まとめ(6~9)		
11.	脳性麻痺(1) Warm-up、Reading		
12.	脳性麻痺(2) Dialogue、運動療法、Information、Checkup		
13.	事例研究(1)Case Study Report		
14.	事例研究(2)Conference		
15.	レビュー/まとめ(11~14)		
成績評価の方法 【評価項目と割合】			
小テスト	授業への取組み姿勢(ダイアログのデモも含む)	定期試験	
20%	30%	50%	
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
各単元終了時に Warm-up にて英単語の小テスト(計 6 回)を行うので、暗記する。各単元のダイアログを、各授業で数組の代表ペアにデモ、あるいは、シャドーイング(教師に続いて口述)してもらうので、準備してくる。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
The Art of Healing		南雲堂	
TOEIC TEST 英文法 出るところだけ		アルク	
参考書又は参考資料等			
なし			
そ の 他 (受講生への要望等)			
辞書は紙辞書でも電子辞書でもいいので必ず持参してください。 携帯電話やスマートフォンの電源は授業前に必ず切ってください。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
realfoods@knwu.ac.jp			

授 業 科 目 名	フランス語の基礎 I		
担 当 者 名	コモモン・ティエリ		
科 目 コ ー ド	1200095	授 業 形 態	演習
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	1	履 修 方 法	卒業・作業療法士選択必修
授業の概要と方法	対話形式で行う。ABC (アー, ベー, セーと発音します) から始めて、より複雑な構文の知識までを体系的に学習していくが、あわせて仏文和訳、和文仏訳および基本的なフランス語によるコミュニケーションの練習を行う。また、フランスという国の現状やフランス人の生活など文化的な特徴にも触れる。		
授業の到達目標	平易な文章を読みこなせるようになる。基本的な聴き取り能力や会話能力を身につける。生きたフランス語の世界に触れ、同時にフランスの豊かな文化や歴史、そしてフランスの社会の現在の姿を知る。 具体的には： 1. フランス語の発音がきちんとできるようになる。 2. 簡単なコミュニケーションができるようになる。		
授 業 計 画			
1.	初対面／自己紹介 (やり方)		
2.	自己紹介 (実践) / 子音と母音 / 子音の役割 / 音節とは		
3.	フランス語の成り立ち / アルファベット / w と "y"		
4.	アルファベットの書き方 / フランス語の母音		
5.	挨拶 / フランスという国 / 数字 : 0~20		
6.	フランス語の子音 / 名詞の性 / 文章の基本構成		
7.	プリント(動詞/単語) / ETRE / 指示形容詞 / 所有形容詞 [単数]		
8.	AVOIR / IL Y A~ / ALLER / ~から~まで		
9.	VENIR / ここ、そこ、あそこ / 否定形		
10.	中間テスト(20分) / FAIRE / 天気の表現		
11.	形容詞 : 位置と変化 / SAVOIR / CONNAITRE		
12.	COMPRENDRE / とても / たくさん		
13.	冠詞 (不定/定/部分) / VOULOIR / POUVOIR		
14.	ETRE と IL Y A / 数字 : 21 以上 / 所有形容詞 [複数]		
15.	現在形 (-er 動詞 [基本的な活用]) / 前期のまとめ		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
定期試験	中間テスト	宿題提出	
70%	20%	10%	
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
1) 予習は特に必要ないが、復習は必ず行うこと。 2) 月に1回、フランス語で短い文章を作り、和訳と共にメールで送る。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
使用しない(プリントを用紙する。)			
参考書又は参考資料等			
・最初の授業の時に紹介する。			
そ の 他 (受講生への要望等)			
・言葉は実践で身につけるものなので、習った事を使ったり、分からない時は質問をしたりして、授業中は積極的に取組んでほしい。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail		その他	
tcomont.jp@gmail.com		講義終了後の質問等対応可。	

授 業 科 目 名	中国語の基礎 I		
担 当 者 名	鳥丸 知子		
科 目 コ ー ド	1200097	授 業 形 態	演習
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	1	履 修 方 法	卒業・作業療法士選択必修
授業の概要と方法	中国語の文法・発音の基礎を習得する。簡単な日常会話が身につくレベルまで到達することを目標とする。		
授業の到達目標	○簡単な日常会話が話せ、聴き取れるレベルまで到達する。 ○同時に、中国の文化を知り、異文化に対する理解を深め、異文化コミュニケーション能力を身につける。		
授 業 計 画			
1.	中国語概説		
2.	発音 (1) 声調、単母音、複母音、無気音と有気音、そり舌音		
3.	発音 (2) 鼻音を伴う母音、声調の変化、軽声		
4.	本文 (1) あいさつ		
5.	本文 (2) 簡単な自己紹介		
6.	本文 (3) 動詞述語文		
7.	本文 (4) 疑問文		
8.	本文 (5) 数詞、量詞		
9.	本文 (6) 形容詞述語文		
10.	本文 (7) 助動詞、前置詞、主述述語文		
11.	本文 (8) 動詞の重ね型、お金の言い方		
12.	本文 (9) 動作の完了や実現を表す言い方		
13.	本文 (10) 年月日や曜日の言い方		
14.	総合復習 (1) 会話の練習		
15.	総合復習 (2) 個人発音チェック		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
授業態度	定期試験		
60%	40%		
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
毎回の授業日の前後日に、準備学習及び事後学習を各 30 分は行うこと。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
日中いぶこみ交差点	相原茂 陳淑梅 飯田敦子	朝日出版社	
参考書又は参考資料等			
なし			
そ の 他 (受講生への要望等)			
発言時間を多く設け、会話練習を中心に授業を進める。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
tomochi69jp@yahoo.co.jp	講義終了後 10 分間は非常勤講師室にて質問等対応可。		

授 業 科 目 名	フランス語の基礎Ⅱ		
担 当 者 名	コモモン・ティエリ		
科 目 コ ー ド	1200096	授 業 形 態	演習
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	1	履 修 方 法	選択
授業の概要と方法	対話形式で行う。この授業では、フランス語の理解に不可欠な基礎知識を一年間でほぼフォローすることを目指す。平易な文章を読みこなせるようになることだけでなく、基本的な聴き取り能力や会話能力を身につけることによって、生きたフランス語の世界に触れ、同時にフランスの豊かな文化や歴史、そしてフランスの社会の現在の姿を知ってもらうことが、この授業の目的である。		
授業の到達目標	1. 簡単な仏文を辞書を手がかりに読めて、訳せるようになる。 2. 短文作文をできるようになる。		
授 業 計 画			
1.	前期の復習／前期末試験の内容について		
2.	現在形 (-er 動詞 [特別な場合])／フランス語特殊文字の入力 (パソコン)		
3.	現在形 (-er 動詞以外 [基本的な場合])		
4.	現在形 (-er 動詞以外 [特別な場合])		
5.	日付けの言い方／現在形 (代名動詞)		
6.	色の形容詞／疑問文[基本的な作り方]／疑問詞		
7.	疑問文 [練習]		
8.	否定形と直接目的語の冠詞／直接目的語の代名詞化		
9.	強調形／近接過去／近接未来		
10.	中間試験(20分)／代名詞 CE と CA／前置詞 EN		
11.	複合過去： AVOIR 助動詞の場合／男性と女性の名前		
12.	複合過去： ETRE 助動詞の場合／過去分詞の変化 [主語に合わせる場合]		
13.	過去分詞の変化 [動詞前の直接目的語に合わせる場合]／命令形		
14.	現在分詞／ジェロンディフ		
15.	後期のまとめ		
成 績 評 価 の 方 法 [評価項目と割合]			
定期試験	中間テスト	宿題提出	
70%	20%	10%	
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
1) 予習は特に必要ないが、復習は必ず行うこと。 2) 月に 1 回、フランス語で短い文章を作り、和訳と共にメールで送る。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
使用しない (プリントを用意する。)			
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
・最初の授業の時に紹介する。			
そ の 他 (受 講 生 へ の 要 望 等)			
・言葉は実践で身につけるものなので、習った事を使ったり、分からない時は質問をしたりして、授業中は積極的に取り組んでほしい。			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail	その他		
tcomont.jp@gmail.com	講義終了後の質問等対応可。		

授 業 科 目 名	中国語の基礎Ⅱ		
担 当 者 名	鳥丸 知子		
科 目 コ ー ド	1200098	授 業 形 態	演習
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	1	履 修 方 法	選択
授業の概要と方法	実践で使える中国語の習得を目標とする。異文化に対する理解を深める。		
授業の到達目標	中国生活や旅行で使用する中国語を学び、現地の人々と簡単な会話ができるレベルまで到達する。		
授 業 計 画			
1.	中国概説		
2.	前期の復習 (1) 動詞、形容詞など		
3.	前期の復習 (2) 助詞、前置詞など		
4.	本文 (1) 時刻の言い方、時間量の言い方		
5.	本文 (2) 禁止表現		
6.	本文 (3) 結果補語、方位詞、“不”と“没”の違い		
7.	本文 (4) 可能補語		
8.	本文 (5) 様態保護と程度補語		
9.	本文 (6) 二重目的語をとる動詞		
10.	本文 (7) 進行の表し方		
11.	本文 (8) 存現文		
12.	総合復習 (1) 会話の練習		
13.	総合復習 (2) 個人発音チェック		
14.	総合復習 (3) プリント、ドリル		
15.	総合復習 (4) 中国語による簡単なスピーチ		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
授業態度	定期試験		
60%	40%		
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
毎回の授業日の前後日に、準備学習及び事後学習を各 30 分は行うこと。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
前期のテキストを継続して使用する。			
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
前期のテキスト 「日中いぶこみ交差点」 朝日出版社			
そ の 他 (受 講 生 へ の 要 望 等)			
発言時間を多く設け、会話練習を中心に授業を進める。			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail		その他	
tomochi69jp@yahoo.co.jp		講義終了後 10 分間は非常勤講師室にて質問等対応可。	

授 業 科 目 名	実用英語 I		
担 当 者 名	ロバート・サムナー		
科 目 コ ー ド	1000010	授 業 形 態	演習
学 年	2	開 講 期	前期
単 位 数	1	履 修 方 法	選択
授業の概要と方法	この授業では、英語でコミュニケーションを取ることができるようになることを目的に、ボキャブラリや文法はもちろん、スピーキングに力を入れて授業を進めていきます。		
授業の到達目標	○英語に興味を持ち、基本的日常会話や医療の場で英語が使えるようになる。 ○英語を使うことに自信を持つ。		
授 業 計 画			
1.	自己紹介、あいさつ		
2.	自分について話そう。趣味や興味のあることについて話そう。		
3.	現在形		
4.	家族について話そう。人を言葉で説明（描写）しよう。		
5.	過去形		
6.	他の国や文化について話そう。		
7.	おすすめを聞く、教える。		
8.	現在完了形		
9.	いろいろな場所について話そう。		
10.	道を尋ねる、教える。		
11.	トラベル英会話		
12.	数字や時間の表現の仕方		
13.	自分の意見を伝える。		
14.	人に注意、アドバイスをする。		
15.	まとめ		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
筆記	スピーキング		
50%	50%		
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
授業中に予習・復習について指示します。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
毎回プリントを配布します。			
参考書又は参考資料等			
必要に応じてプリントを配布します。			
そ の 他（受講生への要望等）			
分からないことや質問はいつでも聞いてください。間違うことを気にせず、自信を持って英語を話してください。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail		その他	
robandyoko@hotmail.com			

授 業 科 目 名	実用英語Ⅱ		
担 当 者 名	ロバート・サムナー		
科 目 コ ー ド	1000011	授 業 形 態	演習
学 年	2	開 講 期	後期
単 位 数	1	履 修 方 法	選択
授業の概要と方法	この授業では、英語でコミュニケーションを取ることができるようになることを目的に、ボキャブラリや文法はもちろん、スピーキングに力を入れて授業を進めていきます。		
授業の到達目標	○英語に興味を持ち、基本的な日常会話や医療の場で英語が使えるようになる。 ○英語を使うことに自信を持つ。		
授 業 計 画			
1.	未来形：be going to , will		
2.	病気や健康について：病状や処置		
3.	How often? : 頻度について		
4.	医学句動詞		
5.	Has got : 病気や怪我の時に使う		
6.	Should : 医学的状況でのアドバイス時に使う		
7.	医学的状況で使う複合名詞		
8.	健康についての複合名詞		
9.	薬についての形容詞		
10.	痛みや苦痛の説明		
11.	投薬の種類や方法		
12.	賛成や反対		
13.	提案・助言する		
14.	間接疑問文と直接疑問文		
15.	まとめ		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
筆記	スピーキング		
50%	50%		
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
授業中に予習・復習について指示します。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
毎回プリントを配布します。			
参考書又は参考資料等			
必要に応じてプリントを配布します。			
そ の 他 (受講生への要望等)			
分からないことや質問はいつでも聞いてください。間違うことを気にせず、自信を持って英語を話してください。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail		その他	
robandyoko@hotmail.com			

授 業 科 目 名		解剖学 I	
担 当 者 名		小林 繁	
科 目 コ ー ド	1200073	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	卒業・作業療法士必修
授業の概要と方法	医療職を目指す者にとって、解剖学は最も基礎的な学問で、人の体のことを学ぶ為の入り口である。 人体各部の正常な構造ならびに形態を理解する。細胞、組織、器官および器官系など、人体を構成する基本的構造がいかにか巧妙に統合され機能しているかを理解する。以下、系統解剖学的観点から学習する。		
授業の到達目標	1. 細胞・組織・器官：人体を構成する細胞・組織・器官の多様性を理解する。 2. 骨格系：身体の運動や姿勢を支持する骨・靭帯の多様性を理解する。		
授 業 計 画			
1.	解剖学総論（教科書 p1-7）：解剖学とは、人体の概要と解剖学用語		
2.	人体の構成（教科書 p8-11）：細胞		
3.	人体の構成（教科書 p11-18）：組織、器官、器官系		
4.	骨学総論（教科書 p27-30）：骨の形態、骨の構造、骨の血管と神経		
5.	骨学総論（教科書 p31-35）：骨の機能、骨の発生、骨のリモデリング		
6.	骨学各論（教科書 p36-47）：頭蓋		
7.	骨学各論（教科書 p47-57）：脊柱、胸郭とその連結		
8.	骨学各論（教科書 p57-62）：上肢帯、上腕骨		
9.	骨学各論（教科書 p62-67）：前腕骨、手		
10.	骨学各論（教科書 p67-72）：下肢帯、骨盤		
11.	骨学各論（教科書 p72-82）：自由下肢骨		
12.	関節靭帯総論（教科書 p87-94,101-103）：骨の連結、関節の構造と機能		
13.	関節靭帯各論（教科書 p104-113）：頭蓋の連結、脊柱、胸郭		
14.	関節靭帯各論（教科書 p113-127）：上肢の連結		
15.	関節靭帯各論（教科書 p128-144）：下肢の連結		
成績評価の方法 【評価項目と割合】			
定期試験			
100%			
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
教科書を用いての事前学習、事後学習			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第4版	野村嵯編	医学書院	
分担解剖学 I・II・III 人体解剖カラーアトラス	佐藤達夫	金原書店 南江堂	
参考書又は参考資料等			
適宜プリントを配布する。			
そ の 他（受講生への要望等）			
人体解剖アトラスの関連項目を学修する。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
origamishigeru@gmail.com			

授 業 科 目 名		解剖学Ⅱ	
担 当 者 名		片岡 真司	
科 目 コ ー ド	1200074	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修 方 法	卒業・作業療法士必修
授業の概要と方法	医療職を目指す者にとって、解剖学は最も基礎的な学問で、人の体のことを学ぶ為の入り口である。人体各部の正常な構造ならびに形態を理解する。細胞、組織、器官および器官系など、人体を構成する基本的構造がいかに巧妙に統合され機能しているかを理解する。以下、系統解剖学的観点から学習する。		
授業の到達目標	1. 筋肉系：身体の運動や姿勢を支持する筋肉の構造と機能を理解する。 2. 神経系：脳・脊髄およびこれに出入りする末梢神経系の構造と機能を理解する。		
授 業 計 画			
1.	筋学総論：筋組織の種類と特徴、骨格筋の構造、骨格筋の作用		
2.	筋学各論 1：上肢帯の筋、上腕の筋		
3.	筋学各論 2：前腕の筋、手の筋		
4.	筋学各論 3：下肢帯の筋、大腿の筋		
5.	筋学各論 4：下腿の筋、足の筋		
6.	筋学各論 5：頭部の筋、頸部の筋		
7.	筋学各論 6：胸部の筋、腹部の筋、背部の筋		
8.	神経学総論 1：神経系の区分、神経系の構成		
9.	神経学総論 2：髄膜と脳室系、神経系の発生		
10.	中枢神経系 1：脊髄、脳幹、小脳		
11.	中枢神経系 2：大脳		
12.	中枢神経系 3：神経路		
13.	末梢神経系 1：脊髄神経		
14.	末梢神経系 2：脳神経		
15.	末梢神経系 3：自律神経		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
中間試験	定期試験		
50%	50%		
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
教科書、参考書、配布資料などを用いた準備学修・事後学修			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
標準理学療法学・作業療法学 解剖学		医学書院	
配布プリント			
参考書又は参考資料等			
分担解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ (金原書店)			
そ の 他 (受講生への要望等)			
授業ではプリントに色を塗るなどの指示をすることがあるので、色鉛筆などの準備が望ましい。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
kshinji0813@gmail.com			

授 業 科 目 名	生理学 I		
担 当 者 名	野村 健		
科 目 コ ー ド	1200075	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	卒業・作業療法士必修
授業の概要と方法	生体の構造と機能を理解することは、将来医療の現場で働く者にとって必要不可欠である。生理学 I では、呼吸、循環、血液、消化・吸収、内分泌、排泄など生命維持に必要な生理機能である「植物性機能」について概説する。		
授業の到達目標	1. 呼吸や循環、消化・吸収など植物性機能を理解する。 2. 人体の臓器の位置と各臓器の構造・機能の概要を理解し説明できる。		
授 業 計 画			
1.	生理学概論、細胞と組織 (テキスト p 8-36)		
2.	呼吸 (1) 呼吸器の構造、呼吸運動 (テキスト p 98-117)		
3.	呼吸 (2) 呼吸気量、ガス交換とガスの運搬 (テキスト p 117-124)		
4.	呼吸 (3) 呼吸運動の調節、病的呼吸 (テキスト p 124-131)		
5.	血液 (1) 血液の組成と機能 (テキスト p 131-146)		
6.	血液 (2) 血液凝固、血液型 (テキスト p 146-155)		
7.	循環 (1) 心臓の構造、心臓の興奮 (テキスト p 158-174)		
8.	循環 (2) 心臓の拍出機能、末梢循環系の構造 (テキスト p 174-194)		
9.	循環 (3) 血液の循環調節、リンパ系 (テキスト p 194-218)		
10.	腎 (1) 腎臓の構造と機能、尿の生成、クリアランス (テキスト p 220-236)		
11.	腎 (2) 排尿、体液の調節 (テキスト p 236-248)		
12.	内分泌 (1) 内分泌機能とホルモン (テキスト p 250-265)		
13.	内分泌 (2) 各腺から分泌されるホルモンの作用 (テキスト p 265-295)		
14.	消化・吸収 (1) 消化管の構造と機能 (テキスト p 54-85)		
15.	消化・吸収 (2) 肝臓、膵臓、胆嚢、まとめ (テキスト p 86-96)		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
受講態度	定期試験		
20%	80%		
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
準備学修：授業計画に対応するテキストの該当箇所をよく読んで講義に臨むこと。 事後学修：毎時の授業で学習した内容について復習し理解すること。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
『解剖生理学』	坂井建雄 著	医学書院	
参考書又は参考資料等			
講義に合わせて資料を配布します。 『生理学』岡田隆夫 著 医学書院 『標準生理学』福田康一郎 監修 医学書院			
そ の 他 (受講生への要望等)			
教科書を中心に授業を進めます。授業で理解できなかった箇所は教科書及び参考書で学習し、その上で解決できない場合は質問に来て下さい。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
tnomura@knwu.ac.jp			

授 業 科 目 名	生理学Ⅱ		
担 当 者 名	野村 健		
科 目 コ ー ド	1200076	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修 方 法	卒業・作業療法士必修
授業の概要と方法	生理学Ⅱでは、生理学Ⅰに引き続き植物性機能の一部と脳・神経、筋、感覚系、運動系など、特に動物で発達している「動物性機能」について概説する。さらに、運動時に生じる生体の諸変化について解説する。		
授業の到達目標	1. 筋肉や脳・神経、感覚器など動物性機能を理解する。 2. 運動時における生体反応やその調節機構を説明できる。		
授 業 計 画			
1.	筋肉 (1) 骨格筋の構造、筋収縮、筋の収縮特性 (テキスト p 359-372)		
2.	筋肉 (2) 骨格筋の特性、骨の構造と機能 (テキスト p 302-305)		
3.	神経 (1) 神経系の構造と機能 (テキスト p 374-384)		
4.	神経 (2) 筋紡錘、ゴルジ腱器官、伸張反射 (テキスト p 313)		
5.	中枢神経系 (1) 脳幹、小脳、間脳、大脳 (テキスト p 385-399)		
6.	中枢神経系 (2) 脊髄神経、脳神経 (テキスト p 400-408)		
7.	中枢神経系 (3) 脳の高次機能 (テキスト p 409-425)		
8.	感覚器 (1) 視覚・聴覚・平衡覚 (テキスト p 425-443)		
9.	感覚器 (2) 味覚・嗅覚・痛覚・触覚・圧覚 (テキスト p 443-458)		
10.	身体の防御機構 (免疫) (テキスト p 458-470)		
11.	代謝と体温 (テキスト p 470-477)		
12.	生殖・発生・老化 (テキスト p 480-522)		
13.	運動生理学 (1)		
14.	運動生理学 (2)		
15.	まとめ		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
受講態度	定期試験		
20%	80%		
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
準備学修：授業計画に対応するテキストの該当箇所をよく読んで講義に臨むこと。 事後学修：毎時の授業で学習した内容について復習し理解すること。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
『解剖生理学』	坂井建雄 著	医学書院	
参考書又は参考資料等			
講義に合わせて資料を配布します。 『生理学』岡田隆夫 著 医学書院 『標準生理学』福田康一郎 監修 医学書院 『運動生理学』橋本勲、進藤宗洋 他著 同文書院			
そ の 他 (受講生への要望等)			
教科書を中心に授業を進めます。授業で理解できなかった箇所は教科書及び参考書で学習し、その上で解決できない場合は質問に来て下さい。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
tnomura@knwu.ac.jp			

授 業 科 目 名		解剖生理学総合実習（解剖学実習）	
担 当 者 名		小林 繁	
科 目 コ ー ド	1200077	授 業 形 態	実習
学 年	2	開 講 期	前期（集中）
単 位 数	1	履 修 方 法	卒業・作業療法士必修
授業の概要と方法	解剖学および運動解剖学特論の講義で履修した内容を、実際に自分の眼と手で確かめ、より理解を深めることを目的とする。脳脊髄標本、人体解剖体の観察ならびにスケッチを行う。同時に人の生命に対する神秘、尊厳について教授する。		
授業の到達目標	①胸部・腹部内臓の有機的な位置関係を説明することができる。 ②動・静脈、神経の走行、分布を確認し、臓器との関係を説明できる。 ③筋の起始・停止を確認し、支配神経、作用について説明できる。 ④関節の解剖を行い、その形態との関連性を説明できる。 ⑤人体解剖実習を通して生命の神秘、生命の尊厳を自ら学び、倫理観の育成に努める。		
授 業 計 画			
1.	骨学実習1：脊柱、胸郭、骨盤、上肢、下肢		
2.	骨学実習2：頭蓋		
3.	解剖学実習の目的。献体とは。体の区分、胸部・腹部の筋。胸部・腹部臓器の位置関係、腹膜後器官の確認		
4.	消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系臓器ならびに相互関係の確認。心臓ならびに循環器系（大循環、小循環ならびにリンパ系）特に腹部循環器系の確認		
5.	胸神経と肋間動静脈の解剖。頸ならびに腕神経叢、腰仙骨神経叢の解剖。交感神経幹、大・小内臓神経の解剖		
6.	上肢屈筋群、下肢前面の筋の解剖。腹腔神経叢、腸間膜動脈神経叢、骨盤神経叢の解剖。		
7.	体幹背部の筋の解剖。上肢帯背側、上肢の伸筋群ならびに手背の解剖。殿部の筋、大腿後面、膝窩の解剖。		
8.	上肢帯の筋、上肢の伸筋群、手掌の解剖。下腿後面、足底の解剖。		
9.	肩関節の解剖。膝関節の解剖。		
10.	肘関節の解剖。股関節の解剖。		
11.	実習の中間まとめ		
12.	脳解剖の予習		
13.	手の関節と靭帯の解剖。足の関節と靭帯の解剖。		
14.	脳・脊髄の解剖		
15.	骨実習、人体解剖実習、脳実習のまとめ		
成績評価の方法 【評価項目と割合】			
授業態度	レポート	その他	
20%	30%	50% [スケッチ 30%、感想文 20%]	
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
毎回、リハ実習書ならびに教科書の予習をしてくること。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
標準理学療法学・作業療法学 専門分野解剖学 第4版	野村 嵯	医学書院	
分担解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ		金原書店	
人体解剖カラーアトラス 原著第7版 リハ実習書（プリント）：関節の解剖手技	佐藤達夫	南江堂	
参考書又は参考資料等			
○できるわかる人体解剖実習、哲学堂出版 ○骨学実習のてびき、解剖実習のてびき、南山堂			
そ の 他（受講生への要望等）			
ご遺体は自分の死後、医学医療の発展のために無条件無報酬で自ら解剖されることを申し出られ献体された方々です。この篤志献体者の志を忘れてはならない。また、献体が成就できるのはご家族、病院、社会福祉関係者など多くの方々のご協力があって初めて可能なことであることも忘れてはならない。心得：①ご遺体に常に感謝の念を持つ。②ご遺体に礼を失してはならない。③ご遺体のご意思を考える。④ご遺体に報いることを考える。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
origamishigeru@gmail.com			

授 業 科 目 名	運動学総論		
担 当 者 名	吉田 真理子		
科 目 コ ー ド	1200020	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修 方 法	卒業・作業療法士必修
授業の概要と方法	<p>運動学の知識は、身体の障害を理解し、障害に対する作業療法アプローチを考える上で重要である。この授業では、まず運動学で用いる用語と約束事について学ぶ。その後、運動にかかわる身体機能について学んでいく。</p> <p>授業は教科書と要約プリントを用い、キーワードを板書しながら進める。さらに、復習のための課題と確認テストで理解を深めていく。</p>		
授業の到達目標	<p>1) 運動学の基礎となる用語を説明することができる。</p> <p>2) 運動における関節の役割を説明することができる。</p> <p>3) 運動における骨格筋の役割を説明することができる。</p> <p>4) 運動における神経の役割を説明することができる。</p> <p>5) 効果的な運動学習方法を説明できる。</p>		
授 業 計 画			
1.	運動学とは 身体部位の名称、身体運動の面と軸		
2.	骨の構造と機能		
3.	関節の構造と機能、運動の表し方		
4.	関節の形態		
5.	骨格筋の構造と機能		
6.	二関節筋と単関節筋、筋収縮の様態		
7.	てこの原理		
8.	運動単位 筋の感覚受容器		
9.	神経系の分類 末梢神経系（脊髄神経、脳神経等）		
10.	末梢神経系 シナプス 反射		
11.	中枢神経系（脳の名称、機能局在）		
12.	中枢神経系 中枢神経伝導路		
13.	重心と姿勢の安定性 姿勢の名称と類型		
14.	運動の種類と類型 トレーニングの原理		
15.	運動学習（学習曲線、動機づけ、学習方法）		
成 績 評 価 の 方 法 【評価項目と割合】			
定期試験	課題（予習・復習プリント、授業で行う作業、確認テスト）		
80%	20%		
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
<p>解剖学で学んだ、骨、関節、筋、神経の知識を復習しておくこと。</p> <p>授業前に、教科書の対応するページを読んでおくこと。授業後は復習を行い、疑問点は調べ学習や質問により解決していくこと。</p>			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
基礎運動学		医歯薬出版	
適宜、資料を配布する。			
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
授業の中で紹介する。			
そ の 他（受講生への要望等）			
臨床実習や国家試験では、授業で学んだ知識以上のものが求められる場合がある。従って、授業だけで満足することなく、授業以外でも運動学の知識を増やし、理解を深めてほしい。			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail	その他		
yoshidam@kumamoto-hsu.ac.jp			

授 業 科 目 名	運動学各論		
担 当 者 名	吉田 真理子		
科 目 コ ー ド	1200021	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	卒業・作業療法士必修
授業の概要と方法	<p>運動学の知識は、身体の障害を理解し、障害に対する作業療法アプローチを考える上で重要である。この授業では、1年次の運動学総論で学んだ知識を基に、運動を可能にするメカニズムと生じる障害について、身体部位ごとに学ぶ。</p> <p>授業は教科書と要約プリントを用い、キーワードを板書しながら進める。さらに、復習のための課題と確認テストで理解を深めていく。</p>		
授業の到達目標	<p>1) 各身体部位の運動を可能にするメカニズムを説明できる。</p> <p>2) 各身体部位の運動が障害されることにより生じる変形や、その原因となる疾患について説明できる。</p> <p>3) 障害部位を明らかにするための検査法について説明できる。</p>		
授 業 計 画			
1.	肩甲帯と肩 構造と運動		
2.	肩甲帯と肩 運動と運動障害 (肩甲上腕リズム・回旋筋腱板等)		
3.	肩甲帯と肩 運動障害 (肩関節周囲炎等)		
4.	肘関節 構造と運動		
5.	手関節と手部、指の構造		
6.	手指の伸展機構と母指の運動		
7.	手のアーチと把持様式		
8.	手関節と手部、指の運動障害		
9.	頭部と顔面の運動		
10.	体幹 頸部と胸部		
11.	体幹 腰部		
12.	股関節の構造と運動		
13.	膝関節と足関節の構造と運動		
14.	正常歩行		
15.	異常歩行		
成 績 評 価 の 方 法 [評価項目と割合]			
定期試験	課題 (予習・復習プリント、授業内での作業、確認テスト)		
80%	20%		
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
<p>授業前に、教科書の対応するページを読んでおくこと。</p> <p>授業後は復習を行い、疑問点は調べ学習や質問により解決していくこと。</p>			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
基礎運動学		医歯薬出版	
適宜、資料を配布する。			
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
授業の中で紹介する。			
そ の 他 (受 講 生 へ の 要 望 等)			
臨床実習や国家試験では、授業で学んだ知識以上のものが求められる場合がある。従って、授業だけで満足することなく、授業以外でも運動学の知識を増やし、理解を深めてほしい。			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail	その他		
yoshidam@kumamoto-hsu.ac.jp			

授 業 科 目 名	人間発達学		
担 当 者 名	佐野 幹剛		
科 目 コ ー ド	1200022	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修 方 法	卒業・作業療法士必修
授業の概要と方法	乳児期から老年期までの発達過程全般について概説するとともに、障害児・者や高齢者に対する発達学的評価および治療ができる知識とスキルの習得を図れるよう教授する。		
授業の到達目標	○人間の基本的な発達過程を理解することができる。 ○障害や老化に伴う心理的・身体的影響を発達学的に捉えることができる。		
授 業 計 画			
1.	リハビリテーションにおける発達学視点と意義		
2.	乳児期の神経発達学的成熟とその発達の意義		
3.	乳児の反射・反応について		
4.	反射・反応検査の実際		
5.	乳児期における粗大運動の発達と臨床的応用		
6.	乳児期における手の運動発達と臨床的応用		
7.	乳幼児期の知覚・認知機能の発達と臨床的応用		
8.	乳幼児期のことばの発達と臨床的応用		
9.	発達障害を持つ子どもの理解		
10.	発達評価と治療		
11.	乳児～学童期の特徴と発達課題		
12.	青年期の特徴と発達課題		
13.	成人期の特等と発達課題		
14.	老年期の特徴と発達課題		
15.	まとめ		
成績評価の方法 【評価項目と割合】			
「反射と反応」課題レポート		定期試験	
30%		70%	
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
授業はワークノート・教科書を中心に進めます。ワークノートに準備学修の内容、事後学修のためのポイントの整理を示しているので活用してください。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
リハビリテーション医学講座 人間発達学	上田礼子	医歯薬出版	
運動発達と反射 反射検査の手技と評価	M.R.Barnes	医歯薬出版	
参考書又は参考資料等			
乳児の発達 写真で見る0歳児 J.H.de Hass 医歯薬出版 機能的姿勢—運動スキルの発達 Rona Alexander, Regi Boehme, Barbara Cupps 協同医書			
そ の 他（受講生への要望等）			
人間発達学は、人の運動機能や認知機能などの多角的な発達側面を概観します。作業療法アプローチの基本となるため、しっかり学習してください。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail		その他	
sano@knwu.ac.jp			

授 業 科 目 名	病理学		
担 当 者 名	船越 啓右		
科 目 コ ー ド	1200052	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	卒業・作業療法士必修
授業の概要と方法	臨床医学の全般の基礎となる疾患の概略について学ぶ分野である。 目標は、医師や看護師などが発言する医学的なことが理解できること。 国家試験科目であることを念頭において学ぶこと。 教科書の総論部分全部は時間不足のためにプリントを渡し、プリントに沿って講義し、教科書の内容を解説する。		
授業の到達目標	○医学的用語を理解し、医師、看護師の指示や説明が十分に理解できる。 ○患者の疾患や訴えに正しい判断ができる。 ○国家試験に合格できるレベルまで理解できる。		
授 業 計 画			
1.	病因-1 : 内因		
2.	病因-2 : 外因 退行性病変-1 : 変性		
3.	退行性病変-2 : 萎縮		
4.	退行性病変-3 : 壊死		
5.	循環障害-1 : 体液循環の機構		
6.	循環障害-2 : 全身循環障害		
7.	循環障害-3 : 局所循環障害 適応現象-1 : 定義		
8.	適応現象-2 : 疾患		
9.	奇形、炎症-1 : 基本的病変		
10.	炎症-2 : 炎症に関与する細胞		
11.	炎症-3 : 炎症の種類		
12.	腫瘍-1 : 定義		
13.	腫瘍-2 : 悪性腫瘍の進行度		
14.	腫瘍-3 : 発癌のメカニズム 加齢現象-1 : 定義		
15.	加齢現象-2 : 疾患		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
定期試験			
100%			
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
講義終了時に次の講義範囲を伝えるので、次回範囲の教科書・配布プリントを確認して講義に臨むこと。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
標準理学療法学・作業療法学 病理学		医学書院	
参考書又は参考資料等			
講義の前に講義に使用するプリントを配布する。			
そ の 他 (受講生への要望等)			
国家試験合格を目標に勉強すること。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
	質問は授業中または、授業終了後教室にて受け付けます。		

授 業 科 目 名	臨床心理学		
担 当 者 名	山田 幸代		
科 目 コ ー ド	1200053	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	卒業・作業療法士必修
授業の概要と方法	臨床心理学の本来の意味は「死の床に臨む」医療従事者の為の心理学的立場を示す。従って医療従事者には必須の学習である。フロイトに始まる臨床心理学から、「関係性」の心理学であるニューウェーブ心理学を、様々な演習や臨床事例検討を基に学修する。		
授業の到達目標	臨床心理学の変遷を、フロイトの個人心理学・精神分析、ユング理論、コフト等による関係性の心理学、ロジャーズの来談者中心療法の各視点から学び、全人的医療の実践に生かせるようにする。様々なセラピーも実習により学ぶものとする。		
授 業 計 画			
1.	導入 「臨床心理学」とは何か？—事例に学ぶ— (講義)		
2.	リハビリテーションとカウンセリングとの関連、全人的医療の視点から (講義)		
3.	自己を知ることの意義 (1) エゴグラムによる自己・他者分析 (演習)		
4.	自己を知ることの意義 (2) エゴグラムによる自己・他者の交互作用分析 (講義)		
5.	自己を知ることの意義 (3) バウムテストによる自己分析 (演習)		
6.	自己変容と他者変容の視点 (1) PF スタディによる分析 (演習)		
7.	自己変容と他者変容の視点 (2) PF スタディによる分析 (グループ討議)		
8.	PT/OT のためのセラピーを学ぶ (1) 音楽療法 (演習・講義)		
9.	PT/OT のためのセラピーを学ぶ (2) 回想法 (演習・講義)		
10.	臨床心理学の変遷 (1) 個人心理学 フロイトからユングへ		
11.	臨床心理学の変遷 (2) 関係性の心理学 コフト、ロジャーズ		
12.	臨床心理学を基にした対人関係論 事例検討 (グループ討議)		
13.	臨床心理学における重要項目 (1) 傾聴・受容・共感、転移・逆転移		
14.	臨床心理学における重要項目 (2) 全人的医療		
15.	臨床心理学・精神医学用語のまとめとその理解、国家試験に向けて		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
演習についてのワークシート提出	定期試験		
30%	70%		
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
演習やグループ討議のワークシートは翌週提出のこと (原則)			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
講義・演習中に適宜、資料を配布する			
参考書又は参考資料等			
なし			
そ の 他 (受講生への要望等)			
講義や演習に真摯に臨むこと。患者の前に立つ場合を想定し、対人対応技法を獲得すること。想像力・創造力が相手の立場に立つことを可能にし、全人的医療につながるのである。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
	講義後非常勤講師室でしばらく待ちます。		

授 業 科 目 名	小児科学		
担 当 者 名	河田 泰定・中村 慶司		
科 目 コ ー ド	1200054	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	卒業・作業療法士必修
授業の概要と方法	<p>○河田泰定：子どもでよく見られる病気について、症状から診断ならびに治療まで学習する。特にリハビリテーションの対象となる神経・筋・骨系疾患、重症心身障害児については、詳細に理解する。自分が親になったと思って、小児科対象疾患の基礎的知識を修得する。</p> <p>○中村慶司：リハビリテーションの対象となる新生児・未熟児疾患、先天異常と遺伝病、循環器疾患、呼吸器疾患、感染症、消化器疾患、免疫・アレルギー疾患、膠原病、腎・泌尿器系、生殖器疾患等の検査や治療について詳細に学ぶ。</p>		
授業の到達目標	子どもでよく見られる病気について、一般的特徴、原因、診断、治療の概要を学習し、理解する。また、リハビリテーションを必要とする児の疾患を把握し、いかにチーム共同医療者として、参画するかを考える。		
授 業 計 画			
1.	小児科学概論 －PT/OT との関わり。病気のない子どもの成長発達を理解する。		
2.	診断と治療 －一般的な病気の病院での診療について救急疾患：小児の BLS を修得する。		
3.	新生児・未熟児疾患－1 －胎児期・新生児期・周産期について		
4.	新生児・未熟児疾患－2 －早期産児の神経学的所見について		
5.	先天異常と遺伝病について		
6.	神経・筋・骨－1 －特殊検査、髄膜炎、熱性けいれん、小児てんかんについて		
7.	神経・筋・骨－2 －脳性麻痺、神経疾患、筋ジストロフィー症について		
8.	循環器疾患について		
9.	呼吸器疾患について		
10.	感染症について		
11.	消化器疾患について		
12.	内分泌疾患：低身長症、クレチン症、糖尿病について		
13.	免疫・アレルギー疾患、膠原病、腎・泌尿器系・生殖器疾患について		
14.	血液・腫瘍・眼科・耳鼻科疾患：貧血症、白血病、血友病、悪性疾患について		
15.	心身症・神経症・重症心身障害児（重心）：重心の病態、問題点について		
成績評価の方法 【評価項目と割合】			
定期試験			
100%			
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
使用するテキストを用いて、各疾患などを予習および復習をすること。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
標準理学療法学・作業療法学 小児科学		医学書院	
参考書又は参考資料等			
適宜資料を配布する。			
そ の 他（受講生への要望等）			
<ul style="list-style-type: none"> ・質問は講義時間内にして下さい。 ・最終講義時にまとめを行う。配布された講義プリント全て持参すること。（河田） ・試験に対する質問は受け付けない。 			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		

授 業 科 目 名	内科学		
担 当 者 名	宮崎 三枝子		
科 目 コ ー ド	1200027	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	卒業・作業療法士必修
授業の概要と方法	リハビリテーション医学の対象となる代表的な内科疾患、ならびに合併症に対する治療、リスク管理を理解する。 胸部 X 線や心電図、CT など画像や検査内容を理解する。		
授業の到達目標	理学療法、作業療法の対象とする疾患（消化器、循環器、呼吸器、代謝内分泌、アレルギー疾患、腎泌尿器、血液、感染症）などについて詳細に理解する。		
授 業 計 画			
1.	内科総論		
2.	循環器 総論(1) 心臓、血液循環の生理、血圧測定		
3.	循環器 総論(2) 心電図、胸写の診かた		
4.	循環器 各論		
5.	呼吸器 総論		
6.	呼吸器 各論		
7.	消化器		
8.	肝、胆、膵疾患		
9.	血液疾患		
10.	代謝性疾患		
11.	内分泌疾患		
12.	腎、泌尿器 総論		
13.	腎、泌尿器 各論		
14.	アレルギー、膠原病、免疫不全		
15.	感染症		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
定期試験			
100%			
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
事後学修として復習をしっかりとする。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
標準理学療法学、作業療法学 内科学		医学書院	
参考書又は参考資料等			
必要に応じて資料を配布します。			
そ の 他（受講生への要望等）			
質問は講義中または講義終了後教室にて受け付けます。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		

授 業 科 目 名	整形外科学		
担 当 者 名	神宮司・今村・安田・泉・鬼塚・河野・平塚・加治・畑中・森		
科 目 コ ー ド	1200028	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	卒業・作業療法士必修
授業の概要と方法	リハビリテーション医学の対象となる代表的な整形外科疾患ならびに合併症に対する治療やリスク管理を理解する。また、外来診療・手術現場の情報を提供する。		
授業の到達目標	○整形外科領域における症候学に基づく、基本的知識と疾患の概要について学ぶ。 ○四肢外傷、変性疾患、炎症疾患、化膿性疾患、代謝性疾患等の治療法、特に手術療法ならびに後療法について学習する。		
授 業 計 画			
1.	運動器の基本的評価方法と基本的検査について（神宮司誠也） 教科書 P20-28 (2. 運動器の評価および検査法 A.基本的評価法 B.基本的検査)		
2.	運動器の評価と検査について、体のランドマークを理解し、検査手技を行う。（神宮司誠也） P29-41 (2. 運動器の評価および検査法 C.運動器の評価と検査)		
3.	骨の基礎と疾患（神宮司誠也） P2-5 (1. 整形外科基礎知識 A.骨の発生と成長) P76-77 (6. 先天性骨・関節疾患 A.代表的な先天性骨疾患) P71-72 (5. 代謝・内分泌疾患 B.退行性疾患 1 骨粗鬆症)		
4.	軟骨や関節の基礎と疾患（神宮司誠也） P5-8 (1. 整形外科基礎知識 B.軟骨の基本構造、C.関節の基本構造) P77-78 (6. 先天性骨・関節疾患 B.先天性関節疾患) P61-65 (4. 炎症性疾患 B.非感染症性関節疾患) P72-75 (5. 代謝・内分泌疾患、退行性疾患 B.退行性疾患 2. 変形性関節症、3. 神経病性関節症、4. 血友病性関節症)		
5.	骨格筋や神経の基礎と疾患（今村寿宏） P8-17 (1. 整形外科基礎知識 D.骨間筋の基本構造と機能、E.神経系の基本構造) P93-98 (9. 神経・筋疾患)		
6.	感染症や代謝内分泌疾患等（安田廣生） P59-61 (4. 炎症性疾患 A.感染症（軟部組織・骨・関節）) P65-71 (4. 炎症性疾患 C.炎症性疾患各論、5. 代謝・内分泌疾患、退行性疾患 A.代謝・内分泌疾患) P79-80 (6. 先天性骨・関節疾患 C.その他)		
7.	循環障害と壊死性疾患、骨軟部腫瘍（泉貞有） P81-92 (7. 循環障害と壊死性疾患、8. 骨・軟部腫瘍)		
8.	整形外科治療法前半、熱傷（皮膚移植に続いて）（安田廣生） P42-48 (3. 整形外科治療法（皮膚移植まで）) P163-165 (17. 熱傷)		
9.	整形外科治療法後半、切断及び離断（義肢装具に続いて）（安田廣生） P45-55 (3. 整形外科治療法（手術法の皮膚衣装の他）) P166-172 (18. 切断及び離断)		
10.	骨折総論、体幹並びに上肢骨折（鬼塚俊宏） P113-125 (11. 骨折 A.概論-骨折とは、B.体幹の骨折、C.四肢の骨折（上肢）)		
11.	下肢骨折、関節における外傷性疾患（河野勤） P126-130 (11. 骨折 C.四肢の骨折) P137-140 (13. 関節における外傷性疾患)		
12.	脊椎疾患（平塚徳彦） P99-110 (10. 脊椎疾患)		
13.	脊髄損傷（加治浩三） P131-136 (12. 脊髄損傷)		
14.	末梢神経や腱・靭帯の外傷性疾患（畑中均） P141-153 (14. 末梢神経における外傷性疾患、15. 腱・靭帯における外傷性疾患)		
15.	スポーツ障害（森達哉） P154-162 (16. スポーツ障害)		

成績評価の方法 [評価項目と割合]		
定期試験		
100%		
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)		
各講義に関連する教科書ページを前もって読んでくること。 事後には各章最後の“復習のポイント”に記載された問いに答えたり、本末にある“セルフアセスメント”を解答したりすること。		
使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科学第3版		
参考書又は参考資料等		
適宜資料を配布する。		
その他の (受講生への要望等)		
効率よく、且つ分かりやすくする為に、できる限り基礎と臨床をつないだ講義内容としている。 よって、教科書の順番通りではないが、すべてを網羅できるように工夫してある。各講義の教科書ページに注意すること。		
担当教員の連絡先等		
担当教員 E-mail	その他	
	質問等は、講義中に受付けます。	

授 業 科 目 名	神経内科学		
担 当 者 名	椎 裕章		
科 目 コ ー ド	1200029	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	卒業・作業療法士必修
授業の概要と方法	神経内科では神経および筋における疾患を対象としている。まず、神経と筋の構造と機能について、次に疾患の疫学、病因、病巣、臨床症状、検査所見、診断、治療について学習する。授業では、テキストを参考としながら、スライドを用いて神経内科疾患について解説する。		
授業の到達目標	神経・筋疾患の病歴より病因を想定し、神経学的所見より可能性のある病巣を挙げ、病因と病巣の組み合わせより臨床診断が行われることを理解する。		
授 業 計 画			
1.	神経学のオリエンテーション		
2.	神経系の構造と機能		
3.	意識障害、失神		
4.	頭痛、めまい		
5.	筋萎縮、筋力低下、歩行障害		
6.	感覚障害、失調、不随意運動		
7.	筋萎縮性側索硬化症、自律神経障害		
8.	認知症		
9.	パーキンソン病、パーキンソン症候群		
10.	脊髄小脳変性症、筋疾患		
11.	末梢神経障害		
12.	神経系の感染症		
13.	脱髄疾患、反射		
14.	内科的疾患、中毒性疾患		
15.	てんかん		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
定期試験			
100%			
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
講義の前に授業のテーマについて、テキストに目を通し、講義後に問題点を整理すること。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
病気がみえる vol.7 脳・神経		MEDIC MEDIA	
参考書又は参考資料等			
なし			
そ の 他 (受講生への要望等)			
疑問があれば、講義中もしくは講義後に質問して理解を深めるようにすること。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		

授 業 科 目 名	精神医学 I		
担 当 者 名	金澤 耕介		
科 目 コ ー ド	1200087	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	卒業・作業療法士必修
授業の概要と方法	1) 人との接し方、共感的態度の重要性 2) 環境が人の発達に与える影響について 3) 精神科疾患の症状と治療について教授する		
授業の到達目標	精神疾患は何ら特別な状態ではない。誰でも陥る可能性のあることを心にとめておいてもらいたい。それらに動揺することなく、直面できる力を得る。物事を考える力を身につける。		
授 業 計 画			
1.	人との接し方について		
2.	精神の発達・加齢と発達障害 1 (疾患の特性)		
3.	精神の発達・加齢と発達障害 2 (治療とリハビリテーション)		
4.	統合失調症 1 (疾患の特性)		
5.	統合失調症 2 (治療とリハビリテーション)		
6.	ストレスとは		
7.	うつ病と躁うつ病 1 (疾患の特性)		
8.	うつ病と躁うつ病 2 (治療とリハビリテーション)		
9.	その他の精神疾患 1 (疾患の特性)		
10.	その他の精神疾患 2 (治療とリハビリテーション)		
11.	認知症 1 (疾患の特性)		
12.	認知症 2 (治療とリハビリテーション)		
13.	課題学習 1		
14.	課題学習 2		
15.	まとめ		
成 績 評 価 の 方 法 【評価項目と割合】			
定期試験			
100%			
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
各講義に関連する内容について、教科書を前もって読んでくること。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
標準精神医学			
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
適宜資料を配布します。			
そ の 他 (受 講 生 へ の 要 望 等)			
質問は講義中または、講義終了後教室にて受付けます。			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail	その他		

授 業 科 目 名		精神医学Ⅱ	
担 当 者 名		金澤 耕介	
科 目 コ ー ド	1220001	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修 方 法	卒業・作業療法士必修
授業の概要と方法	精神症状の評価、精神疾患の診断、治療と対応の知識を得ることを目標とする。 前期は、総論として精神症候学、診断学、治療学を教授する。		
授業の到達目標	○精神医学全般について、総論的理解を得る。 ○精神疾患、各々についての個別の対応を理解する。		
授 業 計 画			
1.	精神医学概論	精神医学の考え方、身体基盤	
2.	精神症状学-1	意識、知覚、生理機能（睡眠、食欲等）、知能	
3.	精神症状学-2	言語、思考、感情、自我、人格	
4.	精神診断学	診断基準、面接法、検査法（心理検査、理化学検査）	
5.	精神治療学-1	身体的アプローチ（薬物療法 他）	
6.	精神治療学-2	心理学的アプローチ、社会的アプローチ	
7.	疾病各論-1	器質性精神病、症状精神病、認知症	
8.	疾病各論-2	てんかん、薬物依存	
9.	疾病各論-3	精神病性障害	
10.	疾病各論-4	気分障害	
11.	疾病各論-5	神経症性障害、ストレス障害	
12.	疾病各論-6	睡眠、食行動、性行動の障害	
13.	疾病各論-7	神経発達障害（知的障害、自閉症スペクトラム障害）	
14.	疾病各論-8	その他の病態（人格障害、行動上の問題など）	
15.	疾病各論-9	小児の特性、リエゾン精神医学、緩和医療など	
成績評価の方法 【評価項目と割合】			
定期試験			
100%			
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
・各講義に関連する内容について、教科書を前もって読んでくること。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
標準精神医学 第6版		医学書院	
参考書又は参考資料等			
・講義の進度に合わせて、適宜紹介します。			
そ の 他（受講生への要望等）			
・質問は授業中または、授業終了後教室にて受け付けます。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		

授 業 科 目 名	臨床医学概論		
担 当 者 名	中島・田中・中本・山田・河津・中島・花栗・松金・山口		
科 目 コ ー ド	1200078	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	卒業・作業療法士必修
授業の概要と方法	診療科別に、臨床で経験する頻度が高い疾患の症状、障害ならびに検査や治療法について詳細に講義を行う。また、理学療法や作業療法を行う際の疾患特有のリスク管理についても学ぶ。		
授業の到達目標	臨床医学全般を概観し、リハビリテーションの評価や治療において必要な基礎知識の修得を図ることを目的とする。 1. 尿路の解剖とその機能を理解し、排尿管理につき学習する。 2. 口腔形態・口腔機能・口腔感覚を通して食することの基本的な知識を修得し、口腔による問題への気づきの意識の向上を図る。 3. 運動器疾患の概念・治療について理解する。 4. 耳鼻咽喉科領域の正常解剖について理解する、機能について理解する、疾患の概念治療について理解する。 5. 眼科領域の解剖や概念を理解する。		
授 業 計 画			
1.	口腔器疾患1－口腔機能		(田中 徹)
2.	口腔器疾患2－摂食障害		(田中 徹)
3.	外科疾患1－救急医療		(中本充洋)
4.	泌尿器科疾患1－排尿の異常		(中島信能)
5.	泌尿器科疾患2－自己導尿		(中島信能)
6.	外科疾患2－無菌法		(中島 洋)
7.	眼科疾患1－目の機能		(松金祐介)
8.	眼科疾患2－各疾患		(松金祐介)
9.	耳鼻科疾患1－耳鼻咽喉科領域の解剖・疾患供覧		(花栗 誠)
10.	耳鼻科疾患2－過去の国家試験問題をたたき台にして疾患に対す理解を深める		(花栗 誠)
11.	皮膚科・形成外科疾患1－解剖・生理		(山田茂憲)
12.	皮膚科・形成外科疾患2－症候学		(山田茂憲)
13.	運動器疾患1		(河津隆三)
14.	運動器疾患2－脊髄損傷		(河津隆三)
15.	看護業務		(山口美香)
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
定期試験			
100%			
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
講義前に各単元についての関連事項を予習しておくこと。 講義後は、その日のうちに復習を行い、不明な点については各自調べるか、質問すること。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
なし			
参考書又は参考資料等			
单元ごとに資料を配布する。			
そ の 他 (受講生への要望等)			
積極的に講義に参加すること。 質問があれば講義中もしくは、講義終了後に受付けます。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		

授 業 科 目 名	リハビリテーション医学		
担 当 者 名	蜂須賀・津田・西野・有廣・浜村・岡崎		
科 目 コ ー ド	1200079	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	卒業・作業療法士必修
授業の概要と方法	リハビリテーション医学では対象者の機能障害によって生じる機能的制限に至る過程のなかで理学療法や作業療法の介入は重要な治療手段の一つとして認識されている。なかでも障害の基礎的概念の一つとして位置づけられている廃用症候群に対する治療介入はリハビリテーションを進める上では特に重要となる。これら廃用症候群に対しての知識や理解を深めることは、障害の予防、活動・参加の制限や制約の視点からも必須である。さらに小児から高齢者まで幅広い領域を対象とするリハビリテーション医学において、これらの対象者の生活障害の問題点について社会的立場を含め各分野の第一人者が分担し教授する。また、施設・他職場見学、カンファレンスへの参加を実施する。		
授業の到達目標	<p>○蜂須賀研二：リハビリテーション医学の概念や障害への対応について学習する。</p> <p>○浜村明德：地域リハビリテーションの目標や現状について学習する。</p> <p>○西野憲史：①高齢社会の進行に伴う社会の変化と高齢者自身がかかえる問題。そしてリハビリ専門職として知っておくべき内容を理解する。②認知症の一次、二次、三次予防の重要性について理解する。③認知症を有した高齢者とのコミュニケーションやリハビリテーションについて学習する。</p> <p>○津田 徹：呼吸機能の生理解剖を詳細に理解する。また閉塞性呼吸障害（肺気腫、気管支喘息など）、拘束性呼吸障害（じん肺、肺癌術後など）に対する呼吸リハビリテーションについて学習する。</p> <p>○岡崎哲也：高次脳機能障害の概要について学習する。</p> <p>○有廣昇司：脳血管障害の疾患特性や評価・治療について学習する。</p>		
授 業 計 画			
1.	リハビリテーション医学：概要－成り立ち、概念、評価（蜂須賀）		
2.	リハビリテーション医学：リハビリテーション治療、ボトックス療法（蜂須賀）		
3.	リハビリテーション医学の話題(1)：高次脳機能障害、自動車運転再開（蜂須賀）		
4.	リハビリテーション医学の話題(2)：ロボット支援訓練（蜂須賀）		
5.	脳血管障害 1	－脳卒中の分類、症状（有廣）	
6.	脳血管障害 2	－脳卒中の診断、治療（有廣）	
7.	高次脳機能障害 1	－失語・失行・失認（岡崎）	
8.	高次脳機能障害 2	－記憶・遂行機能（岡崎）	
9.	地域リハビリテーション 1	－海外における地域リハ・ケア活動（浜村）	
10.	地域リハビリテーション 2	－地域リハビリテーションの概念・実際（浜村）	
11.	地域リハビリテーション 3	－これからの高齢社会と地域リハビリテーション・ケア（浜村）	
12.	呼吸器疾患に対するリハビリテーション	－対象となる疾患と病態生理(津田)	
13.	〃	－呼吸リハビリテーションの評価、プログラムと実際(津田)	
14.	高齢者に対するリハビリテーション	－高齢社会とリハビリテーション(西野)	
15.	〃	－認知症予防の重要性と評価・診断について(西野)	
成績評価の方法 【評価項目と割合】			
定期試験			
100%			
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
必要に応じて別途連絡します。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
動画でわかる呼吸リハビリテーション第3版（津田徹）		中山書店	
参考書又は参考資料等			
・適宜資料を配布します。			
蜂須賀：蜂須賀研二（編集）服部リハビリテーション技術全書（第3版）、医学書院、2014年			
浜 村：地域リハビリテーション論 Ver.6（三輪書店）、地域リハビリテーションプラクシス（医療文化社）			
そ の 他（受講生への要望等）			
津 田：テキストを必ず持参すること。			
西 野：試験問題には記述式で答えることとする。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
	・質問は講義中または、講義終了後教室にて受付けます。		

授 業 科 目 名	スポーツリハビリテーション		
担 当 者 名	石橋 敏郎		
科 目 コ ー ド	1200057	授 業 形 態	演習
学 年	4	開 講 期	後期
単 位 数	1	履 修 方 法	卒業・作業療法士選択必修
授業の概要と方法	スポーツ傷害（外傷と障害）により選手が受ける身体的・精神的問題を十分把握したうえで、障害発生の予防法及び早期の現場復帰に向けた理学療法・作業療法の基本的なアプローチ方法を学ぶ。		
授業の到達目標	○スポーツリハビリテーションの意義と内容について説明することができる。 ○スポーツリハビリテーションの具体的なアプローチ方法について、講義だけでなく映像や実技を通して内容を理解する。		
授 業 計 画			
1.	スポーツリハビリテーションの概念・意義など		
2.	スポーツリハビリテーションとメディカルリハビリテーションの違いについて		
3.	スポーツ外傷とスポーツ障害の内容と違いについて		
4.	スポーツ外傷・障害の発生要因、身体への影響などについて		
5.	スポーツ傷害に対する測定と評価①（評価の進め方、疼痛・アライメントの評価）		
6.	スポーツ傷害に対する測定と評価②（関節可動域・徒手検査・筋力評価など）		
7.	スポーツ傷害に対するアプローチ①（応急処置・テーピングなど）		
8.	スポーツ傷害に対するアプローチ②（マッサージその1）		
9.	スポーツ傷害に対するアプローチ②（マッサージその2）		
10.	スポーツ傷害に対するアプローチ③（ストレッチングその1）		
11.	スポーツ傷害に対するアプローチ③（ストレッチングその2）		
12.	足関節・足部疾患に対するスポーツリハビリテーション		
13.	膝関節疾患に対するスポーツリハビリテーション		
14.	肩関節疾患に対するスポーツリハビリテーション		
15.	腰痛に対するスポーツリハビリテーション		
成績評価の方法 【評価項目と割合】			
サブノートの記入状況	実技学修状況		
50%	50%		
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
準備学習：スポーツ関連雑誌（『コーチングクリニック』、『トレーニングジャーナル』など）を読んで、最新情報を得る。 事後学習：実技手技は繰り返し練習して修得する努力をする。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
なし			
参考書又は参考資料等			
スポーツ外傷・障害の術後のリハビリテーション 園部・他書 運動と医学の出版社			
そ の 他（受講生への要望等）			
①授業の進め方：講義やビデオなどの映像を見て、サブノートに記入して学習を進める。 ②実技：実際に身体を動かしながら学びますので、積極的に参加してください。 ③その他履修者へ：質問は随時受けますので、下記メールを利用してください。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
t-ishiba@knwu.ac.jp			

授 業 科 目 名		レクリエーション	
担 当 者 名		深町 晃次	
科 目 コ ー ド	1200058	授 業 形 態	演習
学 年	4	開 講 期	後期
単 位 数	1	履 修 方 法	卒業・作業療法士選択必修
授業の概要と方法	医療や福祉分野における作業活動としてのレクリエーションの意義や活動に関する基礎知識を理解する。さらに、各分野のレクリエーションを学生グループで分担し、企画、実施することで、指導技術を身につける。		
授業の到達目標	1.レクリエーションの意義について説明することができる。 2.レクリエーションの企画、実施、評価、リスク管理ができる。		
授 業 計 画			
1.	暮らしとレクリエーション		
2.	レクリエーションの基本的理解		
3.	様々なレクリエーション		
4.	レクリエーション支援の理論		
5.	身体障害分野のレクリエーション①（教員からの解説・演習）		
6.	身体障害分野のレクリエーション②（学生の班別演習と教員からの解説）		
7.	発達障害分野のレクリエーション①（教員からの解説・演習）		
8.	発達障害分野のレクリエーション②（学生の班別演習と教員からの解説）		
9.	神障害分野のレクリエーション①（教員からの解説・演習）		
10.	精神障害分野のレクリエーション②（学生の班別演習と教員からの解説）		
11.	老年期障害分野のレクリエーション①（教員からの解説・演習）		
12.	老年期障害分野のレクリエーション②（学生の班別演習と教員からの解説）		
13.	健康増進分野のレクリエーション①（教員からの解説・演習）		
14.	健康増進分野のレクリエーション②（学生の班別演習と教員からの解説）		
15.	後期まとめ		
成 績 評 価 の 方 法 【評価項目と割合】			
授業態度	授業課題		
10%	90%		
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
班ごとのレクリエーション企画・準備において3時間程度の事前学修が必要となる			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
なし			
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
適宜、資料を配布する。 寺山久美子 監修：レクリエーション（第2版第6刷）.三輪書店.2010 蜂須賀研二 編集：リハビリテーション技術全書（第3版）.医学書院.2014			
そ の 他（受講生への要望等）			
①授業の進め方：毎回演習を行います。動きやすい服装、体育館シューズ、タオル等持参してください。 ②事前・事後学修：配布プリントを中心に事後学修し、グループごとのレクリエーション企画・実施を行います。 ③その他履修者へ：質問は随時受けますので下記メールを利用してください。			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail	その他		
fukamachi@knwu.ac.jp			

授 業 科 目 名		リハビリテーション栄養学	
担 当 者 名		小川 洋子	
科 目 コ ー ド	1200080	授 業 形 態	演習
学 年	4	開 講 期	後期
単 位 数	1	履 修 方 法	卒業・作業療法士選択必修
授業の概要と方法	「食は命なり薬なり」という言葉で現わしているように、「食」は食べ方により健康をつくり、一方病気にもなる。そして「食」は、治療の手段にもなるのである。このことを踏まえ、食の意義を理解し、食品と栄養素、食事と疾病さらに健康寿命延伸のための健康食について履修すると共にリハビリテーションに役立つ栄養学の重要性について考え、実践を目指す。		
授業の到達目標	1) 食の意義と重要性を理解する。 2) 食品と栄養素について理解する。 3) 食事と疾病との関連について理解する。 4) リハビリテーションにおける栄養学について理解する。		
授 業 計 画			
1.	教科のガイダンス カリキュラムの概要、「食」について		
2.	栄養学の基礎 1) 5大栄養素の機能		
3.	2) 栄養素含有食品と消化吸収,		
4.	栄養と食 1) 「日本人のための食事摂取基準(2015年)」、食事バランスガイド		
5.	2) 摂取エネルギーの算出、身体活動基準		
6.	3) 食とリハビリテーションの重要性		
7.	病態の栄養療法 1) 低栄養時、摂食障害時の栄養療法		
8.	2) サルコペニア、ロコモティブシンドローム		
9.	疾患別食事療法 1) 消化器疾患		
10.	2) 代謝性疾患		
11.	3) 循環器疾患		
12.	4) 腎臓疾患		
13.	5) 嚥下障害と栄養補給法		
14.	健康寿命と食 高齢期栄養について		
15.	まとめ		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
定期試験	課題提出	授業への取り組み姿勢	
80%	15%	5%	
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
食事の重要性を理解し、授業の中で自身の「食生活について」の記述をする。 そのためには、食に関する視野を広げ、興味を持ってほしい。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
・講義中に適宜、資料を配布する。			
参考書又は参考資料等			
○「糖尿病食事療法のための食品交換表〔第7版〕」 (文光堂)			
○「腎臓病食品交換表〔第8版〕」 (医歯薬出版)			
そ の 他 (受講生への要望等)			
課題等の提出物は必ず提出すること。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail		その他	
ogawa@hcc.ac.jp		講義終了後の質問等対応可。	

授 業 科 目 名	障害者スポーツ		
担 当 者 名	吉田 大輔		
科 目 コ ー ド	1200081	授 業 形 態	演習
学 年	4	開 講 期	後期
単 位 数	1	履 修 方 法	卒業・作業療法士選択必修
授業の概要と方法	この授業では、障害者福祉政策、スポーツ運動生理学・心理学、スポーツ指導方法について理解を深め、障害をもつ人が「スポーツ活動」を実践するうえで必要な支援方法について学修する。また、実際にフライングディスクやボッチャ、スラロームといった障害者スポーツを経験する。		
授業の到達目標	○障害者における「スポーツ活動」の意義と理念について理解する。 ○障害者スポーツを経験しながら、その基本的な指導方法を習得する。		
授 業 計 画			
1.	オリエンテーション（全国障害者スポーツ大会と指導員制度）		
2.	障害者福祉施策と障害者スポーツ		
3.	ボランティア論		
4.	障害に応じたスポーツの工夫・実施（フライングディスクなど）		
5.	障害者スポーツの意義と理念		
6.	障害に応じたスポーツの工夫・実施（スラローム、ボッチャなど）		
7.	障害の理解とスポーツ（身体障害）		
8.	障害の理解とスポーツ（知的障害）		
9.	障害の理解とスポーツ（精神障害）、安全管理		
10.	障害に応じたスポーツの工夫・実施（ゴールボールなど）		
11.	北九州チャンピオンズカップの試合観戦		
12.	バリアフリースポーツの体験（車椅子バスケットボール）		
13.	バリアフリースポーツの体験（車椅子ソフトボール）		
14.	車椅子バスケットボール選手との交流		
15.	総括		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
授業態度	演習課題		
50%	50%		
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
授業ではいくつかの障害者スポーツを紹介・実践します。事前に概要や大まかなルールを確認し、授業後は実技練習を重ねて他者に指導できるレベルまで到達してほしいと思います。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
新版 障がい者スポーツ指導教本	日本障がい者スポーツ協会（編）	ぎょうせい	
参考書又は参考資料等			
No Limit（日本障がい者スポーツ協会発行誌）			
そ の 他（受講生への要望等）			
授業の一環として、北九州チャンピオンズカップ 国際車椅子バスケットボール大会を観戦し、バリアフリースポーツを体験します。 日本障がい者スポーツ協会公認の障がい者スポーツ指導者資格（初級）が取得できます（資格取得には 9,300 円が必要です）。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
yoshida.d@knwu.ac.jp			

授 業 科 目 名	リハビリテーション概論		
担 当 者 名	橋元 隆・奥村 チカ子		
科 目 コ ー ド	1200082	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	卒業・作業療法士必修
授業の概要と方法	理学療法士，作業療法士の業務，役割をリハビリテーションの理念，歴史，目的，領域，現状を通して学ぶ。また，リハビリテーションにおける多職種協働やチームワークの重要性，さらには地域リハビリテーションなど包括的ケアシステムの考え方を教授する。内容が広範，かつ多岐にわたるため毎回テーマに関連した資料を配布する。		
授業の到達目標	自らが目指している理学療法士・作業療法士の業務・役割を理解できる。 関連職種とのチームワーク・協働の在り方，またコミュニケーションの重要性について理解できる。 理学療法・作業療法の実践にあたり，どのような知識・技術を在学中に習得し，実施する構えをつくれる。		
授 業 計 画			
1.	貴方たちが目指している理学療法士・作業療法士とは？	(橋元)	
2.	リハビリテーションの歴史，理念，手段，目指すところは何か。	(橋元)	
3.	障害の捉え方：ICD,ICIDH, ICF	(奥村)	
4.	リハビリテーションの関連法規	(奥村)	
5.	リハビリテーションの関連職種	(奥村)	
6.	医学的リハビリテーションの対象概説	(奥村)	
7.	社会的リハビリテーション（職業的リハビリテーションを含む）	(奥村)	
8.	筋・神経障害，高次脳機能障害の対象疾患	(奥村)	
9.	精神・心理障害の対象疾患	(奥村)	
10.	教育的リハビリテーション	(橋元)	
11.	運動器障害の対象疾患	(橋元)	
12.	呼吸・循環器障害，内部障害の対象疾患	(橋元)	
13.	高齢者に対する介護予防・健康づくり	(橋元)	
14.	地域包括ケアとリハビリテーションについて	(橋元)	
15.	食と運動の融合「健康生活の番人」とは	(橋元)	
成績評価の方法 〔評価項目と割合〕			
定期試験（筆記）	授業態度やレポート		
80%	20%		
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
リハビリテーションの最終目的は生活の再建であり，その支援である。日々の社会変化に疎くならないように，世の中の出来事に興味を持つこと。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
適宜資料を配布する			
参考書又は参考資料等			
蜂須賀研二 編集：「服部リハビリテーション全書 第3版」医学書院 2014 その他，図書室に多くの関連書があるので，おおいに利用してほしい。			
そ の 他（受講生への要望等）			
自ら目指すリハビリテーションの専門職として，夢を言葉として表現することから始めましょう。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
橋元：hashimoto@knwu.ac.jp 奥村：okumura@knwu.ac.jp			

授 業 科 目 名	地域保健学		
担 当 者 名	大丸 幸・沖 勉		
科 目 コ ー ド	1200083	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修 方 法	卒業・作業療法士必修
授業の概要と方法	公衆衛生学の基礎知識および地域保健法を基盤とした国民の健康支援活動について、医療から日常生活習慣、環境整備の重要性および国や北九州市の施策の動向や実践活動を学修することで、理学療法士・作業療法士として医療機関だけでなく、地域保健活動においても具体的な役割機能を発揮できるように、実務的な学修を行う。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生学の基礎知識を学修する。 2. 地域保健活動における理学療法士・作業療法士（PT/OT）の役割機能を学修する。 3. 地域理学療法学・地域作業療法学等への科目と連動できるようになる。 		
授 業 計 画			
1.	公衆衛生と疫学的方法について（P1～28）（沖）		
2.	健康の指標（P29～50）（沖）		
3.	感染症とその予防（P51～67）（沖）		
4.	食品保健と栄養（P69～89）（沖）		
5.	生活環境の保全（P91～117）（沖）		
6.	医療・介護の保障制度（P119～132）（沖）		
7.	産業保健（P243～261）（沖）		
8.	健康教育とヘルスプロモーション（P217～230）：PT/OTの役割とミニグループ討議（大丸）		
9.	認知症支援策とグッドプラクティス（ビデオ）：PT/OTの役割とミニグループ討議（大丸）		
10.	障害者総合支援法と身体障害者福祉法：PT/OTの役割とミニグループ討議（大丸）		
11.	難病対策（P205～215）と難病者（ALSのビデオ）：PT/OTの役割とミニグループ討議（大丸）		
12.	精神保健福祉（P231～242）と地域精神保健活動：PT/OTの役割とミニグループ討議（大丸）		
13.	高次脳機能障害者のリハビリテーション（ビデオ）PT/OTの役割とミニグループ討議（大丸）		
14.	母子保健（P151～165）と発達障害事例：PT/OTの役割とミニグループ討議（大丸）		
15.	地域保健活動（P133～150）：PT/OTの役割とミニグループ討議（大丸）		
成績評価の方法〔評価項目と割合〕			
大丸（復習ワークシート）	沖（復習ワークシート）	大丸（定期試験）	沖（定期試験）
25%	25%	25%	25%
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
準備学修は、指定した教科書の範囲または事前配布資料を事前に読んでくる。 事後学修は、復習ワークシートを原則として翌週に提出する。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
わかりやすい公衆衛生学 第4版	清水忠彦・佐藤拓代編集	ヌーベルヒロカワ	
参考書又は参考資料等			
赤澤宏平他：公衆衛生がみえる,メディックメディア,2014 厚生労働統計協会編集：国民衛生の動向,2016/2017年版 田中康之他：地域包括ケアにおけるPT・OTの役割,文光堂,東京,2016			
そ の 他（受講生への要望等）			
医療に対するニーズが大きく変化し、医療保健福祉サービスを総合的に供給するシステムを理解することが求められていますので、主体的学修を期待します。後半はショート事例を紹介してミニグループ討議と発表を行います。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail		その他	
大丸：ohmaru@knwu.ac.jp			

授 業 科 目 名	臨床統計		
担 当 者 名	岩田 一男		
科 目 コ ー ド	1200061	授 業 形 態	演習
学 年	3	開 講 期	前期
単 位 数	1	履 修 方 法	卒業・作業療法士選択必修
授業の概要と方法	統計学の基礎を学び、実験データ、調査データの処理や解釈を行う。基礎的な統計学の方法の解説と演習を身近なデータで取り上げる。できるだけ数式を使わず、難解な数学的論証を省きつつも、医療現場に即した事例で幅広い内容とする。 講義形式で進めていき、必要に応じて実際に手を動かし、演習を通してその解析・活用方法を理解していく。		
授業の到達目標	臨床統計の基本的な考え方をマスターし、統計を正しく使って統計結果（統計が教えてくれる有益な情報）が正しく見られるようになる。		
授 業 計 画			
1.	ガイダンス、医学研究におけるコントロール		
2.	ランダム化研究		
3.	効果の指標		
4.	統計的仮説検定		
5.	信頼区間		
6.	研究に必要なサンプルサイズ		
7.	平均値の比較		
8.	観察研究デザイン、中間まとめ		
9.	オッズ比という指標		
10.	交絡の問題		
11.	相関関係と回帰分析		
12.	回帰分析による交絡の調整		
13.	スクリーニング検査の評価		
14.	生存時間の解析とハザード比		
15.	まとめ		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
提出物など日常の受講状況	確認テスト		
60%	40%		
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
日々提出しなければならない課題がある。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
医療統計力を鍛える	千葉康敬	総合医学社	
参考書又は参考資料等			
必要に応じて授業中に案内する。			
そ の 他（受講生への要望等）			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
k-iwata@knwu.ac.jp			

授 業 科 目 名	医療人のための経営管理		
担 当 者 名	岩田 一男		
科 目 コ ー ド	1200064	授 業 形 態	演習
学 年	4	開 講 期	後期
単 位 数	1	履 修 方 法	卒業・作業療法士選択必修
授業の概要と方法	<p>職種に応じてそれぞれに必要な専門知識や能力を身につけるだけでは、医療人として十分とは言えない。それを補うひとつとして経営管理がある。</p> <p>ここでは、組織をマネジメントする上で必要な基礎知識と、経営課題を解決する能力と実践的な経営能力を身につける備えとして、経営基本管理、人事・組織・行動論、会計・財務と経営分析、リスクマネジメントなどを学ぶ。また、医療機関の経営スキームを理解するうえで必要な、経営の本質、収入の仕組みなども併せて採り上げる。</p>		
授業の到達目標	<p>○経営管理の入門レベルの知識を身につける。</p> <p>○医療の仕組み、病院の仕組みを知る。</p>		
授 業 計 画			
1.	ガイダンス、医療経営学と日本の医療		
2.	医療と経営学		
3.	経営組織		
4.	医事管理		
5.	人的資源管理		
6.	調達と在庫管理		
7.	会計・財務と経営分析①（会計・財務の基礎、経営分析の基礎）		
8.	会計・財務と経営分析②（投資等の指標、病院の場合の利益と費用）		
9.	中間まとめ		
10.	医療保険制度と DPC（診断群分類）		
11.	医療の評価		
12.	リスクマネジメント		
13.	経営に役立つ医療の情報化と医療情報システム		
14.	医療情報の標準化と組織		
15.	まとめ		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
提出物など日常の受講状況	確認テスト		
60%	40%		
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
毎回授業参加前に行うべき調べ学習（キーワード）があり、その成果を授業中に発表してもらう。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
特に購入の必要なし。			
参考書又は参考資料等			
「医療経営情報学」山内一信 同友館。 そのほか必要に応じて授業中に案内する。			
そ の 他（受講生への要望等）			
なし			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
k-iwata@knwu.ac.jp			

授 業 科 目 名	フィールド・スタディ		
担 当 者 名	岩田 一男		
科 目 コ ー ド	1200066	授 業 形 態	演習
学 年	4	開 講 期	後期
単 位 数	1	履 修 方 法	卒業・作業療法士選択必修
授業の概要と方法	<p>フィールド・スタディとは何か？ いろいろな定義があるだろうが、そのひとつとして、「ある調査対象について学術研究をする際に、そのテーマに即した場所（現地）を実際に訪れ、その対象を直接観察し、関係者には聞き取り調査やアンケート調査を行い、そして現地での史料・資料の採取を行うなど、学術的に客観的な成果を挙げるための調査技法」がある。</p> <p>この授業では、学生がやりたいことを具体的に企画し、その計画に従い、ゴールに向かって進めることになる。講義形式が部分的に含まれるが、自主的な活動形式（調査～整理～発表など）が中心である。</p>		
授業の到達目標	<p>○企画やプロジェクトマネジメントの基礎概要を学び、実際の活動に適用することで、将来さまざまな課題を自ら解決していくためのコツをつかむ。</p> <p>○多様な考え方を持つメンバーと共同作業を行うことで、コミュニケーション能力を養う。</p>		
授 業 計 画			
1.	ガイダンス、テーマ選定、グループ分け		
2.	企画力アップのコツ、プロジェクトマネジメント予備知識		
3.	各グループ活動（例：計画書の立案、精査）		
4.	計画報告会		
5.	各グループ活動（例：関連資料収集）		
6.	各グループ活動（例：アンケート準備）		
7.	各グループ活動（例：同上依頼、報告会①資料作成）		
8.	中間報告会①（5～7の成果物）		
9.	各グループ活動（例：アンケート結果整理）		
10.	各グループ活動（例：データ分析）		
11.	各グループ活動（例：同上グラフ化、報告会②資料作成）		
12.	中間報告会②（9～11の成果物）		
13.	各グループ活動（例：考察と各種整理）		
14.	各グループ活動（例：最終報告会資料作成）		
15.	最終報告会		
成績評価の方法 【評価項目と割合】			
グループ活動の進捗状況	グループでの貢献度合	成果発表内容	
40%	40%	20%	
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
自主的な活動形式なので、グループによっては、授業外での活動時間が左右される。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
使用しない。			
参考書又は参考資料等			
必要に応じて授業中に案内する。			
そ の 他（受講生への要望等）			
授業計画の1. 2. 4. 8. 12. 15以外は、各グループで定めたルールに従い活動する。			
【重要】※受講希望者へ			
初回授業開始までに各自がやりたいことを簡単にメモしておくが良い。			
「㊦テーマ（20文字程度）、㊧キーワード（3～5個）、㊨要約（任意）」			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
k-iwata@knwu.ac.jp			

授 業 科 目 名		作業療法学概論	
担 当 者 名		大丸 幸・奥村 チカ子・佐野 幹剛・淵 雅子	
科 目 コ ー ド	1220065	授 業 形 態	講義
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	卒業・作業療法士必修
授業の概要と方法	人およびその生活における作業活動の意義について考え、それを基盤に作業療法を総合的・体系的に概説する。また、対象となる身体障害、老年期障害、精神障害、発達障害の作業療法について理解を深め、「障害を持つ人」の生活再建に果たす作業療法の役割について考察する。加えて、医療人としてリハビリテーションにおける作業療法士の資質について検討する。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 作業活動の意義や作業療法の機能と役割を理解する。 2. 医学的・社会的・教育的・職業的リハビリテーションにおける作業療法を体系的に理解する。 3. 身体障害、老年期障害、精神障害、発達障害の作業療法を理解する。 4. 医療人および作業療法士の資質とあり方について学ぶ。 		
授 業 計 画			
1.	オリエンテーションおよびレポート指針 (KW:論文, 抄録, テーマ, 序論, 対象, 方法, 結果, 考察, 結論, 文献, 図表)		
2.	資質を考える ―医療専門職としての資質・作業療法士としての資質― (KW: 医療人の資質, 対象者との関係)		
3.	障害とリハビリテーション領域 (KW:ICF, ICIDH, 医学的リハ, 教育的リハ, 職業的リハ, 社会的リハ, 地域リハ)		
4.	作業療法とチームリハビリテーション (KW:医学モデル, 生活モデル, チーム医療, Normalization, QOL, IL, 自己決定, IC)		
5.	作業療法とリハビリテーションの歴史 (KW:ピネル, シモン, ADA, 呉秀三, 高木憲次, 障害者基本法, 精神保健福祉法)		
6.	リハビリテーションおよび作業療法に関する定義 (KW:WHO 定義 PT・OT 法定義, 日本作業療法士協会定義)		
7.	作業療法の流れ (KW:処方箋, 評価, カンファレンス, リハビリテーションゴール, OT 治療計画, 治療実施)		
8.	作業療法評価と治療計画 (KW:情報収集, 観察, 面接, 検査測定, 身体機能, 精神機能, MMT,ROM,ADL,QOL, ゴール)		
9.	精神障害の作業療法 (KW:統合失調症, 気分障害, 認知症)		
10.	身体障害, 高齢期障害の作業療法 (KW:脳血管障害, 整形疾患)		
11.	発達障害の作業療法 (KW:脳性麻痺, 自閉症スペクトラム障害)		
12.	地域支援における作業療法 (KW:北九州市, CBR, 地域包括支援, 地域保健法, 障がい者自立支援法)		
13.	病期・ライフステージと作業療法 (KW:急性期, 回復期, 維持期, 小児期, 成人期, 高齢期)		
14.	作業療法部門の管理運営, 職業倫理(KW:記録報告, 施設基準, 診療報酬, 医の倫理, ヒボクラテス, 日本作業療法士協会倫理)		
15.	作業療法に関連する制度、法律 (KW:理学療法士及び作業療法士法, 医療法, 介護保険)		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
レポート	定期試験		
20%	80%		
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
予習・復習を欠かさず、可能な限り疑問点を解決すること。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
作業療法概論	杉原素子編集	協同医書	
参考書又は参考資料等			
なし			
そ の 他 (受講生への要望等)			
<ol style="list-style-type: none"> ① 予習による疑問点が解決できない場合は講義中に積極的に質問すること, ② 意見交換や討議を行う場合は積極的に発言すること, ③ 大学生としての態度と探求心をもって受講することを望みます。 			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
授業内で連絡します			

授 業 科 目 名	基礎作業		
担 当 者 名	平澤 勉・小川 修		
科 目 コ ー ド	1220066	授 業 形 態	演習
学 年	1	開 講 期	前期
単 位 数	1	履 修 方 法	卒業・作業療法士必修
授業の概要と方法	作業療法において活用頻度の高い種目を中心に、実際の作業活動に取り組む。学生自身が心身に起こる様々な変化を体験し、作業活動への理解を深める。評価・治療への応用ができるようになることを目標とする。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 作業活動の特徴を理解し、臨床で用いる準備をする。 2. 作業活動を他者に指導できるようになる。 3. 活動分析ができるようになる。 		
授 業 計 画			
1.	オリエンテーション, 革細工の活動特性について, 実習: 革細工制作①		
2.	実習: 革細工制作②		
3.	実習: 革細工制作③		
4.	革細工の作業分析		
5.	実習: 革細工制作④		
6.	実習: 革細工制作⑤		
7.	実習: 革細工制作⑥		
8.	革細工の作業分析とまとめ		
9.	籐細工の活動特性について, 実習: 籐細工制作①		
10.	実習: 籐細工制作②		
11.	実習: 籐細工制作③		
12.	実習: 籐細工制作④		
13.	籐細工の作業分析とまとめ		
14.	コラージュの活動特性について, 実習: コラージュ制作①		
15.	実習: コラージュ制作②, まとめ		
成 績 評 価 の 方 法 【評価項目と割合】			
定期試験	課題	授業参加度	
50%	40%	10%	
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
教科書の該当部分を読み演習に臨む。重要項目を復習する。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 作業学 (改訂第2版)			
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
古川宏・監修つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル, 医歯薬出版, 2012			
そ の 他 (受 講 生 へ の 要 望 等)			
作業活動を実習する授業のため, 学校指定のジャージを着用すること。 作業後の清掃・片付けを重視してください。			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail	その他		
hirasawa@knwu.ac.jp			

授 業 科 目 名		活動解析演習	
担 当 者 名		佐野 幹剛	
科 目 コ ー ド	1220050	授 業 形 態	演習
学 年	3	開 講 期	前期
単 位 数	1	履 修 方 法	卒業・作業療法士必修
授業の概要と方法	作業療法の中核をなす作業活動について、科学的視点で作業の持つ本質を詳細に分析演習する。特に、日常生活活動において、動作的要素、認知的要素、感情的要素にわけて、普段実行している活動の構成要素を明確にする。さらに、運動麻痺、高次脳機能障害などの障害特性からくる作業活動の問題を検討する。		
授業の到達目標	○人間の動きに関する動作分析の方法を理解し、基本的動作を分析することができる。 ○日常生活活動における動作的要素、認知的要素、感情的要素を理解することができる。 ○運動障害や認知障害に伴う行動問題を分析することができる。		
授 業 計 画			
1.	オリエンテーション 活動分析の目的と臨床での応用		
2.	活動分析の方法① ビデオを使った身体部位の動作解析法		
3.	活動分析の方法② 重心動揺計を使った姿勢変化の解析法		
4.	活動分析の方法③ フォースプレートを使った歩行分析		
5.	活動分析の方法④ 筋電図を使った筋活動パターンの解析		
6.	活動分析の実際① 基本動作の分析1：立ち上がり動作		
7.	活動分析の実際② 基本動作の分析2：寝返り動作		
8.	活動分析の実際③ 基本動作の分析3：リーチング動作		
9.	日常生活活動の分析① 掃除の動作的要素、認知的要素、感情的要素		
10.	日常生活活動の分析② 食器洗いの動作的要素、認知的要素、感情的要素		
11.	日常生活活動の分析③ 洗濯物を干す作業の動作的要素、認知的要素、感情的要素		
12.	運動障害や認知障害に伴う日常生活動作の課題分析① 更衣動作		
13.	運動障害や認知障害に伴う日常生活動作の課題分析② 食事動作		
14.	運動障害や認知障害に伴う日常生活動作の課題分析③ 入浴動作		
15.	まとめ		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
活動分析に関する課題レポート	日常生活活動分析の課題レポート	障害特性に配慮した課題分析レポート	
30%	30%	40%	
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
基礎作業、基礎作業実習Ⅰ、基礎作業実習Ⅱの演習及び実習内容を復習しておくこと。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
授業中に適宜、資料を配布する。			
参考書又は参考資料等			
「日常生活活動の分析 身体運動学的アプローチ」 医歯薬出版株式会社			
そ の 他 (受講生への要望等)			
実際に機器を使用しながらテーマに沿った分析を行います。 機器の取り扱いには十分気をつけてください。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
sano@knwu.ac.jp			

授 業 科 目 名		基礎作業実習 I	
担 当 者 名		深町 晃次・小川 修	
科 目 コ ー ド	1220067	授 業 形 態	実習
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	1	履 修 方 法	卒業・作業療法士必修
授業の概要と方法	作業療法において活用頻度の高い種目を中心に、実際に作業活動に取り組むことを通して、学生自身が心身に起こる様々な変化を体験し、評価・治療への応用ができるようになることを目標とする。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 作業活動を学び、活動分析ができるようになる。 2. 作業活動の特徴を理解し、臨床で用いる準備をする。 3. 作業活動を他者に指導できるようになる。 		
授 業 計 画			
1.	オリエンテーション・レクリエーション① レクの活動特性, 実習①		
2.	レクリエーション② 実習: 対象者の想定 (グループ討論) を含む		
3.	レクリエーション③ 実習: 活動分析, 指導体験 (発表)		
4.	陶芸① 陶芸の活動特性, 陶芸制作①		
5.	陶芸② 実習: 陶芸制作②		
6.	陶芸③ 実習: 陶芸制作③, 制作指導体験		
7.	陶芸④ 実習: 陶芸制作④, 活動分析 (発表)		
8.	金工① 金工の活動特性, 金工制作①		
9.	金工② 実習: 金工制作②, 制作指導体験		
10.	金工③ 実習: 金工制作③, 活動分析 (発表)		
11.	木工① 木工の活動特性, 木工制作①		
12.	木工② 実習: 木工制作②		
13.	木工③ 実習: 木工制作③, 制作指導体験		
14.	木工④ 実習: 木工制作④, 活動分析 (発表)		
15.	後期のまとめ		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
授業態度	授業での課題	定期試験	
10%	40%	50%	
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
各回、次回講義への課題が提出されるため 1 時間程度の事前学修が必要となる。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
作業療法学 ゴールドマスター・テキスト 改訂第 2 版 作業学	監修 長崎重信	メジカルビュー社	
参考書又は参考資料等			
標準作業療法学 基礎作業学(医学書院) はじめての陶芸 (成美堂) 作業って何だろう (医歯薬)			
そ の 他 (受講生への要望等)			
①授業の進め方: 各作業活動の最終回は、実習・製作を終了しグループメンバーでまとめた活動分析の発表を行います。			
②事前・事後学修: 各活動初回授業の前に、指定した教科書を読んできてください。			
③その他履修者へ: 実技や活動制作が中心となる授業のため、動きやすく汚れても大丈夫な服装で授業に臨んでください。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
fukamachi@knwu.ac.jp (深町) nimuta95qg@knwu.ac.jp (小川)			

授 業 科 目 名		基礎作業実習Ⅱ	
担 当 者 名		深町 晃次・宮田 浩紀・平澤 勉	
科 目 コ ー ド	1220068	授 業 形 態	実習
学 年	2	開 講 期	前期
単 位 数	1	履 修 方 法	選択／作業療法士必修
授業の概要と方法	先人の作業療法・作業活動の哲学を学び、作業療法の最大の特徴となる“作業・活動”に関して基礎知識を修めることを目的とする。作業療法における作業の適用のしかたと実践について説明する。作業分析について学び、基礎作業学実習のファンデーションとなることを目指す。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 作業療法の哲学を知り、人間と作業の関係を説明することができる。 2. 作業療法における作業の適用のしかたと実践について理解することができる。 3. 作業分析の理論と方法を説明することができる。 		
授 業 計 画			
1.	作業学を学ぶ方へ (深町)		
2.	作業療法における作業 (深町)		
3.	作業学とは (深町)		
4.	作業を用いた療法に関連する基本的事項 (深町)		
5.	作業はどう使えば効果的か？～症例を通して～ (深町)		
6.	身体機能を向上させるための方法 (平澤)		
7.	作業分析 (平澤)		
8.	分析結果と治療目標 (平澤)		
9.	治療実施における目標設定の順序性 (平澤)		
10.	指導方法 (平澤)		
11.	身体障害 (宮田)		
12.	精神障害 (宮田)		
13.	発達障害 (宮田)		
14.	高齢障害者 (宮田)		
15.	まとめ (深町・平澤・宮田)		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
授業態度	授業での課題	定期試験	
10%	40%	50%	
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
準備学修 (教科書の該当部分を読み講義に臨む。配布された課題を読み、不明な点は調べておく。) 事後学修 (確認テストに備えて、重要項目を復習する。)			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 改訂第2版 作業学	監修 長崎重信	メジカルビュー社	
参考書又は参考資料等			
小林夏子,福田恵美子編：標準作業療法学 基礎作業学, 医学書院, 2012 吉川ひろみ：「作業」って何だろう, 医歯薬出版, 2008			
そ の 他 (受講生への要望等)			
グループワークによる協議など、演習を交えながら進めますので積極的に参加してください。質問については、ワークシートやオフィスアワーを活用してください。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail		その他	
深町：fukamachi@knwu.ac.jp 平澤：hirasawa@knwu.ac.jp 宮田：miyata@knwu.ac.jp			

授 業 科 目 名		作業療法ゼミナール I	
担 当 者 名		大丸・奥村・佐野・岩田・渕・深町・四元・村田・小川・平澤・宮田	
科 目 コ ー ド	1220069	授 業 形 態	演習
学 年	1	開 講 期	通年
単 位 数	1	履 修 方 法	卒業・作業療法士必修
授業の概要と方法	<p>作業療法は生活学を基盤にした臨床の学問であり、生活の多様な側面に興味を持ち、その構造や仕組みを知る必要がある。身近なテーマに着目し、作業療法の観点で論文を精読することから具体的な研究のスタイルをゼミナール形式で学ぶ。</p> <p>前半（前期）は授業計画の1～8、後半（後期）は9～15の内容を演習します。</p>		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 作業療法を研究という視点から見ることにより、作業療法の展開的發展に寄与する視点をもつことができる。 2. 研究のプロセスや基本的なスタイルについて理解することができる。 3. 学術論文のスタイルに慣れる。 		
授 業 計 画			
1.	オリエンテーション		
2.	レポートの書き方①		
3.	レポートの書き方②		
4.	図書館での情報検索		
5.	ノート・資料整理		
6.	情報の整理法		
7.	資料文献の構成と利用方法		
8.	まとめ（中間）		
9.	文献抄読① 脳血管障害		
10.	文献抄読② 整形外科疾患		
11.	文献抄読③ 統合失調症		
12.	文献抄読④ 気分障害		
13.	文献抄読⑤ 認知症		
14.	文献抄読⑥ 発達障害		
15.	まとめ（最終）		
成 績 評 価 の 方 法 [評価項目と割合]			
授業態度（ゼミへの貢献度）	レポート	課題	
45%	40%	15%	
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
討議等に向けて事前・事後の学習を必要とする。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
論文・レポートの基本	石黒 圭	日本実業出版社	
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
井下千以子：思考を鍛える レポート・論文作成法.慶應大学出版会,2014			
そ の 他（受講生への要望等）			
<p>課題に対して自ら検討・提案して積極的に主体的に参加すること。</p> <p>ゼミ担当者の指示に従うこと。</p> <p>授業の第9回から第14回の内容は、ゼミによって異なります。</p>			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail	その他		
ゼミ配置および担当教員アドレスは別途連絡する。			

授 業 科 目 名		作業療法ゼミナールⅡ	
担 当 者 名		大丸・奥村・佐野・岩田・湊・深町・四元・村田・小川・平澤・宮田・中山	
科 目 コ ー ド	1220070	授 業 形 態	演習
学 年	2	開 講 期	通年
単 位 数	1	履 修 方 法	卒業・作業療法士必修
授業の概要と方法	<p>先行研究の論文に親しみながら、学生の興味のある領域の論文を読み、作業療法を研究の視点でとらえる。また、自分自身が研究テーマを持って小グループを形成し、文献抄読、ディスカッションを行い、これまで抄読した文献をまとめプレゼンテーションを行う。第1回～第8回は各ゼミグループ、第9回～第15回は中山が担当する。</p>		
授業の到達目標	<p>1. 過去の研究を調査・整理して分析して課題を抽出し報告することができる。 2. 収集した資料をまとめ、プレゼンテーションすることができる。 3. 研究テーマを持つことができる。</p>		
授 業 計 画			
1.	オリエンテーション・資料文献の検索方法		
2.	文献抄読会（身体障害）		
3.	文献抄読会（発達障害）		
4.	文献抄読会（精神障害）		
5.	文献抄読会（老年期障害・地域作業療法）		
6.	プレゼンテーション演習 Power Point 発表の要点		
7.	プレゼンテーション演習 Power Point 発表①		
8.	プレゼンテーション演習 Power Point 発表②		
9.	オリエンテーション・研究をするということ、作業療法と研究		
10.	研究疑問と研究の様式		
11.	研究の流れ		
12.	研究デザインと種類		
13.	研究の発表		
14.	研究と統計		
15.	まとめ		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
レポート	プレゼンテーション		
70%	30%		
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
<p>討議等に向けて事前の調査・検討や発表資料・プレゼンテーションファイルの作成、事後の学修を必要とする。</p>			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
論文・レポートの基本 この一冊でちゃんと書ける！	石黒圭	日本実業出版社	
参考書又は参考資料等			
鎌倉矩子：作業療法士のための研究入門 三輪書店 1997			
そ の 他（受講生への要望等）			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
ゼミ配置および担当教員アドレスは別途連絡します。			

授 業 科 目 名		作業療法ゼミナールⅢ	
担 当 者 名		大丸・奥村・佐野・岩田・渕・深町・四元・村田・小川・平澤・宮田・中山	
科 目 コ ー ド	1220071	授 業 形 態	演習
学 年	3	開 講 期	通年
単 位 数	1	履 修 方 法	卒業・作業療法士必修
授業の概要と方法	研究論文作成に向けた具体的な体験をしながら、研究の基本的な手順を実践する。「作業療法研究法」で作成した研究計画書を検討し、パイロットスタディ等を計画し実施する。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究の流れを理解できる 2. パイロットスタディ等を用いて、研究計画案を実施できる 3. 研究の過程をプレゼンテーションできる 		
授 業 計 画			
1.	オリエンテーションとスケジュール立案		
2.	研究計画書の確認①		
3.	研究計画書の確認②		
4.	パイロットスタディ準備①		
5.	パイロットスタディ準備②		
6.	パイロットスタディ実施①		
7.	パイロットスタディ実施②		
8.	パイロットスタディのデータ分析①		
9.	パイロットスタディのデータ分析②		
10.	プレゼンテーション準備①		
11.	プレゼンテーション準備②		
12.	プレゼンテーション①		
13.	プレゼンテーション②		
14.	プレゼンテーション③		
15.	プレゼンテーション④		
成 績 評 価 の 方 法 【評価項目と割合】			
授業参加度（ゼミへの貢献度）	プレゼンテーション	提出物（研究実施報告書；様式は別途提示する）	
40%	40%	20%	
授 業 外 で 行 う べ き 学 習 （準備学習・事後学習等）			
ゼミでの討議やパイロットスタディ準備、プレゼンテーション資料作成のため、事前・事後の学習を必要とする。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
よくわかる卒論の書き方（やわらかアカデミズム・わかるシリーズ）	白井 利明, 高橋 一郎	ミネルヴァ書房	
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
石黒 圭：この1冊できちんと書ける！論文・レポートの基本。日本実業出版社，2012 鎌倉 矩子：作業療法士のための研究法入門。三輪書店，1997 その他、授業中に紹介する。			
そ の 他 （受講生への要望等）			
課題に対して自ら検討・提案して積極的に主体的に参加すること。 ゼミ担当者の指示に従うこと。 複数学生共同でテーマを持つことは認めない。			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail	その他		
ゼミ配置および担当教員アドレスは別途連絡します。	授業計画1を前期、残りを後期に実施する。 内容はゼミによって適宜変更し実施する。		

授 業 科 目 名		作業療法研究法	
担 当 者 名		大丸・奥村・佐野・岩田・湊・深町・四元・村田・小川・平澤・宮田・中山	
科 目 コ ー ド	1220072	授 業 形 態	演習
学 年	3	開 講 期	前期
単 位 数	1	履 修 方 法	選択/作業療法士必修
授業の概要と方法	個々の研究テーマを検討し、研究論文作成に向けた具体的な体験をしながら、研究の基本的な手順を実践する。学生のそれぞれのテーマについてグループで検討し、テーマの絞り込みと方法論や分析法などを詳細に検討する。研究計画書を作成し、その内容をプレゼンテーションする。		
授業の到達目標	1.研究テーマを持つことができる 2.研究計画書を作成することができる 3.研究について発表・議論できる		
授 業 計 画			
1.	オリエンテーション		
2.	個々のテーマの方向性確認と意見交換		
3.	個々のテーマに関する文献報告①		
4.	個々のテーマに関する文献報告②		
5.	個々のテーマに関する文献報告③		
6.	個々のテーマの研究計画討議①		
7.	個々のテーマの研究計画討議②		
8.	研究計画 中間プレゼンテーション①		
9.	研究計画 中間プレゼンテーション②		
10.	研究計画修正①		
11.	研究計画修正②		
12.	研究計画書作成①		
13.	研究計画書作成②		
14.	研究計画プレゼンテーション (PowerPoint 使用) と最終研究計画書提出①		
15.	研究計画プレゼンテーション (PowerPoint 使用) と最終研究計画書提出②		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
授業参加度 (発表, 議論などゼミへの貢献)		研究計画書等の提出物	
60%		40%	
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
ゼミでの討議や研究計画書作成のため、事前・事後の学習を必要とする。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
よくわかる卒論の書き方 (やわらかアカデミズム・わかるシリーズ)	白井 利明, 高橋 一郎	ミネルヴァ書房	
参考書又は参考資料等			
石黒 圭: この1冊できちんと書ける! 論文・レポートの基本. 日本実業出版社, 2012 鎌倉 矩子: 作業療法士のための研究法入門. 三輪書店, 1997 その他, 授業中に紹介する。			
そ の 他 (受講生への要望等)			
課題に対して自ら検討・提案して積極的に主体的に参加すること。 報告・発表がないとゼミがすすまないため、十分な準備をもって臨むこと。 ゼミ担当者の指示に従うこと。 複数学生共同でテーマを持つことは認めない。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail		その他	
ゼミ配置および担当教員アドレスは別途連絡します。		内容はゼミによって適宜変更し実施する。	

授 業 科 目 名		身体障害評価論演習 I	
担 当 者 名		四元 孝道	
科 目 コ ー ド	1220007	授 業 形 態	演習
学 年	2	開 講 期	前期
単 位 数	1	履 修 方 法	卒業・作業療法士必修
授業の概要と方法	身体障害分野における身体機能の基本的な評価の知識や方法を演習を通して学習する。 これらで学んだ評価法を用いて治療に結び付けられるような視点を養う。		
授業の到達目標	1. 形態測定や関節可動域検査など各種の評価の意味や方法を説明できる。 2. 各種検査を適切に実践できる。 3. 各評価をまとめ、症例についての適切な報告が行える。		
授 業 計 画			
1.	オリエンテーション（評価の概論や意義）		
2.	ICF と COPM		
3.	意識・バイタル		
4.	形態測定①（概論と評価演習）		
5.	形態測定②（評価演習とその記録報告）		
6.	関節可動域①（概論と評価演習：上肢）		
7.	関節可動域②（上肢とその記録報告）		
8.	関節可動域③（上下肢）		
9.	関節可動域④（下肢とその記録報告）		
10.	徒手筋力検査①（概論と評価演習：上肢）		
11.	徒手筋力検査②（上肢）		
12.	徒手筋力検査③（上肢とその記録報告）		
13.	徒手筋力検査④（下肢）		
14.	徒手筋力検査⑤（下肢とその記録報告）		
15.	まとめ（臨床を想定しての演習）		
成 績 評 価 の 方 法 【評価項目と割合】			
定期試験	実技試験	小テスト	
50%	30%	20%	
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
関節可動域測定練習と徒手筋力検査法測定練習			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第2版.	(編) 岩崎テル子、他	医学書院	
新・徒手筋力検査法 原著第9版	Helen J.Hislop, Jacqueline Montgomery(訳)津山直一、他	協同医書	
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
齋藤慶一郎：臨床での測定精度を高める！ROM測定法 - 代償運動のとらえ方と制動法の理解と実践 - . (株)メジカルビュー社, 東京,2016			
そ の 他 (受 講 生 へ の 要 望 等)			
演習が可能な服装・道具を準備すること。 関節可動域測定と徒手筋力検査測定の練習を何度も実施しておくこと。			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail	その他		
yotsumoto@knwu.ac.jp			

授 業 科 目 名	身体障害評価論演習Ⅱ		
担 当 者 名	四元 孝道・宮田 浩紀		
科 目 コ ー ド	1220008	授 業 形 態	演習
学 年	2	開 講 期	後期
単 位 数	1	履 修 方 法	卒業・作業療法士必修
授業の概要と方法	身体障害分野における身体機能の基本的な評価の知識や方法について演習を通して学習する。これらで学んだ評価法を用いて治療に結び付けられるような視点を養う。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 感覚検査、反射検査など各種の評価の意味や方法を説明できる。 2. 各種検査を適切に実践できる。 3. 各評価をまとめ、症例についての適切な報告が行える。 		
授 業 計 画			
1.	オリエンテーション・感覚検査：概論		
2.	感覚検査：評価演習		
3.	感覚検査：記録報告		
4.	反射検査：概論と評価演習		
5.	反射検査：評価演習と記録報告		
6.	姿勢反射・筋緊張検査		
7.	協調性検査		
8.	上肢機能検査：概論（片麻痺の機能検査も含む）		
9.	上肢機能検査：評価演習と記録・報告		
10.	脳神経検査：概論		
11.	脳神経検査：評価演習と記録報告		
12.	ICF（活動・参加）		
13.	症例評価報告（脳血管障害・神経疾患）		
14.	症例評価報告（整形疾患）		
15.	まとめ		
成 績 評 価 の 方 法 【評価項目と割合】			
定期試験	実技試験	小テスト	
50%	30%	20%	
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
小テストは前回の授業範囲について行う			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第2版	（編）岩崎テル子、他	医学書院	
ベッドサイドの神経の診かた 第18版	田崎義昭，斎藤佳雄	南山堂	
参考書又は参考資料等			
なし			
そ の 他（受講生への要望等）			
演習を中心に進めていく。 演習が可能な服装・道具を準備すること。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
四元：yotsumoto@knwu.ac.jp 宮田：miyata.h@knwu.ac.jp			

授 業 科 目 名		精神障害評価論演習	
担 当 者 名		小川 修	
科 目 コ ー ド	1220086	授 業 形 態	演習
学 年	2	開 講 期	後期
単 位 数	1	履 修 方 法	卒業・作業療法士必修
授業の概要と方法	精神障害者のリハビリテーションに必要な評価とその方法、および疾患別における評価方法について演習とともに提示する。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神障害リハビリテーションの流れを説明できる。 2. 精神機能、社会生活機能の評価を理解する。 3. 対象者を理解し治療計画を立てることができる。 4. 疾患別、回復段階に応じた作業療法評価を習得し、実習に備える。 		
授 業 計 画			
1.	各種理論と評価Ⅰ：芸術療法（絵画療法、音楽療法）、箱庭療法		
2.	各種理論と評価Ⅱ：行動療法、森田療法、心理劇		
3.	各種理論と評価Ⅲ：社会生活技能訓練、心理教育、認知行動療法		
4.	精神分析理論、交流分析理論		
5.	精神障害の構造		
6.	精神障害作業療法の流れ：評価と治療計画		
7.	精神障害作業療法の評価方法と評価内容、治療目的		
8.	疾患別作業療法評価：統合失調症		
9.	症例評価演習：統合失調症		
10.	疾患別作業療法評価：認知症		
11.	症例評価演習：認知症		
12.	疾患別作業療法評価・症例評価演習：アルコール、薬物依存		
13.	評価演習：社会生活機能評価演習		
14.	評価演習：精神機能評価演習と症例評価演習		
15.	評価演習：症例評価演習		
成績評価の方法 【評価項目と割合】			
定期試験			
100%			
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
各自、各種理論や評価について予習すること。そして疑問点を整理して、可能な限り理解するよう調べること。その中で文献検索の方法を学び、同時に興味や問題意識を深めるとともに、問題解決能力を養うこと。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
標準作業療法学 作業療法評価学（第2版）	岩崎テル子他・編	医学書院	
作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 精神障害作業療法学（改訂第2版）	山口芳文・編	メジカル・ビュー社	
参考書又は参考資料等			
朝田隆，中島直，堀田英樹：精神疾患の理解と精神科作業療法，中央法規出版，2012 適宜資料を配布する			
そ の 他（受講生への要望等）			
①予習による疑問点が解決できない場合は講義中に積極的に質問すること。 ②意見交換や討議を行う場合は積極的に参加・発言すること。 ③学生としての態度と探求心をもって受講すること。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail		その他	
nimuta95qg@knwu.ac.jp			

授 業 科 目 名	認知機能障害評価論演習		
担 当 者 名	四元 孝道・宮田 浩紀		
科 目 コ ー ド	1220073	授 業 形 態	演習
学 年	3	開 講 期	前期
単 位 数	1	履 修 方 法	卒業・作業療法士必修
授業の概要と方法	高次脳機能障害に関する障害像を理解し、その評価方法の基本的な知識と技術について演習を通して体験し、発表することでその技術を獲得する。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高次脳機能障害の臨床症状を理解して適切な検査を選択することができる。 2. 各高次脳検査の手順と方法を説明し、実施することができる。 3. 各検査の結果を解釈し、説明することができる。 		
授 業 計 画			
1.	オリエンテーション：高次脳機能検査の種類		
2.	知能検査①（WAIS・HDS-R・MMSE）		
3.	知能検査②（Kohs 立方体組み合わせテスト・RCPM）		
4.	注意評価①（CAT）		
5.	注意評価②（CAT・TMT・行動観察）		
6.	記憶検査①（WMS-R）		
7.	記憶検査②（Rey の複雑図形検査、RBMT）		
8.	前頭葉検査①（FAB、FT）		
9.	前頭葉検査②（KWCST、TOT）		
10.	遂行機能検査（BADS）		
11.	失行検査（SPTA、他）		
12.	失認検査①（BIT）		
13.	失認検査②（VPTA）		
14.	失語症検査（SLTA・WAB・日常生活）		
15.	まとめ		
成績評価の方法 【評価項目と割合】			
発表	レポート		
50%	50%		
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
<p>グループごとに検査方法をまとめ各グループ間で発表しレポートを提出する。</p> <p>各グループ間で検査評価方法を調べて担当ごとに練習しグループ内で発表するため、各自発表の際にはしっかりと練習してその評価法に精通すること。</p>			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
なし			
参考書又は参考資料等			
<p>長崎重信：作業療法学ゴールド・マスターテキスト 5 高次脳機能作業療法学。メジカルビュー社、2012。</p> <p>他 高次脳機能障害治療学演習で使用する教科書</p>			
そ の 他（受講生への要望等）			
高次脳機能障害の症状から適宜検査を選択して結果を被験者にわかりやすく伝えることをイメージしてください。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
四元：yotsumoto@knwu.ac.jp 宮田：miyata.h@knwu.ac.jp			

授 業 科 目 名	発達障害評価論演習		
担 当 者 名	佐野 幹剛		
科 目 コ ー ド	1220010	授 業 形 態	演習
学 年	2	開 講 期	前期
単 位 数	1	履 修 方 法	卒業・作業療法士必修
授業の概要と方法	発達障害児の作業療法について理解を深めながら、発達途上にある子どもたちの健康な部分と障害の部分を見分け、治療につなげていく評価法について学習する。多様化する発達障害の臨床像に適した評価法を選択し、実施する手順を教授する。また、評価結果を分析し、作業療法を計画できる一連の過程を演習することにより習得していく。		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ○発達障害の作業療法で用いる評価の種類を理解することができる。 ○発達障害を持つ子どもの臨床像を運動学的解剖学的に評価することができる。 ○発達障害に対する標準的な評価の具体的な内容と手順を理解することができる。 		
授 業 計 画			
1.	発達障害に対する作業療法評価の意義		
2.	発達障害の概要とその臨床像		
3.	評価手段の分類と種類		
4.	静止画像を用いた臨床像の分析		
5.	動作分析法1：床上動作		
6.	動作分析法2：移動動作		
7.	動作分析法3：巧緻動作		
8.	動作分析法4：口腔機能		
9.	反射と反応の評価		
10.	発達スクリーニング検査の使い方		
11.	視知覚発達検査の実際		
12.	認知発達評価と人物画テストの実際		
13.	神経生理学的検査の実際		
14.	ADL評価と面接法		
15.	まとめ		
成績評価の方法 〔評価項目と割合〕			
基本動作の分析レポート	発達障害児の画像分析レポート	定期試験	
20%	20%	60%	
授業外で行うべき学習 （準備学習・事後学習等）			
人間発達学、運動学総論で学習した内容を復習しておくこと。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
授業中に適宜、資料を配布する。			
参考書又は参考資料等			
作業療法評価学 生田宗博 協同医書			
そ の 他 （受講生への要望等）			
静止画像の分析では、発達障害を持つ児童の画像を見ながら姿勢の特徴を捉えていく演習を行う。運動学用語を使えるように各自学習しておくこと。 動作分析法では、身体を動かしながら分析する演習を行うので実習着を準備しておくこと。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
sano@knwu.ac.jp			

授 業 科 目 名	日常生活活動分析論演習		
担 当 者 名	宮田 浩紀		
科 目 コ ー ド	1220011	授 業 形 態	演習
学 年	2	開 講 期	前期
単 位 数	1	履 修 方 法	卒業・作業療法士必修
授業の概要と方法	<p>私達は日常生活活動（食事・整容・更衣・排泄・入浴など）を通して毎日の生活をしている。しかし病気やケガ、障害、老化によりこれらの動作を円滑に遂行することができなくなることが多く、作業療法士の役割のひとつとして日常生活動作の改善が求められている。</p> <p>この演習では日常生活活動に関する概念の基礎から書く動作の評価、活動分析の視点、さらに福祉用具や住宅改修などの工夫や援助について理解を深める。</p>		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ADL の概念や範囲を説明できる 2. 代表的な ADL 評価方法を知る 3. 各活動の工程、動作を理解し、障害領域別の支援方法を知る 4. 歩行補助具や車椅子、福祉用具を用いた日常生活活動の工夫・支援が理解できる 		
授 業 計 画			
1.	オリエンテーション・日常生活活動の概念		
2.	ADL 評価①BI・代表的な ADL 評価		
3.	ADL 評価②FIM		
4.	身体機能の ADL①起居・移乗・移動		
5.	身体機能の ADL②食事・整容・更衣・排泄・入浴		
6.	グループワーク学修（各 ADL 毎）		
7.	プレゼンテーション（各グループ毎）		
8.	APDL①睡眠・栄養・運動・炊事		
9.	APDL②掃除・買い物・経済管理		
10.	運動器障害・整形外科疾患の ADL		
11.	精神機能・発達障害の ADL		
12.	福祉用具		
13.	住宅環境		
14.	生活行為支援		
15.	まとめ		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
定期試験	レポート		
80%	20%		
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
教科書や配布されたプリントを用いて準備学修・事後学修を心がけてください。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
標準作業療法学 日常生活活動・社会生活行為学	濱口 豊太編	医学書院	
参考書又は参考資料等			
適宜プリントを配布します			
そ の 他（受講生への要望等）			
グループ学修やプレゼンテーションなどそれぞれが主体的に動き、ディスカッション、コミュニケーションが円滑にできることを期待します。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
miyata.h@knwu.ac.jp	第 12 回、第 13 回の福祉用具、住宅環境については、より理解を深めるために外部講師を交えての講義を予定しています。		

授 業 科 目 名		医療安全管理学	
担 当 者 名		大丸 幸・淵 雅子	
科 目 コ ー ド	1220074	授 業 形 態	講義
学 年	3	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	卒業・作業療法士必修
授業の概要と方法	リハビリテーション業務での医療事故は年々増加しており、個人情報漏洩などもあげられる。作業療法士は対象者のリスクマネジメントとともに、物品や情報、自分自身の管理能力を身につけることも必要となる。また、作業療法事故防止のために、高齢・身体・発達・精神障害の各領域におけるリスク管理の臨床実態を学び、安全対処ができるチームの一員となれるための基本的知識を演習（グループ学習・発表）することにより、臨床に臨む準備態勢を培う。		
授業の到達目標	1、疾患の急変予測やリスクマネジメントに対処できるようになる。 2、作業療法実施上の安全管理と自分自身の管理能力を身につける。		
授 業 計 画			
1.	リスクマネジメントとは：安全管理・推進のためのガイドライン（P19～24）、インシデント・アクシデントレポートの演習（大丸）		
2.	リハビリテーションにおけるリスク管理：急変の心構えと基本的知識（P2～13、P25～43）：（淵）		
3.	リハビリテーション中に起きたアクシデントと法的責任（P44～53）：（大丸）		
4.	事故分析法とヒヤリ・ハット事例演習、福祉用具の「ヒヤリ・ハット」：（大丸）		
5.	医療事故実態調査領域別分析（身体障害・発達障害・精神障害・老年期障害）、精神障害領域での医療安全：（大丸）		
6.	疾患ごとの急変予測①脳卒中（P56～75）：（淵）		
7.	疾患ごとの急変予測②運動器疾患（P76～92）：（淵）		
8.	疾患ごとの急変予測③循環器疾患・呼吸器疾患（P93～111）：（淵）		
9.	疾患ごとの急変予測④悪性腫瘍・糖尿病（P112～125）：（淵）		
10.	遭遇しやすい急変症状とその対処方法①（P128～151）：（淵）		
11.	遭遇しやすい急変症状とその対処方法②（P152～168）：（淵）		
12.	遭遇しやすい急変症状とその対処方法③（P169～195）：（淵）		
13.	急変を生じた場合に（P198～237）、リハビリテーションに関連するその他のリスク（P240～292）：（淵）		
14.	事故防止：事故内容別演習シート、医療事故処理の流れ：（大丸）		
15.	臨床実習に向けて、個人情報保護と作業療法士の職業倫理：（大丸）		
成績評価の方法 【評価項目と割合】			
大丸定期試験	大丸演習シート	淵定期試験	淵演習シート
20%	20%	30%	30%
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
準備学修は、指定した教科書の範囲またはテーマ課題については資料を事前に読んで発表準備をしてくる。事後学修は、演習シートを原則として翌週に提出する。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
「リハビリテーションリスク管理ハンドブック」	亀田メディカルセンター	メジカルビュー社、2012	
参考書又は参考資料等			
日本作業療法士協会：「作業療法 事故防止マニュアル」,2005 医療安全ハンドブック編集委員会：「医療安全管理の進め方」,メジカルフレンド社,2002 嶋森好子：「医療安全対策ガイドライン」,じほう,2007 菊池恵美子：「OT 臨地実習ルートマップ」.MEDICAL VIEW.2011			
そ の 他（受講生への要望等）			
グループ討議やワークシートにより受講生の授業に対する認識を確認していくので、感想や質問等については積極的にワークシートに自由記載すること。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail		その他	
大丸：ohmaru@knwu.ac.jp 淵：fuchi@knwu.ac.jp			

授 業 科 目 名	身体障害作業療法学 I		
担 当 者 名	村田 奈保子		
科 目 コ ー ド	1220075	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修 方 法	卒業・作業療法士必修
授業の概要と方法	身体障害に対し作業療法は、身体機能と生活動作を関連させたアプローチを提供する。中枢神経疾患、運動器疾患をはじめ、内部障害など多様な病態と生活障害に対応するため、身体障害に対する作業療法の治療理論、介入方法の基礎的知識を学習する。その後、主要疾患である脳血管障害の症状や病態像、評価、作業療法介入・治療の実際について学ぶ。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 身体障害領域の対象、目的を説明することができる。 2. 作業療法の実践として必要な評価からアプローチへの流れを説明できる。 3. 治療理論として作業療法の臨床に応用されている様々な理論体系を理解する。 4. 脳血管障害の病態像・評価・作業療法介入について説明することができる。 		
授 業 計 画			
1.	身体障害における作業療法の役割		
2.	作業療法の実践過程		
3.	生体力学的アプローチと神経筋アプローチ		
4.	関節可動域（ROM）制限の起因と改善		
5.	作業療法における関節可動域訓練		
6.	筋力・筋持久力低下の起因と改善		
7.	作業療法における筋力・筋持久力の訓練		
8.	感覚障害への再教育		
9.	筋緊張異常の起因と改善		
10.	失調症の発生原因と分類・改善		
11.	不随意運動の分類と改善		
12.	脳血管障害 1（病態と障害像）		
13.	脳血管障害 2（評価と目標設定）		
14.	脳血管障害 3（治療と予後）		
15.	まとめ		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
定期試験	小テスト	課題	
70%	20%	10%	
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
<ul style="list-style-type: none"> ・既に履修済みの解剖学・生理学・運動学・身体障害評価論をよく確認して、授業に臨むようにして下さい。 ・疾患・障害・治療の理解を深めるため疾患別ノートを作成します。作成の要点は①疾患名②病因③病態④主要徴候⑤機能障害⑥重症度・回復の程度を知るための評価 			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
作業療法学全書「作業治療学 1 身体障害」	菅原洋子	協同医書出版社	
参考書又は参考資料等			
Lorraine Willams Pedretti：身体障害の作業療法、協同医書出版社 岩崎テル子、他：標準作業療法学「作業療法評価学」、医学書院 中村隆一：基礎運動学、医歯薬出版株式会社 田崎義昭、他：ベッドサイドの神経の診かた、南山堂 福井園彦、他：脳卒中最前線、医歯薬出版株式会社			
そ の 他（受講生への要望等）			
場合によっては、実技チェックの実施もあり得ますので、予習・復習および各回の授業での理解を十分に深めるようにして下さい。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
murata@knwu.ac.jp			

授 業 科 目 名		身体障害作業療法学Ⅱ	
担 当 者 名		奥村 千カ子・渕 雅子・村田 奈保子	
科 目 コ ー ド	1220076	授 業 形 態	講義
学 年	3	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	卒業・作業療法士必修
授業の概要と方法	身体障害作業療法学Ⅱでは、身体障害に対する作業療法の代表的疾患について症状や病態像、評価、作業療法介入・治療の実際について学ぶ。また、各疾患の主要徴候・一次障害・二次障害について学生自ら調べ、授業の中で確認する。		
授業の到達目標	1. 各疾患の病態像・評価・作業療法介入について説明することができる。 2. 各疾患の主要徴候・一次障害・二次障害について説明することができる。		
授 業 計 画			
1.	整形外科疾患（骨折）	（奥村）	
2.	末梢神経損傷	（奥村）	
3.	熱傷・腱損傷	（奥村）	
4.	脊髄損傷 1（障害と評価）	（渕）	
5.	脊髄損傷 2（治療）	（渕）	
6.	脊髄損傷 3（ADL）	（渕）	
7.	パーキンソン病 1（病態と障害像）	（村田）	
8.	パーキンソン病 2（評価と治療）	（村田）	
9.	関節リウマチ 1（病態と障害像）	（村田）	
10.	関節リウマチ 2（評価と支援）	（村田）	
11.	脊髄小脳変性症	（村田）	
12.	筋萎縮性側索硬化症・多発性硬化症	（村田）	
13.	心臓疾患・呼吸器疾患	（村田）	
14.	糖尿病・乳がん	（村田）	
15.	まとめ		
成績評価の方法〔評価項目と割合〕			
定期試験	小テスト	課題	
50%	30%	20%	
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
<ul style="list-style-type: none"> 各テーマごとに理解を深めるため、各疾患について予習・復習が必要です。 各疾患についてノートにまとめて下さい。まとめる要点は①疾患名②病因③病態④主要徴候⑤機能障害⑥重症度・回復の程度を知るための評価 			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
作業療法学全書「作業治療学 1 身体障害」	菅原洋子	協同医書出版社	
参考書又は参考資料等			
Lorraine Willams Pedretti：身体障害の作業療法、協同医書出版社 岩崎テル子、他：標準作業療法学「作業療法評価学」、医学書院 中村隆一：基礎運動学、医歯薬出版株式会社 田崎義昭、他：ベッドサイドの神経の診かた、南山堂			
そ の 他（受講生への要望等）			
各疾患終了後の翌講義に、小テストを実施します。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail		その他	
村田：murata@knwu.ac.jp 奥村：okumura@knwu.ac.jp 渕：fuchi@knwu.ac.jp			

授 業 科 目 名	急性期精神障害作業療法学		
担 当 者 名	大丸 幸・平澤 勉		
科 目 コ ー ド	1220077	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修 方 法	卒業・作業療法士必修
授業の概要と方法	心理社会的治療としての作業療法の背景に、精神疾患の早期介入や地域生活支援プログラムなどがある。前半（大丸）は、発症早期に病相特異的で包括的な支援を継続的かつ集中的に実施する急性期精神医療の実際を救急病棟の事例から学び、事例演習を基本に急性期精神科作業療法の実施計画をグループ演習する。後半（平澤）は、様々な精神疾患の理解と作業療法の治療構造について、視聴覚教材を用いながら解説し、グループ演習を深める。		
授業の到達目標	1. 精神病の急性期から回復期へ移行する各期：混乱期・消耗期・回復期(前期・後期)での病相特異的な留意点を学修する。 2. 各期の病相特異的な留意点をふまえての作業療法の事例演習を行う。 3. 各精神疾患の作業療法の基礎知識を修得する。		
授 業 計 画			
1.	早期精神病の臨界期と病相特異的で包括的な介入とは（大丸）		
2.	混乱期：1、入院時の対応コンセプトと事例演習：（大丸）		
3.	混乱期：2、急性期の対応コンセプトと作業療法実施計画のグループ演習：（大丸）		
4.	消耗期：3、消耗期の対応コンセプトと事例演習：（大丸）		
5.	消耗期：4、消耗期の対応コンセプトと作業療法実施面のグループ演習：（大丸）		
6.	回復期（前期・後期）：5、回復期（前期・後期）の対応コンセプトと事例演習：（大丸）		
7.	回復期(前期・後期)：6、回復期(前期・後期)の対応コンセプトと作業療法実施計画のグループ演習：（大丸）		
8.	気分障害 うつ病性障害：障害像と作業療法の目的（平澤）		
9.	気分障害 うつ病性障害：作業療法の援助過程（平澤）		
10.	気分障害 双極性障害：躁状態の特徴と作業療法（平澤）		
11.	双極性障害：作業療法治療構造 神経症性障害：転換性障害（平澤）		
12.	神経症性障害：不安障害、強迫性障害、解離性障害（平澤）		
13.	摂食障害：神経性無食欲症および神経性大食症（平澤）		
14.	パーソナリティ障害：境界性パーソナリティ障害（平澤）		
15.	急性期作業療法を始めるにあたって（大丸）、疾患別作業療法のまとめ（平澤）		
成績評価の方法 【評価項目と割合】			
大丸定期試験	大丸演習レポート	平澤定期試験	平澤提出物
25%	25%	30%	20%
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
大丸：準備学修（救急精神病棟の事例を読んで授業に臨む。） 事後学修（ワークシート提出） 平澤：準備学修（教科書の該当部分を読み講義に臨む。不明な用語は調べておく。） 事後学修（確認テストに備えて、重要項目を復習する。）			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
救急精神病棟	野村進	講談社	
作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 精神障害作業療法学（改訂第2版）	山口芳文・編	メジカル・ビュー社	
参考書又は参考資料等			
小林夏子監修：精神機能作業療法学,医学書院,2014 香山明美他監修：精神障害作業療法（第2版）,医歯薬出版,2014			
そ の 他（受講生への要望等）			
事例演習を基本にしてグループ演習するので、準備・事後学修して臨むこと。（大丸） 事前に教科書を読んでおく、自分から質問するなど、学習する構えを重視します。（平澤）			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail		その他	
大丸：ohmaru@knwu.ac.jp 平澤：hirasawa@knwu.ac.jp			

授 業 科 目 名	地域移行精神障害作業療法学		
担 当 者 名	中山 広宣・深町 晃次・小川 修		
科 目 コ ー ド	1220078	授 業 形 態	講義
学 年	3	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	卒業・作業療法士必修
授業の概要と方法	精神医療および精神障害作業療法の治療構造の基本を理解したうえで、入院医療における作業療法から地域生活支援における作業療法の役割を考える。加えて、入院医療中心から地域生活中心へという精神保健福祉の基本施策とリハビリテーションについて考える。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神医療の治療構造を説明できる。 2. 精神障害作業療法の治療構造を説明できる。 3. 精神障害の地域リハビリテーションを説明できる。 4. 作業療法を計画・立案できる。 		
授 業 計 画			
1.	精神医療の歴史と変遷：病院医療から地域医療	(中山)	
2.	精神保健福祉法と作業療法	(中山)	
3.	精神療法と作業療法	(中山)	
4.	疾患別精神療法：統合失調症、うつ病など	(中山)	
5.	集団精神療法，治療共同体	(中山)	
6.	デイケア，ナイトケア	(中山)	
7.	精神障害作業療法総論	(中山)	
8.	精神障害作業療法の治療構造	(中山)	
9.	作業活動の治療的意義	(小川)	
10.	精神障害作業療法の流れと治療計画	(深町)	
11.	精神障害作業療法の面接と評価	(深町)	
12.	治療構造のまとめ	(小川)	
13.	社会生活技能訓練	(小川)	
14.	心理教育ミーティング	(深町)	
15.	チームリハビリテーション，ACT，オレンジプラン，自立支援など	(深町)	
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
小テスト	定期試験		
50%	50%		
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
テキストおよび資料の予習を欠かさず、疑問点を整理して、問題意識を持って受講すること。予習における疑問点は事前に調べて受講すること。その中で文献検索の方法を学び、同時に興味や問題意識を深める。復習はテキストおよび資料を振り返り、記憶に留めること。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
作業療法学 ゴールドマスター 精神障害作業療法（改訂第2版）	監修 長崎 重信	メジカルビュー社	
参考書又は参考資料等			
<ul style="list-style-type: none"> ・資料配布（中山） ・朝田隆，中島直，堀田英樹：精神疾患の理解と精神科作業療法，中央法規出版，2012 			
そ の 他（受講生への要望等）			
<ol style="list-style-type: none"> ①講義は受講生と教員の双方向で深まります。 ②疑問点は些細なことでも積極的に質問して下さい。 			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
中山：h-nakayama@knwu.ac.jp	深町：fukamachi@knwu.ac.jp		
小川：ogawa@knwu.ac.jp			

授 業 科 目 名		発達障害作業療法学	
担 当 者 名		佐野 幹剛	
科 目 コ ー ド	1220079	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修 方 法	卒業・作業療法士必修
授業の概要と方法	発達障害の臨床像を理解するとともに、子どもの潜在的な能力を引き出し、社会に適応できるスキル獲得に向けた治療立案・指導を教授する。また、家族に対する対応、保育園・学校などと地域とのつながりについても検討する。講義では、映像や画像を活用し理解を深める。		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ○複雑な臨床所見を持つ子どもたちの疾患特性を理解することができる。 ○子どもの潜在能力を引き出し、社会適応できるスキル獲得に向けた作業療法プログラムを考案することができる。 ○家族に対する対応、保育園・学校など地域とのつながりについても理解することができる。 		
授 業 計 画			
1.	オリエンテーション、発達障害とは		
2.	知的障害、ダウン症候群の臨床像と作業療法		
3.	自閉スペクトラム症の臨床像と作業療法		
4.	注意欠如多動性症候群の臨床像と作業療法		
5.	限局性学習障害の臨床像と作業療法		
6.	脳性まひの臨床像と治療 1 痙直型片麻痺		
7.	脳性まひの臨床像と治療 2 痙直型四肢麻痺		
8.	脳性まひの臨床像と治療 3 痙直型両麻痺		
9.	脳性まひの臨床像と治療 4 アテトーゼ型四肢麻痺		
10.	筋ジストロフィー症の臨床像と治療		
11.	重症心身障害の臨床像と治療		
12.	作業療法技術論 1 : ADL と口腔機能		
13.	作業療法技術論 2 : 移動と移乗		
14.	姿勢管理と座位保持装置		
15.	まとめ		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
「二分脊椎の臨床像と作業療法」課題レポート		定期試験	
30%		70%	
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
人間発達学、発達障害評価論演習、小児科学で学習した内容を復習しておくこと。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
脳性麻痺の類型別運動発達	B.Bobath	医歯薬出版	
イラストでわかる発達障害の作業療法	辛島千恵子	医歯薬出版	
参考書又は参考資料等			
神経発達学的治療と感覚統合理論 Erna I.Blanche, Tina M.Botticelli, Mary K.Hallway 協同医書			
そ の 他 (受講生への要望等)			
発達障害に関わるボランティアなどチャンスがあれば積極的に参加してください。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail		その他	
sano@knwu.ac.jp			

授 業 科 目 名	基礎義肢装具学		
担 当 者 名	奥村 千カ子		
科 目 コ ー ド	1210017	授 業 形 態	講義
学 年	2	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修 方 法	卒業・作業療法士必修
授業の概要と方法	義肢装具の種類、構造やその適応を理解し機能障害や能力障害への介入時に有益な治療手段として役立てることが臨床では強く求められる。そのためには義肢装具の基本となる種類、構造やその機能について理解することが重要となる。本科目では代表的な義肢・装具の名称、構造や機能の確認など、基礎を中心とした学習を行なう。		
授業の到達目標	①義肢の基礎的知識を理解することができる。 ②体幹および下肢装具の目的、機能、適応について理解できる。 ③上肢装具の目的、機能、適応について理解できる。		
授 業 計 画			
1.	義肢装具の概説、義肢装具のメカニクス		
2.	装具の分類		
3.	体幹装具：名称、機能、適応		
4.	下肢装具：名称、機能、適応		
5.	上肢装具に必要なバイオメカニクス		
6.	上肢装具の分類		
7.	上肢装具の適応：末梢神経障害		
8.	上肢装具の適応：RA		
9.	上肢装具の適応：頸髄損傷		
10.	切断と義肢の概要：切断の現況、義手の分類		
11.	義手のパーツ：名称、機能		
12.	義手のパーツ：名称、機能		
13.	義手の適応：切断部位とパーツの選択		
14.	義手のチェックアウト：適合判定と問題解決法		
15.	義手の総括、フォローアップ		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
定期試験			
100%			
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
授業内容については必ず復習を行い、分からない箇所は質問し、明確に理解できるようにしておくこと。質問に関しては科目担当教員まで。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
適宜資料を配布する			
参考書又は参考資料等			
義肢装具のチェックポイント (医学書院)			
義肢装具学第4版 (医学書院)			
そ の 他 (受講生への要望等)			
義肢装具はその構造や機能が革新的に進歩しており障害者に対する QOL 向上 (障害者スポーツなど) に大きく貢献している。このような点にも日頃から関心を持つように心掛けてください。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
okumura@knwu.ac.jp			

授 業 科 目 名	臨床義肢装具演習		
担 当 者 名	奥村 千カ子		
科 目 コ ー ド	1200068	授 業 形 態	演習
学 年	3	開 講 期	前期
単 位 数	1	履 修 方 法	選択/作業療法士必修
授業の概要と方法	基礎義肢装具学に引き続き、より臨床に即した義肢装具の知識と技術を習得する。スプリントの製作、義肢装着訓練、義肢を使った生活の理解と支援、適合判定、装具療法等について演習と講義を通じ、臨床での実践力を身につける。		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ○切断端管理を理解し、切断者の生活の理解と支援の視点を持てる。 ○上肢切断に対する作業療法プログラムを立案できる。 ○基本的なスプリントを作成できる。 ○スプリントのチェックアウトができる。 		
授 業 計 画			
1.	授業の進め方、切断術と切断者の断端管理		
2.	上肢切断者の作業療法：評価		
3.	上肢切断者の作業療法：義手訓練		
4.	作業療法プログラム作成演習：プログラム作成上の留意事項		
5.	作業療法プログラム作成演習：上腕切断		
6.	作業療法プログラム作成演習：前腕切断		
7.	スプリントのデザイン、作成上の留意点		
8.	スプリント材料の種類と特性		
9.	スプリント作成演習：機器の使用法とチェックアウト		
10.	スプリント作成演習：リングスプリント		
11.	スプリント作成演習：マレットフィンガー用スプリント		
12.	スプリント作成演習：短対立装具		
13.	スプリント作成演習：カックアップスプリント		
14.	スプリント作成演習：サムスパイカ		
15.	義肢装具の活用と作業療法士の役割		
成 績 評 価 の 方 法 【評価項目と割合】			
定期試験	レポート	課題	
60%	30%	10%	
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
レポート提出が多いので、授業の復習及び疾患についての自己学習を行う事			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
適宜資料を配布する			
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
授業の中で適宜紹介する			
そ の 他（受講生への要望等）			
<ul style="list-style-type: none"> ・第8回～14回の演習は2部構成でします。受講日を間違わないように注意して下さい。 ・スプリント作成演習ではリスク管理に努めること。 			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail	その他		
okumura@knwu.ac.jp			

授 業 科 目 名	高次脳機能障害作業療法学		
担 当 者 名	淵 雅子		
科 目 コ ー ド	1220080	授 業 形 態	講義
学 年	3	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	卒業・作業療法士必修
授業の概要と方法	高次脳機能障害の概要と各論における障害像を理解し、作業療法実践（評価方法、治療方法）に関する基本的知識と技術を獲得する。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高次脳機能障害の定義、分類、症状を説明することができる。 2. 高次脳機能障害の評価方法と手順を説明し実施することができる。 3. 高次脳機能障害に対する作業療法方法を説明し実践することができる。 		
授 業 計 画			
1.	オリエンテーション；高次脳機能障害総論		
2.	脳の構造と機能		
3.	画像の見方：CT・MRI		
4.	高次脳機能障害に対する作業療法評価と介入の概要		
5.	意識・見当識・知能の障害：概要と評価・介入		
6.	注意障害：概要と評価・介入		
7.	記憶障害：概要と評価・介入		
8.	知覚性認知能力の障害：概要と評価・介入		
9.	空間性能力（半側空間無視等）の障害：概要と評価・介入		
10.	身体認知能力の障害：概要と評価・介入		
11.	行為能力の障害：概要と評価・介入		
12.	言語能力の障害：概要と評価・介入		
13.	統合的認知能力の障害：概要と評価・介入		
14.	疾患別高次脳機能障害の理解と介入		
15.	症例検討		
成 績 評 価 の 方 法 【評価項目と割合】			
定期試験	小テスト	症例検討レポート	
60%	20%	20%	
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
授業毎に次回の範囲を指示するので予習をおこなうこと。 授業数回ごとに小テストをするので復習をおこなうこと。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
作業療法全書改訂第3版第8巻 作業療法治療学5 高次脳機能障害	日本作業療法士協会監修 淵雅子編集	協同医書出版社	
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
高次脳機能障害マエストロシリーズ①～④. 医歯薬出版株式会社 長崎重信：作業療法学ゴールド・マスターテキスト高次脳機能作業療法学. メジカルビュー社 日常生活から高次脳機能障害を理解する・認知行動アセスメント. 三輪書店			
そ の 他（受講生への要望等）			
授業後質問項目を回収し次回授業開始時に Q&A コーナーを設けます。積極的に提出してください。			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail	その他		
fuchi@knwu.ac.jp			

授 業 科 目 名	高齢期障害作業療法学		
担 当 者 名	村田 奈保子・宮田 浩紀・高橋 精一郎		
科 目 コ ー ド	1220081	授 業 形 態	講義
学 年	3	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	卒業・作業療法士必修
授業の概要と方法	超高齢社会を迎えたわが国における高齢者を取り巻く環境を含めて、高齢期作業療法のプロセスを学習する。高齢者の身体面精神面の加齢性変化から、疾患の理解、作業療法評価と介入について理解し、症例検討をもとに評価結果の統合、目標設定、介入計画の検討を通して、個別事例の特性に応じた作業療法過程を学習する。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の身体面精神面の加齢性変化並びに、生活課題を説明できる。 2. 高齢期作業療法が実施されている領域の特徴と作業療法の役割を説明できる。 3. 高齢期作業療法で必要とされる評価及び介入技術の基本を身につける。 4. 提示された事例について、評価結果の統合、目標設定、介入計画について説明できる。 		
授 業 計 画			
1.	高齢者の心身機能と身体構造	(村田)	
2.	高齢者を巡る日本の現状と生活課題	(高橋)	
3.	高齢者に起こりやすい症候など	(高橋)	
4.	高齢期作業療法の介入 1	(宮田)	
5.	高齢期作業療法の介入 2	(宮田)	
6.	高齢期作業療法の特徴	(村田)	
7.	高齢期作業療法の評価 1	(村田)	
8.	高齢期作業療法の評価 2	(村田)	
9.	認知症の理解	(村田)	
10.	認知症の評価と介入	(村田)	
11.	事例を用いた評価計画立案 (グループワーク)	(宮田・村田)	
12.	提示された事例の検討 (グループワーク)	(宮田・村田)	
13.	各グループによる検討内容の報告と質疑応答 1 (症例 A)	(宮田・村田)	
14.	各グループによる検討内容の報告と質疑応答 2 (症例 B)	(宮田・村田)	
15.	まとめ	(宮田・村田)	
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
定期試験	レポート	事例報告書	
60%	20%	20%	
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
・グループワークでは、授業時間外でのグループ内ディスカッションあるいはプレゼンテーションの作業が含まれることがあります。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
標準作業療法学「高齢期作業療法」	松房利憲、小川恵子	医学書院	
高齢者のための知的機能検査の手引き	大塚俊男、本間 明	ワールドプランニング	
参考書又は参考資料等			
浅海奈津美・守口恭子：老年期の作業療法、三輪書店			
山田孝：クリニカル作業療法シリーズ 高齢期障害領域の作業療法、中央法規出版株式会社 他			
そ の 他 (受講生への要望等)			
グループワークでは事例報告書作成にあたり、他人任せではなく積極的な参加を望みます。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
村田：murata@knwu.ac.jp 宮田：miyata.h@knwu.ac.jp 高橋：s-takahashi@knwu.ac.jp			

授 業 科 目 名	臨床作業療法学演習 I		
担 当 者 名	奥村・大丸・佐野・澁・深町・四元・村田・小川・平澤・宮田		
科 目 コ ー ド	1220082	授 業 形 態	演習
学 年	3	開 講 期	後期
単 位 数	1	履 修 方 法	選択/作業療法士必修
授業の概要と方法	臨床実習Ⅲ（評価実習）の準備として、実習生としての心得や評価方法の選択、実施、統合と解釈などをグループで演習する。臨床実習Ⅲ終了後、評価技術の定着および臨床実習Ⅳに向けての演習を行う。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習生としての心得を理解し、医療人としての望ましい態度や行動をとることができる。 2. 疾患特性を理解し、適切に評価方法を選択することができる。 3. 評価目的を理解し、適切に実施することができる。 		
授 業 計 画			
1.	オリエンテーション		
2.	ソーシャルマナー		
3.	個人情報保護法の理解と臨床での記録、問題志向型診療記録「SOAP」の書き方演習		
4.	評価演習：身体障害①		
5.	評価演習：身体障害②		
6.	評価演習：精神障害①		
7.	評価演習：精神障害②		
8.	評価演習：老年期障害①		
9.	評価演習：発達障害①		
10.	評価演習：身体障害③		
11.	評価演習：身体障害④		
12.	評価演習：精神障害③		
13.	評価演習：精神障害④		
14.	評価演習：老年期障害②		
15.	評価演習：発達障害②		
成績評価の方法 【評価項目と割合】			
レポート	定期試験	参加度・貢献度	
40%	40%	20%	
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
準備として、これまで学習してきた作業療法評価学を復習しておくこと。グループ演習や提出物の作成に、事前・事後の学習を必要とする。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
臨床実習録	九州栄養福祉大学		
参考書又は参考資料等			
授業中に紹介する			
そ の 他（受講生への要望等）			
清潔な実習着で演習を行うこと。評価に必要な備品の内、ゴニオメーター、メジャー、打鍵器、ストップウォッチは各自用意すること。 臨床の作業療法士による特別講義を別途実施する。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
担当教員アドレスは別途連絡します。			

授 業 科 目 名	臨床作業療法学演習Ⅱ		
担 当 者 名	佐野・湊・深町・四元・村田・小川・平澤・宮田		
科 目 コ ー ド	1220083	授 業 形 態	演習
学 年	4	開 講 期	前期
単 位 数	1	履 修 方 法	選択／作業療法士必修
授業の概要と方法	臨床実習Ⅳを受講するための準備として、実習生としての心得、疾患に応じた評価の選択、評価の実施、統合と解釈などを演習する。		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ○実習生としての心得を理解し、あいさつ、身だしなみに注意することができる。 ○疾患特性を理解し、適切に評価方法を選択することができる。 ○評価目的を理解し、適切に実施することができる。 ○評価結果を統合・解釈し、作業療法プログラムを立案することができる。 		
授 業 計 画			
1.	オリエンテーション		
2.	接遇について		
3.	〃		
4.	身体機能の評価演習		
5.	〃		
6.	身体障害に関するプログラム立案演習		
7.	〃		
8.	精神機能の評価演習		
9.	〃		
10.	精神機障害に関するプログラム立案演習		
11.	〃		
12.	発達評価演習		
13.	〃		
14.	発達障害に関するプログラム立案演習		
15.	〃		
成績評価の方法 【評価項目と割合】			
演習した内容をまとめたレポート、疾患特性に応じた作業療法プログラム立案レポートなどを総合的に評価する。			
授業外で行うべき学習 （準備学習・事後学習等）			
これまで学習してきた作業療法評価学や治療学を復習しておくこと。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
臨床実習録	九州栄養福祉大学・編		
参考書又は参考資料等			
授業中に紹介する。			
そ の 他 （受講生への要望等）			
清潔な実習着で演習を行うこと。評価に必要な備品の内、ゴニオメーター、メジャー、打鍵器、ストップウォッチなどは各自用意すること。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
担当教員アドレスは別途連絡します			

授 業 科 目 名		作業療法卒業研究	
担 当 者 名		大丸・奥村・佐野・岩田・湊・深町・村田・小川	
科 目 コ ー ド	1220084	授 業 形 態	演習
学 年	4	開 講 期	後期
単 位 数	4	履 修 方 法	選択
授業の概要と方法	卒業研究はこれまで取り組んできた研究テーマの集大成であり、学生は学習した理論と実践の体系付けに務めること。研究内容は規定に沿ってまとめ提出すること。完成後は学会形式で卒業研究発表会を行う。発表に当たっては、規定に従って運営も行う。		
授業の到達目標	1) 学生ひとりひとりが研究テーマを持つことができる。 2) 研究計画書及び予備調査に沿って、本調査を実施することができる。 3) 本調査の結果を分析し、論文規定に基づいて卒業論文を作成することができる。		
授 業 計 画			
1.	オリエンテーション	16.	本調査
2.	研究の心得	17.	本調査
3.	研究計画書作成	18.	中間報告
4.	研究計画書作成	19.	抄録作成
5.	研究方法論の検討	20.	抄録作成
6.	研究方法論の検討	21.	発表資料作成
7.	予備調査	22.	発表資料作成
8.	予備調査	23.	発表資料作成
9.	研究方法論の見直し	24.	発表資料作成
10.	研究方法論の見直し	25.	発表資料作成
11.	中間報告	26.	研究発表会
12.	本調査	27.	研究発表会
13.	本調査	28.	研究発表会
14.	本調査	29.	研究発表会
15.	本調査	30.	まとめ
成績評価の方法 【評価項目と割合】			
授業参加度（ゼミへの貢献度）		プレゼンテーション	提出物（様式は別途提示する）
40%		40%	20%
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
導担当教員の指導の下、学生は研究デザイン、データ収集、統計処理、報告書作成、研究発表（ポスター）の準備を自主的に進めていくこと。			
使用テキスト			
書籍名		著者	出版社
よくわかる卒論の書き方（やわらかアカデミズム・わかるシリーズ）		白井 利明, 高橋 一郎	ミネルヴァ書房
参考書又は参考資料等			
石黒 圭：この1冊できちんと書ける！論文・レポートの基本，日本実業出版社，2012 鎌倉 矩子：作業療法士のための研究法入門，三輪書店，1997 授業中にも紹介する			
そ の 他（受講生への要望等）			
研究機器の取り扱いには十分注意すること。 提出期限は厳守すること。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail		その他	
担当教員アドレスは別途連絡します。			

授 業 科 目 名	作業療法基礎演習		
担 当 者 名	大丸・奥村・佐野・澁・深町・四元・村田・小川・平澤・宮田		
科 目 コ ー ド	1220060	授 業 形 態	演習
学 年	4	開 講 期	後期
単 位 数	1	履 修 方 法	選択/作業療法士必修
授業の概要と方法	作業療法基礎演習は本学科が理想とする作業療法士像について確認する。作業療法の基礎科目毎に、オムニバス形式による講義を実施し基礎力の充実を図る。教科書に基づいた人体の構造と機能及び心身の発達、各疾患の特性、疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進、保健医療福祉とリハビリテーションの理念について総合演習する。		
授業の到達目標	作業療法基礎演習では、これまで積み重ねてきた作業療法の基礎科目について理解の深化を図るとともに、専門科目との関連性など総合力を身につける。 本学科が理想とする、基礎医学、リハビリテーション医学など作業療法における基本的知識(知性)を獲得している作業療法士を目指す。		
授 業 計 画			
1.	オリエンテーション、学長講話		
2.	脳・神経・筋系の解剖		
3.	内臓・感覚系の解剖		
4.	脳・神経・筋系の生理		
5.	感覚系の生理		
6.	呼吸・循環系の生理		
7.	機能解剖と運動生理		
8.	医学的リハビリテーションと予防医学、医療制度		
9.	保健医療福祉分野		
10.	人間発達、小児科系疾患と障害		
11.	疾病の病理と治療		
12.	内部障害、がん関連障害、老年期障害		
13.	骨関節障害、末梢神経、慢性疼痛		
14.	中枢神経の障害、神経・筋の障害		
15.	臨床心理、精神疾患と障害		
成 績 評 価 の 方 法 [評価項目と割合]			
定期試験	レポート課題	達成度確認試験	
80%	10%	10%	
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
国家試験過去問題(10年分)の基礎問題を予習し、内容を把握しておくこと。これまで使用してきた教科書を参考にして、疑問点があれば該当科目の教科書に立ち返り学習すること。達成度確認試験の結果を自己分析し、弱点箇所の克服に努めること。少人数のグループを作り、予習復習を行うとともに積極的に質問することを期待している。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
各科目の教科書			
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
各科目の教科書			
そ の 他 (受 講 生 へ の 要 望 等)			
出席を厳密に管理していく。報告・連絡・相談といった基本的マナーは必ず遵守すること。これまで学科の教育目標にあげた知識、技能および資質を備えたものであることが望まれる。			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail	その他		
奥村 : okumura@knwu.ac.jp			

授 業 科 目 名		作業療法専門演習	
担 当 者 名		大丸・奥村・佐野・澁・深町・四元・村田・小川・平澤・宮田	
科 目 コ ー ド	1220061	授 業 形 態	演習
学 年	4	開 講 期	後期
単 位 数	1	履 修 方 法	選択／作業療法士必修
授業の概要と方法	作業療法専門演習は専任教員による授業・演習、特別講義として副学長、学部長、教務・学生部長による専門講義、卒業生や有識者による教育講演を実施し、作業療法士としての資質向上を図っていくための多様な授業構成になっている。教科書及び臨床に基づいた評価学、治療学、地域作業療法や義肢装具などについて総合演習する。		
授業の到達目標	作業療法専門演習の目的は、本学の教育理念、学部・学科の教育目標が4年次に到達しているかを確認することであり、これまで積み重ねてきた作業療法の専門科目について理解の深化を図るとともに、臨床で応用できる総合力を身につける。		
授 業 計 画			
1.	オリエンテーション、発達障害分野		
2.	身体障害分野(中枢疾患)		
3.	身体障害分野(整形疾患)		
4.	身体障害分野(内部疾患)		
5.	身体障害分野(神経疾患)		
6.	精神障害分野		
7.	精神障害分野(急性期精神科作業療法)		
8.	精神障害分野(認知症)		
9.	卒業生による教育講演		
10.	評価法(筋骨格系検査)		
11.	評価法(高次脳機能検査)		
12.	評価学(発達検査)		
13.	臨床実習、基礎作業学		
14.	義肢装具、バリアーフリーとユニバーサルデザイン、福祉用具		
15.	地域作業療法学(関連法規、制度、地域作業療法、雇用就労支援)		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
定期試験	課題レポート	達成度確認試験	
80%	10%	10%	
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
国家試験過去問題(10年分)の専門問題を予習し、内容を把握しておくこと。これまで使用してきた教科書を参考にして、疑問点があれば該当科目の教科書に立ち返り学習すること。達成度確認試験の結果を自己分析し、弱点箇所の克服に努めること。少人数のグループを作り、予習復習を行うとともに積極的に質問することを期待している。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
適宜配布			
参考書又は参考資料等			
適宜プリントを配布する。			
そ の 他 (受講生への要望等)			
出席は厳密に管理していく。 無断欠席は減点の対象となる場合もあるので特に注意すること。 達成度確認試験の成績が基準以下の場合は補習講義を行う。報告・連絡・相談といった基本的マナーは必ず遵守すること。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
佐野：sano@knwu.ac.jp			

授 業 科 目 名		地域作業療法学	
担 当 者 名		大丸 幸	
科 目 コ ー ド	1220085	授 業 形 態	講義
学 年	3	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	卒業・作業療法士必修
授業の概要と方法	地域作業療法は、地域住民が家庭・地域・職業生活などにおける作業行動に不自由があつてそのために各生活課題の遂行に支障を来すあるいは恐れがある人に対して（対象）、作業行動の自立促進の立場から治療訓練指導援助することによって（手段）、人としての生活の再建・再構築を行い、人生課題に尊厳をもって主体的に遂行するよう（目標）、支援することである。そのため「地域保健学」等と連動して、人々が日常の活動に参加することができる様々な支援技術について事例学習する。		
授業の到達目標	1、地域活動に必要な各種制度や行政機関との連携システムについて知る。 2、地域で暮らす高齢、障害児者の支援および予防活動の実際を知る。 3、地域の支援事例（高齢・障害・母子）について、意見交流ができる。		
授 業 計 画			
1.	地域の生活と地域作業療法（P2～20）：地域診断と作業療法の事例演習		
2.	地域で求められる作業療法士の活動（P21～31）：地域リハビリテーション活動支援事業の事例演習		
3.	作業療法士がかかわる関連法規：医療制度（P111～147）：訪問作業療法の事例演習（P301～310）		
4.	作業療法士がかかわる関連法規：介護保険制度（P148～165）：介護予防事業の事例演習（P226～228）		
5.	作業療法士がかかわる関連法規：障害者制度（P166～169）：身体障害者福祉法と市町村の事例演習		
6.	作業療法士がかかわる関連法規：発達障害者支援法（P170～174、237～241）：特別支援教育の事例演習		
7.	訪問作業療法（P176～188）、比較的重度なケースの場合（P244～249）：グループ学習		
8.	事業所の運営 起業している OT の現状（P189～202）、通所リハビリテーション（P203～211）：グループ学習		
9.	介護老人保健施設（P212～217）、指定介護福祉施設（P218～222）：グループ学習		
10.	指定入居者生活介護（P223～225）、精神障害領域における地域作業療法（P229～236）：グループ学習		
11.	精神保健福祉法と地域移行の事例演習		
12.	通所介護を利用しながら在宅生活を続ける例（P250～257）、回復期から訪問リハを経て地域移行した例（P258～269）		
13.	住宅改修と生活の工夫：基礎と事例（P278～300）、自宅での入浴を希望された事例（P311～315）		
14.	地域作業療法に必要な知識（P44～109）：呼吸器疾患、がん、家族の理解と介護、喀痰吸引、連携のグループ発表		
15.	身体的な障害が重く家族の介護が困難な事例（P270～277）、回復期から地域へ（P317～325）		
成績評価の方法 【評価項目と割合】			
演習ワークシート	定期試験		
50%	50%		
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
準備学習：授業計画どおりに指定教科書を事前に読んで授業に臨むこと。 事後学習：事例演習やグループ学習のワークシートは、授業内容を復習して提出するもの。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
地域作業療法学（ゴールド・マスター・テキスト）	長崎重信監修	MEDICAL VIEW 2016	
参考書又は参考資料等			
小川恵子監修：地域作業療法学 第2版,医学書院,2005 蜂須賀研二編集：服部リハビリテーション技術全書,第3版,医学書院,2014 松下正明総編集：精神医療におけるチームアプローチ,中山書店,2000			
そ の 他（受講生への要望等）			
1、病気や障害があつて地域で暮らすための生活支援が必要となる出発点は医療です。 2、1～2年生までに学修した基礎教養、専門基礎、専門の各科目を踏まえて学修します。 3、「地域保健学」と連動して進めます。 以上をふまえてワークシートを作成してください。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
大丸：ohmaru@knwu.ac.jp			

授 業 科 目 名		障害支援工学	
担 当 者 名		寺師・片本・小林・江原	
科 目 コ ー ド	1200084	授 業 形 態	講義
学 年	3	開 講 期	前期
単 位 数	2	履 修 方 法	卒業・作業療法士必修
授業の概要と方法	障害者に対する工学的支援方法に関する既存技術及び将来展望の概要。 リハビリテーションへの応用ができる基礎を身につける。 各専門分野4人の講師が担当 主にプロジェクタを用いスクリーン投影する形式。		
授業の到達目標	障害者が日常生活で遭遇する問題やバリアを工学的支援によって解決できる基礎知識や方法を習得する。		
授 業 計 画			
1.	概論：工学的支援の過去・現在・将来及び福祉用具（寺師良輝）		
2.	コミュニケーション（1）：アクセシビリティ（寺師良輝）		
3.	コミュニケーション（2）：コミュニケーション支援機器（寺師良輝）		
4.	コミュニケーション（3）：インターフェース・入力装置（寺師良輝）		
5.	技術の人間化（1）：プロダクトデザイン（片本隆二）		
6.	技術の人間化（2）：デジタルファブリケーション（片本隆二）		
7.	技術の人間化（3）：人間工学（片本隆二）		
8.	移動（1）：車いす（小林博光）		
9.	移動（2）：電動車いす（小林博光）		
10.	移動（3）：自動車（小林博光）		
11.	移動（4）：介助移動（小林博光）		
12.	生活環境（1）：住環境整備の考え方（江原喜人）		
13.	生活環境（2）：住環境整備のための基礎知識（江原喜人）		
14.	生活環境（3）：住環境整備支援の実際（江原喜人）		
15.	生活環境（4）：公共施設・公共交通機関（江原喜人）		
成績評価の方法 【評価項目と割合】			
定期試験			
100%			
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
web サイト等を利用し再確認。 西日本国際福祉機器展の見学。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
講義中に適宜、資料を配付する。			
参考書又は参考資料等			
はじめての福祉機器選び方・使い方（一般財団法人 保健福祉広報協会） https://hcr.or.jp/useful/howto からダウンロード可能			
そ の 他（受講生への要望等）			
自分なりの意見を持てるだけの基礎知識を身につける。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail		その他	
office@sekisonh.johas.go.jp			

授 業 科 目 名		職業関連支援	
担 当 者 名		平澤 勉・宮田 浩紀	
科 目 コ ー ド	1220062	授 業 形 態	演習
学 年	3	開 講 期	前期
単 位 数	1	履 修 方 法	卒業・作業療法士必修
授業の概要と方法	<p>職業リハビリテーションの実際を解説し、障害を持ちながら働くことについての理解を深める。職業リハビリテーションに関する制度や支援機関、評価について説明する。就労支援における作業療法士の役割を、実例を通して考察する。</p> <p>第 3,4 回は、職業リハビリテーションサービス利用者を招き、実際の声を聴く演習を予定している。</p> <p>第 1,2 回,8-11 回を宮田、第 5,6,12-15 回を平澤が担当する。</p>		
授業の到達目標	<p>1. 職業リハビリテーションの動向、支援制度について説明することができる。</p> <p>2. 就労に関する評価について説明することができる。</p> <p>3. 就労への支援計画を協議・立案することができる。</p>		
授 業 計 画			
1.	オリエンテーション・障害者の就労（障害者にとっての職業の意味）		
2.	障害者の就労支援に関わる制度・関連諸機関		
3.	職業リハビリテーションの実際①		
4.	職業リハビリテーションの実際②		
5.	職業準備評価① 環境の評価と工夫		
6.	職業準備評価② 個人の評価 評価の種類		
7.	職業準備評価③ 様々な評価法		
8.	就労支援の実際例① 身体障害領域（脳卒中）		
9.	就労支援の実際例② 身体障害領域（脊髄損傷）		
10.	就労支援の実際例③ 高次脳機能障害		
11.	就労支援の実際例④ 視覚・聴覚・内部障害		
12.	就労支援の実際例⑤ 精神障害領域/統合失調症		
13.	就労支援の実際例⑥ 精神障害領域/統合失調症・うつ病		
14.	就労支援の実際例⑦ 精神障害領域/うつ病		
15.	就労支援の実際例⑧ 知的障害領域		
成績評価の方法 【評価項目と割合】			
定期試験	レポート	授業参加度	
50%	30%	20%	
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
<p>事後の復習を必ず行うこと。</p> <p>レポート作成時には、事後の学習を必要とする。</p>			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
なし			
参考書又は参考資料等			
<p>適宜資料を配布する。</p> <p>その他、必要に応じて授業中に案内する。</p>			
そ の 他（受講生への要望等）			
<p>グループワークによる協議や、評価体験など、演習を交えながら進めますので積極的に参加してください。質問については、ワークシートやオフィスアワーを活用してください。</p>			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail		その他	
宮田：miyata.h@knwu.ac.jp 平澤：hirasawa@knwu.ac.jp			

授 業 科 目 名	日常生活活動支援		
担 当 者 名	宮田 浩紀・村田 奈保子		
科 目 コ ー ド	1200069	授 業 形 態	演習
学 年	2	開 講 期	後期
単 位 数	1	履 修 方 法	選択/作業療法士必修
授業の概要と方法	<p>作業療法士の役割である対象者の生活再建を達成するために必要な知識と技術を習得するのがこの演習のねらいである。</p> <p>具体的には臨床で用いられている評価様式や介助方法について学び、臨床実習さらには臨床家として働く際の一助になるように基本的事項から応用的なものあるいは臨床で行われている介助技術の獲得を目標とする。</p>		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 作業療法における日常生活活動の支援（役割）について理解する 2. 作業療法対象者の日常生活活動に対する評価について理解する 3. 臨床で行われている介助方法（セルフケア・起居動作）が実施できるようになる 4. 日常生活の観察や記録の書き方がわかる 		
授 業 計 画			
1.	オリエンテーション：日常生活活動の概念		
2.	日常生活活動の基礎事項・活動の構成要素について		
3.	生活活動別の支援機器と用具の特性と種類、利用制度		
4.	移動のための支援機器と課題		
5.	観察と記録		
6.	ADL 支援機器と課題		
7.	各 ADL の特徴		
8.	ADL 評価① FIM 運動項目 認知項目		
9.	ADL 評価② BI その他		
10.	評価・支援の実践		
11.	起居動作の評価及び介助		
12.	疑似体験（片麻痺患者を想定したトイレ、入浴など）		
13.	片麻痺調理練習実践①		
14.	片麻痺調理練習実践②		
15.	まとめ		
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
定期試験	レポート		
70%	30%		
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
日常生活を送る上で支障をきたす方への支援について作業療法士が必要とされる理由を考えながら講義に挑むこと。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
作業療法学全書 改訂第3版 第11巻 作業療法技術学3 日常生活活動	酒井ひとみ編集 社団法人 日本作業療法士協会 監修	協同医書	
参考書又は参考資料等			
斎藤宏他：姿勢と動作 ADL その基礎から応用 第3版 適宜プリントを配布します			
そ の 他（受講生への要望等）			
講義と実技を交えながら進めていくので動きやすい服装または実習服で受講すること。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail		その他	
村田：murata@knwu.ac.jp 宮田：miyata.h@knwu.ac.jp			

授 業 科 目 名	地域作業療法学演習		
担 当 者 名	大丸・湊・深町・四元・村田・小川・平澤・宮田		
科 目 コ ー ド	1220087	授 業 形 態	演習
学 年	4	開 講 期	前期
単 位 数	4	履 修 方 法	選択
授業の概要と方法	医療・福祉・保健および周辺領域における作業療法の専門性に対する知見を深めるために、近隣のリハビリテーション関連の社会資源情報を演習することによって、学生のニーズに応じて学生自身に適性のある領域を自ら探索し、課題を設定して主体的に学習する。		
授業の到達目標	作業療法関連領域における社会資源情報を演習することで、地域作業療法の実態について、その事業の目的や内容の詳細について学習する。		
授 業 計 画			
1.	地域作業療法の社会資源情報について		
2.	社会資源の演習方法についてのオリエンテーション		
3.	精神科領域演習、身体障害領域演習、高齢期領域演習、小児領域演習×4回		
4.	各領域演習		
5.	各領域演習		
6.	各領域演習		
7.	各領域演習		
8.	各領域演習		
9.	各領域演習		
10.	各領域演習		
11.	各領域演習		
12.	各領域演習		
13.	総合発表		
14.	総合発表		
15.	演習結果のまとめ		
成 績 評 価 の 方 法 【評価項目と割合】			
演習のワークシート提出と発表内容			
100%			
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
演習方法に応じて、事前点検および事後学習のワークシートを提出する。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
関係資料を配布する。			
参 考 書 又 は 参 考 資 料 等			
北九州市リハビリテーション連絡協議会：社会資源情報冊子、2011 他			
そ の 他（受講生への要望等）			
社会資源情報は自ら学び、地域作業療法の活用方法について学習するものですから、主体的参加が求められます。			
担 当 教 員 の 連 絡 先 等			
担当教員 E-mail		その他	
大丸：ohmaru@knwu.ac.jp			

授 業 科 目 名		臨床実習 I	
担 当 者 名		奥村・深町・四元・村田・小川・平澤・宮田	
科 目 コ ー ド	1220035	授 業 形 態	実習
学 年	1	開 講 期	後期
単 位 数	1	履 修 方 法	卒業・作業療法士必修
授業の概要と方法	医療・福祉領域で障害を持たれた方への働きかけを見学し、作業療法との関連を理解します。各施設へはグループで訪問し見学実習を行います。指導者の指示を遵守し自ら行動することを心がけます。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会人として行動できる。 2. 障害を持った方とコミュニケーションをとることができる。 3. 「障害を持つ」ということを理解できる。 4. 障害を持った方の生活実態を知る。 		
授 業 計 画			
1.	実習オリエンテーション		
2.	接遇について <施設実習時の注意・配慮点などを中心に>		
3.	施設実習① <身体障害・精神障害・発達障害・福祉関連いずれか 1 か所での実習（以下同様）>		
4.	施設実習②		
5.	施設実習③		
6.	（学内）施設実習①～③の振り返り		
7.	施設実習④		
8.	施設実習⑤		
9.	施設実習⑥		
10.	（学内）施設実習④～⑥の振り返り		
11.	施設実習⑦		
12.	施設実習⑧		
13.	施設実習⑨		
14.	（学内）施設実習⑦～⑨の振り返り		
15.	実習のまとめ		
成 績 評 価 の 方 法 【評価項目と割合】			
授業態度	ポートフォリオ<デイリーノートを含む>		
20%	80%		
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
学外実習の前には施設調査、実習後にはデイリーノート作成の各 1 時間程度の学修が必要となります。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
なし			
参考書又は参考資料等			
授業中に適宜、資料を配布する。 市川和子、他：臨床実習とケーススタディ。医学書院、2005.			
そ の 他（受講生への要望等）			
①授業の進め方：基本的に毎回違う施設実習と学内実習を繰り返し、授業目標を達成します。			
②事前・事後学修：事前に実習施設について調べ、事後では施設実習での疑問についての自学と教員への質問を重視します。			
③その他履修者へ：デイリーノートは施設実習の翌日に提出します。 施設実習日は 10 分前行動を心がけてください。身なりや接遇には十分配慮してください。 *10 月中にインフルエンザの予防接種を済ませておいてください。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
担当教員アドレスは別途連絡します			

授 業 科 目 名		臨床実習Ⅱ	
担 当 者 名		奥村・深町・四元・村田・小川・平澤・宮田	
科 目 コ ー ド	1220088	授 業 形 態	実習
学 年	2	開 講 期	後期
単 位 数	2	履 修 方 法	卒業・作業療法士必修
授業の概要と方法	医療施設・福祉施設で1日実習（2回で1クール）を4施設見学、評価の経験などを行う。作業療法士や実習指導者が治療や活動をしている場面を見学し、作業療法士の役割を理解する。施設実習と学内実習、事前・事後学修を繰り返していく。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会人・医療人として行動ができる 2. 基本的な対象者への働きかけを臨床実習指導者の下で行うことができる 3. 作業療法評価や治療プログラムを見学し、対象者の全体像を推察できる 		
授 業 計 画			
1.	実習オリエンテーション 接遇について～施設内でのマナー、感染症対策～		
2.	評価実技演習		
3.	施設実習①の準備・予習		
4.	施設実習①-1		
5.	施設実習①-2		
6.	（学内）施設実習①振り返り/施設実習②の準備・予習		
7.	施設実習②-1		
8.	施設実習②-2		
9.	（学内）施設実習②の振り返り/施設実習③の準備・予習		
10.	施設実習③-1		
11.	施設実習③-2		
12.	（学内）施設実習③の振り返り/施設実習④の準備・予習		
13.	施設実習④-1		
14.	施設実習④-2		
15.	（学内）施設実習④振り返り		
成績評価の方法 【評価項目と割合】			
授業態度	ポートフォリオ（チェックリスト、デイリーノート含む）		
20%	80%		
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
学外実習の前には施設調査、実習後にはデイリーノート作成に各1時間以上の学修が必要です。			
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	
なし			
参考書又は参考資料等			
市川和子、他：臨床実習とケーススタディ,医学書院, 2005 適宜プリントを配布します			
そ の 他（受講生への要望等）			
①事前に実習施設について調べ、2年前期までの学修の復習を行うこと。事後は、施設実習での疑問について自学と教員への質問を重視します。			
②チェックリストは施設実習当日の帰校後に作成、提出し、デイリーノートは施設実習の翌日に提出すること。(期限厳守)			
③施設実習日は10分前集合を心がけ、身なりや接遇、感染対策には十分配慮すること。			
④10月中旬にインフルエンザの予防接種を済ませてください。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
担当教員アドレスは別途連絡します			

授 業 科 目 名		臨床実習Ⅲ	
担 当 者 名		大丸・奥村・佐野・澁・深町・四元・村田・小川・平澤・宮田	
科 目 コ ー ド	1220089	授 業 形 態	実習
学 年	3	開 講 期	後期
単 位 数	4	履 修 方 法	選択／作業療法士必修
授業の概要と方法	施設実習を通して、作業療法に必要な基本的評価技術を習得する。対象者の問題点を挙げ、適切な治療計画を考えることができるようになることを目的とする。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療人として望ましい態度や行動をとることができる。 2. 対象者の作業療法評価を計画・実施し、評価結果から全体像をまとめ、将来像を予想することができる。 3. 対象者の作業療法計画を立案できる。 4. 個人情報の保護に配慮した記録・報告ができる。 		
授 業 計 画			
1.	<p>後期(11～12月)に医療施設・福祉施設の1施設で4週間の評価実習を行う。</p> <p><実習内容> 医療人としての望ましい態度や行動を身につけ、個人情報の保護に配慮した記録・報告を行い、作業療法評価を計画・実施する。評価結果から全体像をまとめ、将来像を予想し、作業療法計画を立案するといったプロセスを実習する。</p> <p><実習後セミナー> 全体ディスカッション、実習分野別グループディスカッション、症例報告用の資料作成、症例報告、症例報告後のフィードバック（場合によって客観的な臨床演習の実施を含む）を実施する。</p>		
2.			
3.			
4.			
5.			
6.			
7.			
8.			
9.			
10.			
11.			
12.			
13.			
14.			
15.			
成績評価の方法 【評価項目と割合】			
実習指導報告書、症例研究発表、提出物、客観的な臨床実習の成績			
科目担当者の協議により決める。			
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
各分野の評価学を復習し、実施できるよう準備して臨むこと。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
臨床実習録	九州栄養福祉大学・編		
事例研究報告書作成指針（ICFモデル）	九州作業療法士学校連絡協議会 編		
参考書又は参考資料等			
学内授業中に、適宜紹介する。			
そ の 他（受講生への要望等）			
原則として各施設において所定実習日数の1/10を超えて欠席のある学生は成績評価の対象とはならないため、体調管理に努めること。 施設実習では10分前行動を心掛け、身なりや接遇には十分配慮すること。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
担当教員アドレスは別途連絡します			

授 業 科 目 名		臨床実習Ⅳ	
担 当 者 名		大丸・奥村・佐野・澁・深町・四元・村田・小川・平澤・宮田	
科 目 コ ー ド	1220090	授 業 形 態	実習
学 年	4	開 講 期	前期
単 位 数	8	履 修 方 法	選択／作業療法士必修
授業の概要と方法	作業療法士の責任と指導の下に、偏りなく各疾患、各病期、各年齢層の対象者について身体的、心理的、社会的状況を十分把握し、作業療法評価・治療プログラム立案・介入・プログラム実施ができるようになることを目的とする。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療人として望ましい態度や行動をとることができる。 2. 対象者の全体像を把握できる。 3. 対象者の作業療法計画を立案できる。 4. 対象者へ治療・指導・援助を実施することができる。 5. 作業療法の成果を確認し、必要に応じて作業療法計画を見直すことができる。 6. 記録・報告をすることができる。 7. 管理・運営について理解することができる。 		
授 業 計 画			
1.	<p>前期(5～7月)に医療施設の1施設で8週間の評価及び作業療法実施の実習を行う。</p> <p><実習内容> 医療人としての望ましい態度や行動を身につけ、対象者の全体像を把握し、作業療法計画の立案、実施・指導・援助を体験する。また、作業療法の成果を確認し作業療法計画を見直し、記録・報告及び管理・運営が理解できるまでのプロセスを実習する。</p> <p><実習後セミナー> 実習後セミナーでは、全体ディスカッション、実習分野別グループディスカッション、症例報告用の資料作成、症例報告、症例報告後のフィードバック（場合によって客観的な臨床演習の実施を含む）を実施する。</p>		
2.			
3.			
4.			
5.			
6.			
7.			
8.			
9.			
10.			
11.			
12.			
13.			
14.			
15.			
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
実習指導報告書、症例研究発表、提出物、客観的な臨床実習の成績			
科目担当者の協議により決める。			
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
事前に各自各分野の評価学を復習しておいて下さい。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
臨床実習録	九州栄養福祉大学 編		
事例研究報告書作成指針（ICFモデル）	九州作業療法士学校連絡協議会 編		
参考書又は参考資料等			
「臨床実習とケーススタディ」 医学書院			
そ の 他（受講生への要望等）			
施設実習では10分前行動を心がけ、身なりや接遇には十分配慮してください。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail		その他	
担当教員アドレスは別途連絡します			

授 業 科 目 名		臨床実習 V	
担 当 者 名		大丸・奥村・佐野・澁・深町・四元・村田・小川・平澤・宮田	
科 目 コ ー ド	1220091	授 業 形 態	実習
学 年	4	開 講 期	前期
単 位 数	8	履 修 方 法	選択／作業療法士必修
授業の概要と方法	作業療法士の責任と指導の下に、偏りなく各疾患、各病期、各年齢層の対象者について身体的、心理的、社会的状況を十分把握し、作業療法評価・治療プログラム立案・介入・プログラム実施ができるようになることを目的とする。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療人として望ましい態度や行動をとることができる。 2. 対象者の全体像を把握できる。 3. 対象者の作業療法計画を立案できる。 4. 対象者へ治療・指導・援助を実施することができる。 5. 作業療法の成果を確認し、必要に応じて作業療法計画を見直すことができる。 6. 記録・報告をすることができる。 7. 管理・運営について理解することができる。 		
授 業 計 画			
1.	<p>前期(7～9月)に医療施設の1施設で8週間の評価及び作業療法実施の実習を行う。</p> <p><実習内容> 医療人としての望ましい態度や行動を身につけ、対象者の全体像を把握し、作業療法計画の立案、実施・指導・援助を体験する。また、作業療法の成果を確認し作業療法計画を見直し、記録・報告及び管理・運営が理解できるまでのプロセスを実習する。</p> <p><実習後セミナー> 実習後セミナーでは、全体ディスカッション、実習分野別グループディスカッション、症例報告用の資料作成、症例報告、症例報告後のフィードバック（場合によって客観的な臨床演習の実施を含む）を実施する。</p>		
2.			
3.			
4.			
5.			
6.			
7.			
8.			
9.			
10.			
11.			
12.			
13.			
14.			
15.			
成績評価の方法 [評価項目と割合]			
実習指導報告書、症例研究発表、提出物、セミナー参加度、客観的な臨床実習の成績			
科目担当者の協議により決める。			
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）			
事前に各自各分野の評価学を復習しておいて下さい。			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
臨床実習録	九州栄養福祉大学 編		
事例研究報告書作成指針（ICFモデル）	九州作業療法士学校連絡協議会 編		
参考書又は参考資料等			
「臨床実習とケーススタディ」 医学書院			
そ の 他（受講生への要望等）			
施設実習では10分前行動を心がけ、身なりや接遇には十分配慮してください。			
担当教員の連絡先等			
担当教員 E-mail	その他		
担当教員のアドレスは別途連絡します			